

聖徒の道

6
1993



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1993年6月号



表紙——デンマークの多くの改宗者のひとり、アネテ・マチアセン・イアンセン姉妹は、宣教師のレッスンを受け入れただけでなく、自分も宣教師になろうと決意し、母国で2年間伝道した。(本誌「デンマークの海、土地、そして人々」pp.36-45参照。写真撮影ジャイルズ・H・フローレンス Jr.)

こどものページ表紙——写真撮影メラニー・シャムウェー

一般

大管長会メッセージ われらは正直なるべきを信ず 第一副管長ゴードン・B・ヒンクレー	2
特別な聖餐会 パット・オールレッド・バーネル	14
真実の教会を求めて アンジェロ・スカルプラ	16
中央アメリカの教会に関する談話	21
イノスのように祈る クリスティー・アン・ジャイルズ	24
ジョセフ・F・スミス——家族のきずなの祝福 アーサー・R・バセット	26
デンマークの海、土地、そして人々 ジャイルズ・H・フローレンス Jr.	36
感謝の歌 リサ・レイ・ターナー	46

青少年

きょうドンボトンボで エシナス・ムツマンジ	8
捜索と救助 ラリー・ヒラー	10
若人の広場	33

定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ——障害を持つ人を助ける	25

こども

フワン・カルロスと大会のシャツ ジャン・M・スミス	2
分かち合いの時間——しんでんは楽しいところ ジュディ・エドワーズ	6
トルーマン・O・エンジェル——王国の建せつ者 シャノン・W・アスラー	8
ハンカチーフ人形 ジュディ・フォードム	12
デビッド・O・マッケイ ケリー・リックス・アダムズ	14
エリコへの道 第二副管長トーマス・S・モンソン	16

聖徒の道

1993年6月号

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊—アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシントン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット

顧問：レックス・D・ピネガー、ジョン・H・グローバー、V・ダラス・メリル、ロバート・E・ウエルズ

編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

国際機関誌

編集主幹：ブライアン・K・ケリー
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー

工程管理：トム・フォセット
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ
アートディレクター：スコット・D・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン、ステイブ・デイトン、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー

配送部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1993年6月号第37巻第6号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約 1,100円(送料共)
普通号 150円、大会号 350円

Copyright © 1993 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1991年10月 翻訳承認—1991年10月 原題—International Magazine JUNE 1993. Japanese. 93986300.
●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106 東京都港区南麻布5-10-30 管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213 川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

読者からの便り

ロシアで読むリアホナ

「リアホナ」(スペイン語版)に載せられる興味深く役立つ記事に感謝しています。

私は現在ロシアに住んでいるので、特にこの機関誌に感謝しています。ペルーのリマから農学を学びに来て3年になるのです。

教会員になったのは1985年でした。私はここでの勉強を終えた後、専任宣教師としてまたここに帰って来たいと思っています。

ロシアにおいて、教会は急速に成長しています。教会員の多くはモスクワやサンクトペテルブルグに住んでいますが、ウクライナのキエフに住んでいる会員もいます。

私は世界中の末日聖徒の若人たちと、救い主への信仰と希望の証を分かち合いたいと思っています。私たちはたくさんの方の事をなすげられるでしょう。

ロシア、クラスノダール
エスアルド・コンドリ・ママーニ

有力な伝道の道具

1991年4月号のこのページに掲載された私の手紙、「生きた模範」がもたらした結果を報告したいと思います。

私の手紙が載ったことで、「リアホナ」(ポルトガル語版)への感謝の気持ちと証を分かち合いたいと望む気持ちはさらに大きくなりました。

私は友人たちにこの手紙の記事を見せました。すると、そのうちのひとりが「リアホナ」とその内容に関心を示したのです。そして目を通すうちに彼の興味がさらにわいて、この機関誌についてさらに知りたがりました。私が年間購読のプレゼントを申し出ると、すぐに承知してくれました。

友人の反応を見て、「リアホナ」が

単なる雑誌ではなく、有力な伝道の道具になることを確信しました。「リアホナ」を見れば、世界中の末日聖徒の生活の中にイエス・キリストの福音が生きているのがわかります。また、愛する教会幹部のかたがたの靈感あふれるメッセージを目にし、常に歩みを義に向けることができます。「リアホナ」に掲載される、心を鼓舞する話を読んでいると、福音を实践している兄弟姉妹たちの勇気と働き、証と信仰のすばらしい模範に奮い立たされます。彼らの経験は私たちに良い影響を与えてくれます。「リアホナ」は大切な宝物です。教会員でない友人に機関誌をプレゼントするならば、彼らの家庭に回復された福音を紹介する仲立ちとなれます。私たちは、このようにやさしく楽しい方法を用いて伝道しています。

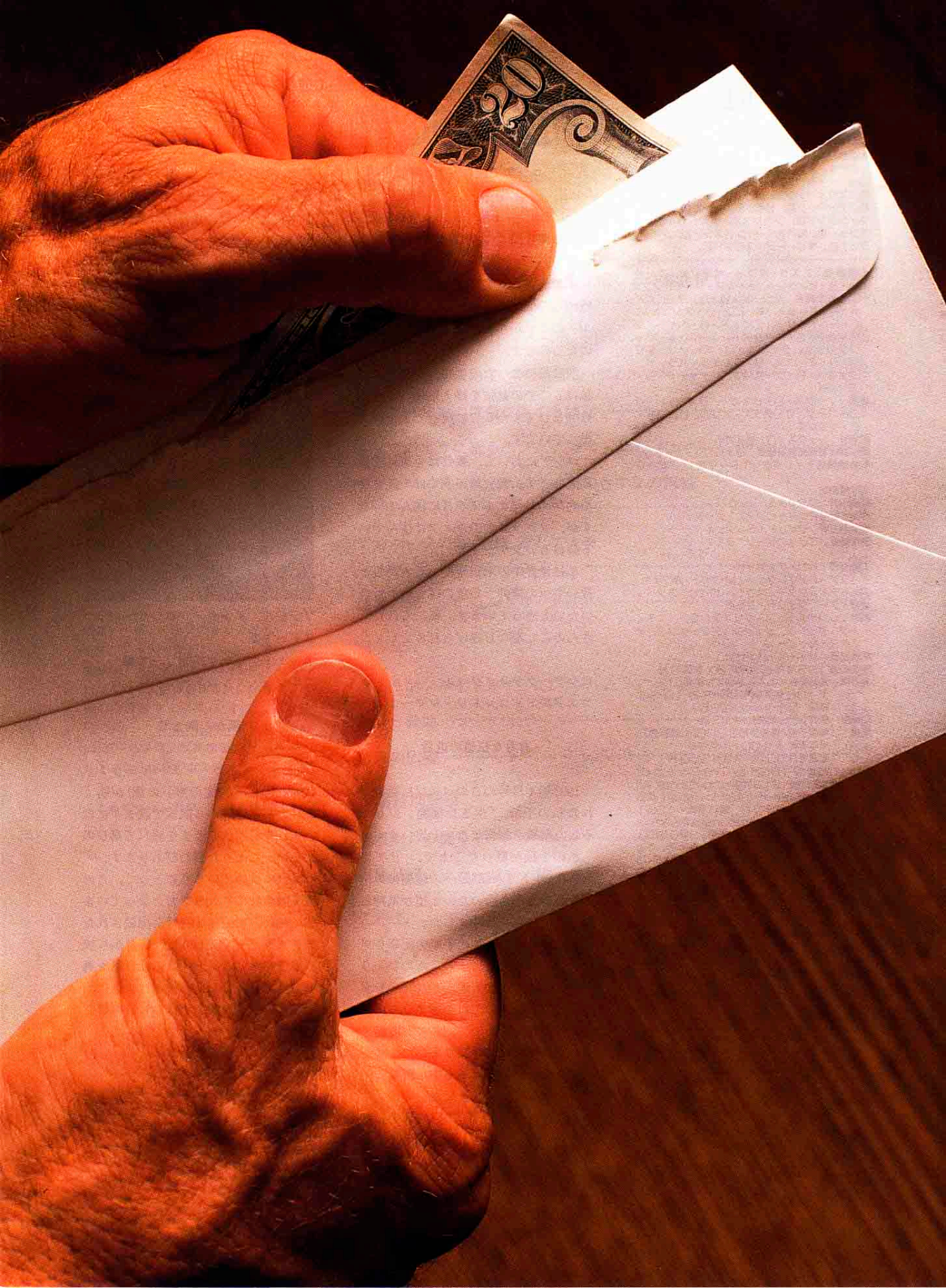
ブラジル、ポンタ・グロッサ・パラナステキ部
ポンタ・グロッサ第2ワード部
エルソン・カルロス・フェレイラ

隅から隅まで

「シヨン・トゥー・チー・シヨン」(中国語版。「聖徒の声」の意)が届くたびに、私は隅から隅まで読まずにはいられません。みたまを感じて喜びの涙を流すこともたびたびあります。

兵役に就いている私にとって、この機関誌はとても大きな力となっています。特に、1992年8月号に掲載されたアンモンの民の2,000人の若者から成る軍隊を率いるヒラマンの絵は私を勇気づけてくれました。彼らはまさに、正義と勇敢さを示すすばらしい模範だと思います。

台湾、台北西ステキ部
三重ワード部
張欽凱



われらは 正直なるべきを信ず

第一副管長

ゴードン・B・ヒンクレー

数多くの匿名の手紙が私の元に寄せられますが、その中に特に私の関心を引いたものが1通ありました。20ドル紙幣が1枚同封されたこの短い手紙には、何年も前に私の家を訪ねてきた時のことが記されていました。その時、玄関のチャイムを鳴らしても返事がなかったので、ドアを押してみたところ、たまたま鍵がかかかっていませんでした。そこで家の中に入って、歩き回り、鏡台の上に20ドル札が1枚あるのを見つけ、それを失敬して立ち去ったということでした。それから何年にもわたって、その人は良心の呵責かしやくに悩まされました。そしてようやくそのお金を返してきたというわけです。

その人は、私のお金を借用していた期間に相当する利息のようなものは何ひとつ同封してきませんでした。しかし、私は彼の苦汁に満ちた手紙を読み進めるうちに、「4半世紀にもわたって、良心の呵責にさいなまれ続けてきたこの人は、それだけで高すぎるほどの利息を払ったのではないか」と思うようになりました。無断借用したそのお金を完全に返却するまで、この人には少しも平安がなかったのです。

地元の新聞が似たような記事を掲載したことを覚えています。ユタ州政府に匿名の手紙が届き、中に200ドルが同封されていました。その手紙にはこう書かれてあったそうです。「同封したお金は、私が州政府の公務員だった期間に無断借

私はその手紙を読みながら、「この人は4半世紀にもわたって、絶えず良心の呵責かしやくに悩まされるという高い利息を払い続けていたのだ」と思うようになりました。

用した封筒や用紙、切手などの代金です。」

もし、わずかだからという思いからあちこちで無断借用していた人々が、不正直に取得したそれらのものをことごとく返却するとしたら、政府や会社にはどれほど巨額のお金が戻るのでしょうか。

スーパーマーケットの食料品一つ一つの値段にも、またデパートで買うネクタイやブラウスの値段にも、万引きの経費が上乗せされています。私たちがその分を払わされているのです。

不正直であることの代償

自分の名声を実に安い値段で売り渡してしまう人がいるのは、どうしたことでしょうか。ある著名な人物が5ドルにも満たない品物を盗んだために逮捕されたという記事が、広く世間を騒がせたことがありました。その人物が法廷で実際に有罪を宣告されたのかどうかはわかりません。しかし、その小さな犯罪のために彼が世間から糾弾されたことは確かです。ある意味では、その愚かな行ないのために、彼がせっかく積み上げてきた、また将来積めるはずだった善行の多くが、無に帰してしまっただけです。

私たちは飛行機に乗るたびに、余分な料金を上乗せされて払いますが、それは乗客とその手荷物の安全を確保する目的で使われます。その金額を集めたら数百万ドルにもなろうと思われませんが、これはみな、ひと握りの驚くほど不正直な人間が、脅迫やゆすりによって、自分に所有権のないものを手に入れようとしているからなのです。

水増しされた保険金の請求、社費の不正請求、偽の領収書、偽造文書。こうした事例は、信じられないほどの規模で、不正直な行為が広まっていることの徴候です。多くの場合、一人一人がかかわる金額はそれほど大きくないかもしれませんが、合算すれば、ひとりが不正直であるがための損失はばく大な金額になります。

一人一人が正直であること

人によっては、この正直という特質を、きわめてありふれたものであると考える人がいます。しかし、私は、

正直こそ福音の最も根幹となるべき大切な資質であると確信しています。正直な人がいなければ、私たちの生活も私たちの社会の基盤も崩壊し、醜悪と混乱を残すだけとなるでしょう。

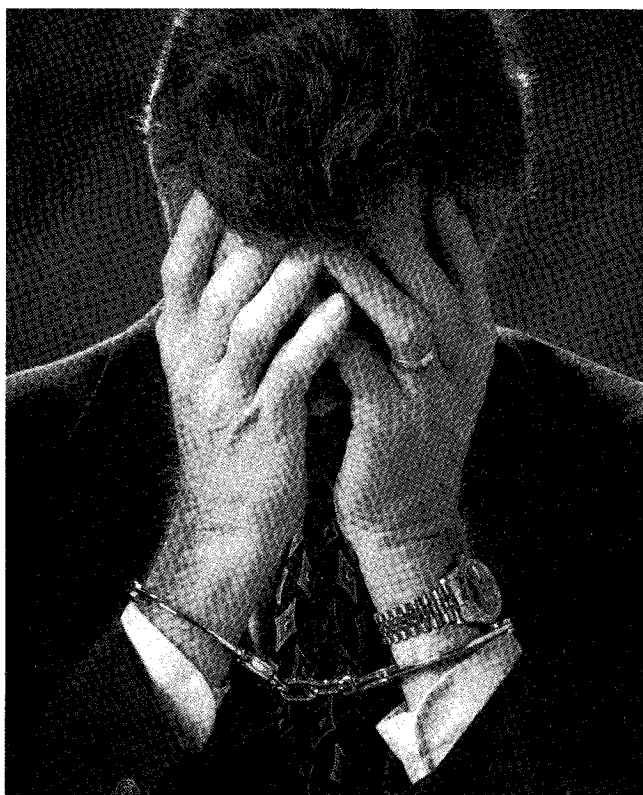
創世記には次のようなすばらしい聖句が記されています。「アブラムはソドムの王に言った、『天地の主なるいと高き神、主に手をあげて、わたしは誓います。

わたしは糸一本でも、くつひも一本でも、あなたのものは何も受けません。』」（創世14：22-23）

幸いなことに、人は正直でなければならないという原則に従って生活している人がまだまだ多くいます。日本の大阪から名古屋まで列車で移動した時のことです。名古屋駅では多くの友人たちが、私たちを出迎えるために待っていてくれました。うれしさのあまり、妻は財布を列車の中に置き忘れてしまいました。私たちはすぐに東京駅に連絡を入れました。3時間ほどたって、列車が東京駅に到着したころ、駅から財布が見つかったという電話連絡が入りました。帰国は東京経由ではなかったのですが、それから1か月以上たったころ、ソルトレークシティーの自宅にその財布が届けられました。財布の中のものは何ひとつなくなっておらず、置き忘れた時のまま戻ってきたのです。

残念ながら、そのような経験は今ではだんだんと少なくなってきています。子供のころ、アメリカ人である私たちは、ジョージ・ワシントンが桜の木を切ったことを正直に告白した話や、エーブラハム・リンカーンがわずかなお金を持ち主に返すために、遠い道のりを歩いて行った話などを聞かされて育ったものです。しかしながら、そうした正直な生き方に寄せる信頼を打ち砕こうと、暴露話を巧妙に作り上げ、熱心に吹聴する人間もいます。特にマスメディアは、非常に多くの場合、醜悪な方法をさまざまに駆使し、次々に偽りの情報をもっともらしく流しています。

かつて、人々の道徳観や倫理観を基準にして統制がとれていたものが、今では法律によって対処しなければならなくなっています。そのため、新たな法令が次々と制定され、その法律を施行するための機関の経費も、増大の一途をたどっています。刑務所の施設も毎年のように整備拡充されています。それでも、不正直の流れはとどまるところを知らず、その勢いは一向に衰えを見せません。



ある著名な人物がほんの数ドルの品物を盗んだために逮捕されたという記事を読んだことがあります。その人物が法廷で実際に有罪を宣告されたのかどうかはわかりません。しかし、その小さな犯罪のために彼が世間から糾弾されたことは確かです。

昔からあった偽り

もちろん、偽りというのは今に始まったことではありません。人類の歴史と同じくらい昔から存在しています。「主はカインに言われた、『弟アベルは、どこにいますか。』カインは答えた、『知りません。わたしが弟の番人でしょうか。』」（創世4：9）

古代イスラエルの予言者マラキは、次のように尋ねています。「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。

あなたがたは、のろいをもって、のろわれる。あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。」（マラキ3：8-9）

五旬節すなわちペンテコステの奇跡（使徒2：1-21参照）の直後ですら、教会にすでに加入していた人たちの間で人を欺く行為が見られることもありました。当時改宗した人たちは、自分の土地を売り、その代金を持つ

て来て、使徒たちの足元に置いたものでした。

「ところが、アナニヤという人とその妻サツピラとは共に資産を売ったが、共謀して、その代金をごまかし、一部だけを持ってきて、使徒たちの足もとに置いた。

そこで、ペテロが言った、『アナニヤよ、どうしてあなたは、自分の心をサタンに奪われて、聖霊を欺き、地所の代金をごまかしたのか。

売らずに残しておけば、あなたのものであり、売ってしまっても、あなたの自由になったはずではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人を欺いたのではなくて、神を欺いたのだ。』

アナニヤはこの言葉を聞いているうちに、倒れて息が絶えた。……

三時間ばかりたってから、たまたま彼の妻が、この出来事を知らずに、はいってきた。

そこで、ペテロが彼女にむかって言った、『あの地所は、これこれの値段で売ったのか。そのとおりか。』彼女は『そうです、その値段です』と答えた。

ペテロは言った、『あなたがたふたりが、心を合わせて主の御霊を試みるとは、何事であるか。……』

すると女は、たちまち彼の足もとに倒れて、息が絶えた。」（使徒5：1-5, 7-10）

盗みや姦淫における不正直

今日では、不正直だからといって、アナニヤやサツピラのように息が絶えるわけではありませんが、心の中にある何かが死ぬこととなります。良心は窒息し、人格は傷つき、自尊心は消え失せ、誠実さは死に絶えるのです。

シナイ山で、主はご自分の指をもって、石の板に次のような律法をお書きになりました。「あなたは盗んではならない。」（出エジプト20：15）この律法に、拡大解釈や正当化の余地はありませんでした。さらに、この律法にあわせて、ほかに3つの戒めも与えられました。これらの戒めのどれをとっても、違背する場合には必ず不正直が伴います。「あなたは姦淫してはならない。」「あなたは偽証してはならない。」「あなたはむさぼってはならない。」（出エジプト20：14, 16, 17参照）

不正直を伴わない姦淫などというものが存在するでしょうか。言葉を換えて言えば、この邪悪な行為は「だま

し取る」ことなのです。私が、姦淫とはだまし取ることと考えるのは、それが徳を奪い、貞節を奪い、神聖な約束を奪い、自尊心を奪い、真理を奪う行為だからです。さらに姦淫は欺くことでもあります。この行為は、個人の不正直な行ないの中でも最悪のものです。それは、最も神聖な人間関係に対する裏切りであり、神と人の間で交わした聖約と約束を否定することだからです。これはまた信頼に対する卑劣な裏切りであり、さらに、神の律法を利己的な動機でないがしろにすることでもあります。ほかの不正直な行ないと同様、こうした行為の結果として残るものは、悲しみと苦しみ、そして悲嘆に暮れる配偶者と裏切られた子供たちなのです。

偽りを言うこと

「あなたは偽証してはならない。」この戒めの中心にも、不正直に対する警告が見られます。27年間投獄されていた、ある女性の物語がテレビで伝えられたことがありました。その女性は複数の証人の証言によって有罪を宣告されていましたが、その後、証人たちはそれがうその証言であったと告白したのです。これは極端な事例だとは思いますが、偽証した人々の偽りの舌によって、評判が損なわれたり、心が傷つけられたり、仕事上の損害が生じたりした事例を耳にしたことはないでしょうか。

先日1冊の歴史書を読みましたが、その本は第二次世界大戦中に各国で行なわれた詐欺まがいの戦略について、詳細に書かれた長編の記録でした。この本のタイトルは、ウィンストン・チャーチルの次の言葉をそのテーマとしています。「戦時中、真実はきわめて貴重なため、その周囲には絶えずうそというボディガードを随行させている。」（ホートン・ミブリン「第二次世界大戦」第5巻『争いの終結』p. 383）この本を読むと、戦争の当事者たちが両陣営とも、いかに多くの欺瞞を用いていたかがわかります。そして、読み進めるうちに、戦争とは悪魔の策略であって、戦争で最大の犠牲となるのが真実だという結論に、ここでも到達することでしょう。

残念なことに、平和条約が締結された後でも、長きにわたってごまかしや偽りが平気で横行しています。戦時中に巧妙に使われたごまかしの手口の中には、平和な時代にあっても、なおその魔の手を伸ばし続けているもの



かつて、「人が一度口から出した言葉は契約書と同じように信用できる」と言われていたことがあります。自分に託されている神聖な信頼にこたえようとするなら、私たちは正直かつ真実でなければなりません。

があります。そうなると、まるで風土病のように悪が広まり、その毒性も増してゆくのです。

貪欲

「あなたはむさぼってはならない。」不正直で、人を腐食する、このむさぼりの心は、世の中の大部分の悲しみの根源ではないでしょうか。禽欲な人というのは、なんと安い代価で自分の命を取り引きしているのでしょうか。私は以前、ある財務機関の役員の動向を扱った本を読んだことがあります。会長が死去すると、前任副会長がその地位をねらいます。この話の中心となるのは、有能で人からも尊敬されていたひとりの男性でした。彼は、ほかの役員たちを出し抜こうとする欲望のために、自分のそれまで従ってきた原則を次々に捨てていき、最終的にはたんなる、自分の生活も破綻してしまうのです。彼は、その過程で、自分が会長となろうとしていた機関まで、壊滅寸前に追い込んでしまうのです。もちろん、これはフィクションです。しかし、実業界や政界、またもろもろの機関の歴史を見てみると、食欲な人々が、利己的で不正直

な方法を使ってでも昇進したいという欲望のために、人を陥れ、最終的には自分も破滅してしまう事例が数多くあります。

善良な人々や、有能で善意に満ちた人々であっても、その人格をつまらぬものと取り引きしてしまうと、やがてそのつまらぬものがだんだん大きな存在になってきます。彼らの夢が、恐ろしい悪夢になってしまうのです。

正直な人は、神の最も気高い作品である

狡猾こうかつさもうそも偽りもない人というのは、貴重で珍しい宝石のような存在です。箴言の作者はこう言っています。

「主の憎まれるものが六つある、^{いな}否、その心に、^い忌みきらわれるものが七つある。

すなわち、高ぶる目、偽りを言う舌、罪なき人の血を流す手、

悪しき計りごとをめぐらす心、すみやかに悪に走る足、偽りをのべる証人、また兄弟のうちに争いをおこす人がこれである。」(箴言6：16-19)

昔イギリスの詩人が語った賛美の言葉は、今なお変わらぬ真理です。「正直な人は、神の最も気高い作品である。」(アレクサンダー・ポープ「人間論」)正直な人には、ほかの徳も備わってくるからです。

正直は生き方の基本である

末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰箇条第13条では、次のように明言しています。「われらは、正直、真実、貞潔、慈善、高德なるべきこと、およびすべての人に善を行うべきを信ず。」

自分に託されている神聖な信頼にこたえようとするなら、私たちは正直でなければならず、真実でなければならず、そして高德でなければならないのです。かつて、私たちの民の間で、「人が一度口から出した言葉は契約書と同じように信用できる」と言われていたことがあります。私たちは、信用や正直という点で、先人よりも劣ってはいないでしょうか。

正直の原則に従って生活している人々は、主が確かに祝福して下さることを知っています。真理の光明の前

に顔を上げ、いかなる人の前であっても何らやましいところがないのは、正直な人々の気高い権利です。一方、もしこの教会の会員の中に、自分を変えていく必要があると感ずる方がおられたなら、今この時から始めようではありませんか。

兄弟姉妹の皆さん、主はその民が正直であるよう強く望んでおられます。私たちが皆、あらゆる人間関係において、またあらゆる行動において、真心から正直な者となれるよう、心から願っています。私たちが神からもたらされる強さを求めるなら、確かに神は助けてくださり、私たちの心の平安も私たちの人生も、豊かなものとなるでしょう。私たちとともに住み、交わる人々に祝福がありますように。そして、神が愛に満ちたやさしきで私たちを祝福し、導いてくださいますように。□

話し合いのポイント

1. 正直こそ福音の最も根幹となるべき大切な資質である。
2. 正直な人がいなければ、私たちの生活も私たちの社会も崩壊し、醜悪と混乱を残すだけとなる。
3. 人が不正直になれば、良心は窒息し、人格は傷つき、自尊心は消え失せ、誠実さは死に絶える。
4. 十戒のうち、少なくとも4つの戒めで、正直という特質がその中心となっている。それは、盗むな、姦淫するな、偽証するな、むさぼるな、という4つの戒めである。
5. 正直であれば、やましい気持ちを持たずに人の前に立つことができる。正直な人は祝福されて心の平安を賜わり、神の愛と恵みとにあずかる。

きょうドンボトンボで

エシナス・ムツマンジ

正直であったために、
彼女はすばらしい報いを
受けました。
お金よりもはるかに大切な
ものを得たのです。

今 朝早く、私はジンバブエのドンボトンボにある役所へ行きました。並んで待っていると、女の人が20ドル札を地面に落としました。私が「お札が落ちましたよ」と言うと、彼女は拾って「ありがとう」と言いました。

並んでいた周りの人たちが口々に言いました。「ばかだね、まったく。お金を拾って、何か好きなものを買えばよかったのに。」

でも私はこう言いました。「いいえ、そんなこと、絶対にできません。だって私は神様の子供なんですから。」

人々が黙ってしまうと、私の後ろに並んでいたおじいさんが静かに話しかけてきました。「君は教会に行っているのかね。善良そうな娘さんだと思ったもんでね。」

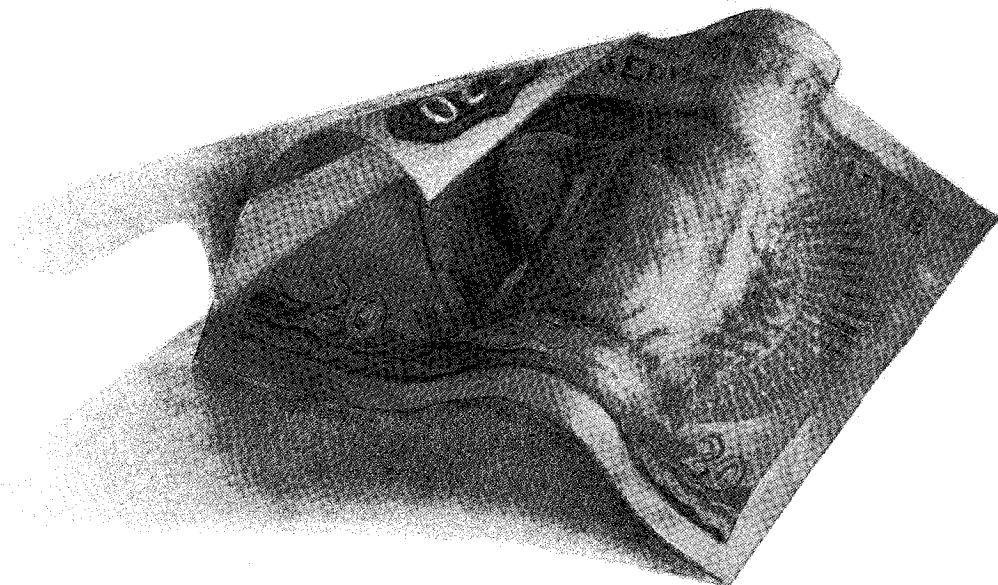
「はい、行っています。」

おじいさんは、「何という教会だね」と尋ねてきました。

「末日聖徒イエス・キリスト教会といます。もしよろしければ、ドンボトンボ会館に火曜日の夕方5時半か日曜日の10時半に来てください。お待ちしております。」

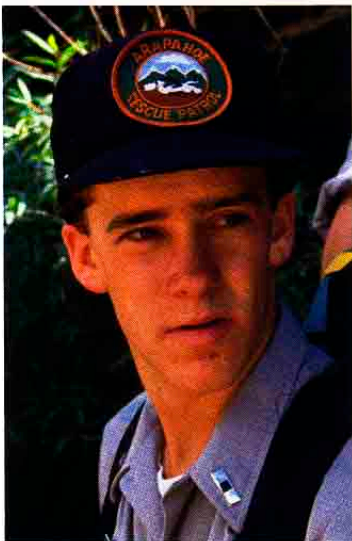
するとおじいさんは、こう言ってくれたのです。「ああ、それはいい。じゃあ行ってみるよ。」

ですからきょう自分のしたことに、私は大きな喜びを感じています。□





搜索と救助



タッドはすばらしい青年です。
でもあなたが幸運に
恵まれている間は、
あなたを捜しに
彼がやって来ることは
ないでしょう。

ラリー・ヒラー
PHOTOGRAPHY BY THE AUTHOR

タッド・ジェソップは自分のために用意された誕生日会をすっばかしてしまっただけではありません。約束した時間に友人の家に行けなかったのです。

高校の学期末試験でも、ある人を捜すために途中で抜けたことがあります。

彼はこう言います。「たとえ1年のうちで一番盛大なダンスパーティーに行くデートの約束があっても、しかるべき人からの電話がかかってくれば取りやめるでしょうね。」

あなたなら、このような人を信頼できますか。それでは次の状況を考えて



みてください。

9歳の少年が道に迷い、暗やみの中をよるめきながらさまよっています。凍りつくような夜。見えるものは暗い空に黒く浮かび上がる木や山ばかりです。そんな時、少年の耳に声が聞こえてきました。少年の名を呼ぶだれかの声です。少年はおびえてしまい、黙っています。

近くでは、訓練を積んだ搜索方法に従って、タッド・ジェソップが自分の

率いる救助隊に指示を与えていました。タッドは日曜の晩のファイヤサイドの途中で、アラバホ救援パトロール隊の隊員に電話で呼び出されたのです。タッドと隊員たちは懐中電灯や互いの声を頼りに、規定の搜索方法で、荒地の中を進んでいきます。

搜索は翌朝まで続きました。疲れと寒さで隊員たちも感覚を失ってきました。それでも彼らの叫びにこたえる少年の声は聞こえてきません。数時間た

たないうちに、無事道路に出てきた少年を森林警備隊が発見したという知らせが、無線で入ってきました。タッドと隊員たちが疲れ切って家路に就く一方で、少年は両親と喜びの再会をしました。そして検査のために病院に運ばれて行ったのです。

タッド・ジェソップは18歳です。コロラド州リトルトンのアラバホ救援パトロール隊でボランティアとして働いて2年半たちます。タッドは、もう数





え切れないほどの捜索救助の任務を遂行してきました。ここでお話しした少年のような例はいくらでもありとタッドは言います。タッドの率いる10人の隊員たちは足が痛くなるほど何時間も、ときには何日も歩き回って、声がかれるまで叫ぶことがよくあります。そんな中、別の隊が、行方のわからなかった子供を両親の元に連れ帰って心温まる思いをする場面を見たり、負傷したハイカーからお礼の言葉をもらっているのを聞いたりすることがあります。

「ほかの隊が遭難者を発見する場合はほとんどです」とタッドは言います。たいてい、多くの隊がそれぞれに担当する地域を割り当てられて捜索をします。「ほとんどの捜索救助活動は、決められた地域を捜し回った挙げ句、そこに遭難者がいないことがはっきりするだけなんです。退屈に聞こえるかもしれませんが、それもだれかがしなければならぬ大切な仕事です。」

実際に道に迷った子供や負傷したハイカーを見つけて温かな気持ちを感じる機会がほとんどないのなら、タッドやほかの隊員たちは何を励みにしているのでしょうか。「遭難者の気持ちになることですよ」とタッドは言います。「だれかが山のどこかで遭難し、苦しんでいると思っただけで、眠ってなんかいられませんからね。」遭難者を見つけて感動を味わうのがどの隊であるかは関係ありません。「ただ、遭難者が見つかったと聞くことが何よりの喜びなのです。」

もちろん、遭難するのは子供だけではありません。10代の青少年や大人の場合もあります。ロッククライミング

をしていて危険な目に遭ったり、ハイキングをしていて道に迷ったり、負傷したりする人もいます。ある人は不注意のために、またある人は判断を誤ったために遭難するのです。どのような理由であれ、タッドと仲間たちは皆、何をしているときでも中断して救助活動に参加するのです。そのために、タッドはどこへ行くにもポケットベルを身につけています。誕生会に行けなかったのも、学期末試験を受け直すことになったのも、それからダンスパーティーに行けなくなるのも、すべてこうした理由によるのです。(タッドによると、それはほかの仲間も同じだそうです)

タッドとアラパホ救援パトロール隊のほかの高校生の仲間たちは、応急手当の仕方や捜索方法、非常時の救難法、がけでの救助法などを訓練しています。このパトロール隊は、資格ある成人職員によって指揮された重要な組織で、郡保安官の管轄の下に運営されています。

タッドは隊長として常に隊員たちの精神的、肉体的な状態を気遣わなければなりません。いくら訓練していても、疲労や空腹のために隊員たちが弱っていると、大きな失敗をすることがあるからです。「隊長として、私の第一の責任はこの隊にあります。つまり隊員たちの安全を確保することです」と彼は言います。「遭難者のほかに、さらに犠牲者を出してはならないのです。」これが、タッドが真剣に取り組んでいる任務です。

皆さんもその気になれば、これと同様に刺激的で重要な事柄に没頭するこ

ともできるでしょう。しかし、タッドの祝福師の祝福には、生活の中で霊的な面でのバランスを取る必要があると書かれています。そしてタッドは、パトロール活動を優先すべきでないときは、そうしないように気をつけています。「私たちが行なっていることは良いことです。だからといって、福音よりも大切なことだとは思っていません。」

彼は葛藤を感じたりはしないのでしょうか。「それはたくさんありますよ。たとえば日曜日に開かれる訓練会など、年に2度しかなくて、行く必要がある場合は参加することもあります。それから日曜日にだれかが遭難した場合は、捜索救助のために出勤します。でも、特別行く必要のない小規模の訓練会のような場合は教会を優先します。」

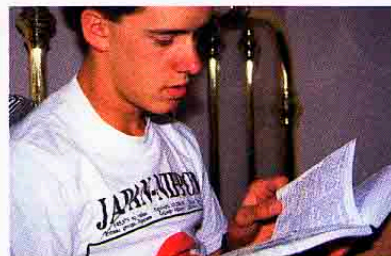
タッドに生活の中での霊的な面について話してもらおうと、捜索救助活動はいくつかの点で福音と一致すると考えているのがわかります。

捜索救助という概念そのものが福音と一致しているのです。タッドはステーク部の青少年の活動委員やセミナー委員として奉仕してきました。彼は、それらの機会を通して、いなくなった人々を捜すということの大切さを学びました。こう語っています。「ユースカンファレンスのテーマが『迷える人を捜し、助ける』だったことがあります。これは私が発案したのではなく、ほかの委員の人が提案してくれたものです。」

どちらの場合の捜索と救助も、ただ人を助けたいと思う以上のものが要求されます。効果的に行なうためには訓

タッドをはじめとしてパトロール隊の隊員たちは、応急手当ての仕方や捜索方法、非常時の救難法、がけでの救助法などを訓練している。彼らが目指すのは、自分自身の身を危険にさらすこ

となく、人々の生命を救うことである。しかし、タッドの個人的な訓練には、聖典学習、日々の祈り、セミナーへの出席が含まれている。



練と準備が必要とされるのです。

捜索救助の訓練と同様に、タッドは自分の霊性の向上のために、日々の祈りや聖典学習、そして教会の集会やセミナーへの出席を欠かしません。

タッドは日ごろモルモン経と「^{キリスト}基督イエス」をよく学んでいます。タッドと話をすれば、彼がどれほど聖典を深

タッドは捜索救助活動に参加する一方で、もうひとつ別の任務を遂行するために準備している。それは、群れに帰されるべき、救い主の「迷える羊」を探し出すことである。

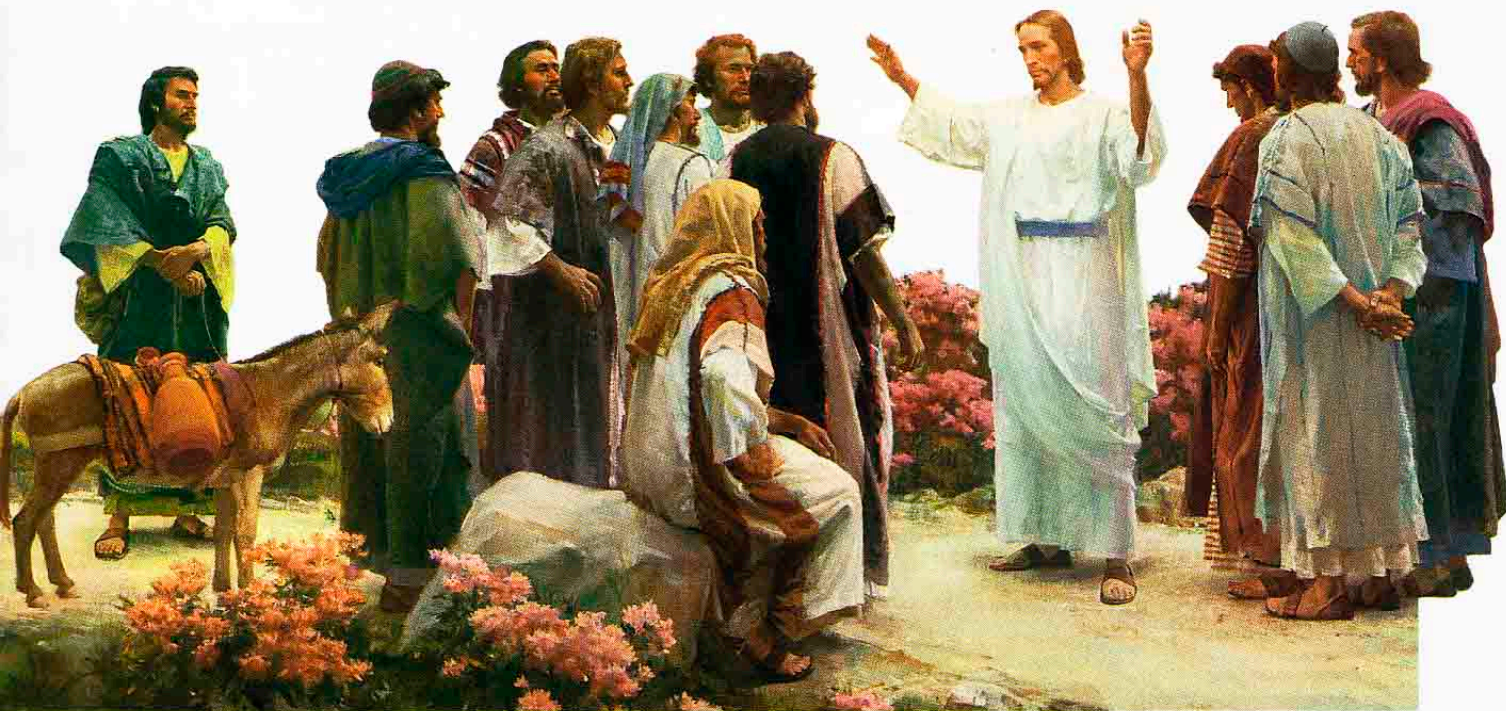
く学んで自分のものとしているか、また聖典を役立てているかがわかります。

それをタッドの口から聞かなくても、だれもが彼の内にある霊のポケットベルの音に気づくことでしょう。それは聖霊と波長を合わせて鳴り響いているのです。

昼夜を問わず、どんなときでも呼び出しを受けますが、タッド・ジェソップはすっかり慣れっこになってしまっています。ときには、遭難したハイカーが現われそうな山道をじっと見張っているような退屈な仕事もあります。また捜索が痛ましい結果に終わることもときどきあります。たいていどの仕事も大変です。しかし、決してなご

りにできないものがあります。それは、隊員たちや救助しようとしている人々への責任感です。

こういったわけで、タッドは誕生会に出られなかったり、しばらく学校を抜け出したりするのです。でも、彼は確かに信頼の置ける青年です。備えのできた、注意深い人です。申し分のない人物なのです。やがて、彼はもうひとつ別の呼び出しも受けるでしょう。それは2年間続くもので、彼はこのために備えてきました。この召しを受けたら、彼は同じように努力するでしょう。この召しもまた、すばらしい業です。そこにはたくさんの迷える人々がさまよっているからです。□



特別な^{せいさん}聖餐会

パット・オールレッド・バーネル

それは、いつもと変わらぬ聖餐会でした。この時間、末日聖徒たちは、世界中の何千もの礼拝堂で同様の聖餐会に集っているのです。ところが、ちょっとしたきっかけで、このごくありふれた聖餐会が特別なものと感じられるようになったのです。

聖餐の儀式が終わり、監督が立ち上がって話し始めたころ、私が辺りを見回すと、近くに座っているスピールマン家族に目が留まりました。ジェーンは、腕をご主人の背中に戻して、監督の方を見ていました。ご主人のリチャードは、生まれたばかりの男の子トミーを抱いていました。彼は、赤ちゃんの顔を眺めながらミルクを飲ませていました。また、生まれたばかりの弟の頭をやさしくなでているヨエルに、私の心は和みました。

霊的な経験は、さまざまなきっかけを通して得られるものです。スピールマン家族を見ながら、そこに平安が満ちているのを感じました。そして、周りを見渡し始めた時、とてもすばらしいことに気づきました。

一番前の席で、母親と一緒に座っていた4歳のアシュレー・アンダーソンは、後ろの席までやって来て、デロイ・ニールセン兄弟のひざの上に座りました。ニールセン兄弟は、ずっと長い間、託児の責任で子供たちの面倒を見てきたので、多くの子供たちから慕われています。すっかり皆のおじいさん代わりになっているのです。

証あかし会が始まりました。面識のない老夫婦が、礼

拝堂の中央に座っていました。ご主人が奥さんの肩を抱き、ふたりは白髪の頭を寄せ合っていました。

ひとりの若い男性が立ち上がり、静かに幼い子供を外に連れ出しました。それはミンディーとデビッドの息子、ゲーリーでした。ほのぼのとした雰囲気、部屋全体を包んでいます。それぞれの家族が互いのきずなを強め合い、霊的に支え合っていました。

グラスの小さな娘は、彼のひざに座っています。彼女はくるっと後ろ向きになり、彼を抱き締めました。よちよち歩きのドーナは、ウェンにだっこしてもらおうと、ジャッキーの所から移って行きました。あのひととき、私にとって礼拝堂は特別なみたまに満たされた、まさに神聖な場所となりました。

最近バプテスマを受けた、キムの息子ジェレドは、証を述べてお父さんの横に座りました。さらに証は続き、皆がみたまを感じました。

長いすに座ったまま私は、世界中の教室や賃貸の集会所、礼拝堂に集まって、私が感じているのと同様のみたまを享受している末日聖徒について再び思いをはせました。家族と離れて生活していたり、愛する人々に先立たれて、ひとりで座っている私のような会員でさえ、実はひとりではないのです。ごく普通のシオンのステーキ部の、ごく普通のワード部のいつもの日曜日ですが、この特別な時間、私たちはひとつの家族となっているのです。

特別な聖餐会、それは、あなた自身がこの集いをどうとらえるかにかかっているのです。□







真実の教会を 求めて

アンジェロ・スカルブラ

「教会のことを歴史的に調べた結果、はっきりわかったのは、キリストの死後、最初の1世紀の終わりに早くも背教が起こったということでした。しかし、私はこう解釈しました。神はご自分の教会を永久に消滅させてしまうおつもりはなかっただろう。主のまことの教会は永遠に存続しなければならぬのだから。」

イタリアのシチリア島にある小さな村。それが私の故郷です。レモンの花咲く村の畑は、とげがあるものの、とても甘い実をつけるウチワサボテンの緑色の列で分けられています。カトリックの司祭になる準備をすべく過ごした歳月が楽しく思い出されます。10歳で神学校に入学した私は、高等部を卒業すると、シチリアの各地で神学の勉強を重ねました。私は神学を学ぶ善良な一生徒でした。

しかし、齢を重ねた今になって振り返ってみると、私の人生は悲喜こもごもでした。生涯をかけて苦悩に満ちた探求をした者として、この短い私の改宗談を、キリスト教徒であるなしにかかわらず、すべての信仰あつい人々に、とりわけ回復されたキリストの教会を探し求めているかたがたに捧げたいと思います。

カトリック教会に対する私の信仰が揺らぎ始めたのは、1950年に司祭に任命されてからです。自分がある事柄に関する信仰をまったく失ってしまったと感じたのです。これがその後何度か直面する信仰の危機の始まりでした。しかし、このことはだれにも話さませんでした。同僚や指導者が、私の心の悩みに気づいていたかどうかはわかりません。外面的には、それまでと変わりなく司祭の務めを果たしていたからです。ミサで説教をし、人々の前で祈りを捧げ、定期的せいさんに聖餐式の管理もしました。やがて私は指導者から責任ある地位を授けられました。わけても神学校の学部長に任ぜられた私は、評判のいい引く手あまたの説教者になってしまったのです。

けれども私は少しもうれしくありませんでした。かつての信仰は、私の中

CHIESA DI
GESU CRISTO
DEI SANTI
DEGLI ULTIMI
GIORNI



です。すでに衰えてしまっていたからです。私はローマにあるポンティフィカル大学でさらに神学の勉強を積む機会を与えてくれるようお願いしました。疑念をぬぐい去りたいと思ってのことでした。願いは聞き入れられ、私は4年の歳月をかけて教義学の分野の博士号を取得しました。

ところが、疑いが晴れて信仰が強まるどころか、その4年間の体験はまったく反対の結果を招いたのです。そのような訳で、新たな学位を得てシチリアに戻っては来たものの、信仰の方は文字どおりずたずたになっていました。

私はもはや自分の状態を、一時的な危機としては見なくなり、不変の現実としてとらえるようになりました。すっかり気落ちした私は、純粋な信仰を持ち続けている勉強不足な信者たちをうらやましいとさえ思いました。私は宗教上の疑念という心の葛藤かつどうに耐えていただけでなく、道義上、職業上のジレンマにも陥っていたのです。自分が信じていない教えを持つ教会に、どうしてこのまま奉職し続けることができるでしょうか。

そんな折、慎重にこのまま研究を続

リミニ支部で奉仕するスカルブラ兄弟姉妹。スカルブラ兄弟は支部長、スカルブラ姉妹は扶助協会の副会長を務めている。

けた方がよいと助言してくれる人がいて、私は州立大学の人文学部に入学し、さらに4年間、自分の疑問に取り組みました。しかし、私の信仰は衰える一方でした。

肝心の問題に対する答えは何も見いだせませんでした。教会のことを歴史的に調べた結果、はっきりわかったのは、キリストの死後、最初の1世紀の終わりに早くも背教が起こったということでした。しかし、その事実と、永遠不変という神の属性とをどう結びつけばよいのでしょうか。私はこう解釈しました。まさか神はご自分の教会を組織された時、わずか100年そこそこで永久に消滅させてしまうおつもりはなかっただろう。主の教会は永遠に存続しなければならぬのだから。では背教はどのように解決され得るのか。きっとキリストの真の教会の教えを継承している教会がほかにあるはずだ、と。

別の学位を取得した後、私は岐路に立ちました。自分の良心に反してこのまま司祭としてとどまるか、それとも教会も聖職者の地位も捨てて自分の確信するところに従うか、ふたつの道しかありませんでした。

私にはよくわかっていました。前者は道義にもとるが、確かに最も都合のいい話です。後者を取れば、大変な困難が待ち受けています。けれども、その時は迷いませんでした。こうして1965年9月25日、私は聖職を捨て、所

属していた教会とも仕事とも決別したのです。

案の定、この決断は私の周囲に大きなあつれきを生みました。親しかった親戚しんせきでさえ私を拒んだのです。ひとりで、お金もない私は、北イタリアに出て、新しい生活を始めました。そこでは、ポーロニャの専門学校で文学の教師の職がすぐに見つかりました。

時間を見つけては、自分の研究を続けました。まずプロテスタント教会の研究に取りかかりましたが、それは一層苦い幻滅を味わう結果となりました。ひとつとしてイエス・キリストの真の教会に必要な条件を備えている教会はないように思われたのです。もしあの時モルモン経が手に入っていたら、あるいはだれか末日聖徒イエス・キリスト教会について教えてくれる人がいたら、たぶん私の探求はその時点で終わっていたことでしょう。

けれども、あいにくそうしたことは起こりませんでした。私はキリスト教以外の宗教、つまりイスラム教、仏教、ヒンズー教にも研究を広げました。いつの間にか、イエス・キリストの真の教会を探することはそっちのけになってしまいました。おかげで私は、東洋哲学にやたら詳しくなり、どの宗教も似たり寄ったりだと思ふようになりました。こうしてあれこれ調べた末に、私は宗教を冷淡な目で見えるようになってしまったようでした。

しかし、主の恵みのおかげで、依然として神とその神聖さは信じていましたし、イエス・キリストの神性に対する信仰を完全に失っていたわけでもありませんでした。ですから、主を探し求める旅を続けました。

この間に私は結婚しました。妻のイーネスはカトリックの家庭で育ちましたが、活発な教会員ではありませんでした。それで私たちは、ふたりの子供にどの宗教も教えないことにし、宗教の選択は子供たちに任せることにしました。

年を重ねるにつれ、私はキリストを身近に感じるようになりました。また定期的に祈り、聖書も再び読み始めました。どの教派にも所属しないクリスチャンでしたが、それでもまだイエス・キリストの真の教会を探し続けていたのです。

このようにして私は年を取り、60の坂を越えました。主が私を憐れんでくださったのはそんな時でした。もうすぐチャンスが訪れることを、夢を通して知らせてくださったのです。

晴れ渡った9月のある朝、私がちょうど車から降りた時、遠くにふたりの青年がいるのが見えました。ふたりはまるで私に気づいて待ち構えているかのようにこちらを見ていました。ふだんの私ならセールスマンや宣教師のしつこい勧誘を避けるために、防御的な態度を取ってしまうのですが、実に不

思議なことに、この時の私は違いました。私自身非常に驚いたのですが、まるで私もまた長い間ふたりに会うのを待っていたかのように、ふたりに引きつけられるのを感じたのです。見ず知らずのふたりでしたが、私は清潔で、誠実なこの青年たちに親しみを覚ええました。

ふたりはモルモンの宣教師でした。それがわかった時の私は、雷に打られたような気分でした。私は大喜びでふたりの話に耳を傾けました。神がようやく私の疑問に答えてくださったのだと思ったのです。私は喜んでモルモン経を受け取り、その夜も更けてから期待をもって読み始めました。

ひとり机に座ってモルモン経を読んでいると、全身が喜びとやさしさに包まれるのを感じました。かつて経験したことのない心地よさにめまいさえ覚えるほどで、ぼう然とした状態が1時間ほども続いたでしょうか。

神は、私が長年探し続けてきた真理がこの書物の中にあるという内なる確信を与えてくださいました。たちまち私は、モルモン経の中に引き込まれました。モルモン経も聖書も、ただひとつの神聖な啓示へと、私の目を向けてくれました。それは、背教に陥っていたキリストの教会が回復されたということです。やはりキリストは教会をお見捨てになったのではなかったのです。背教を引き起こしたのは人間の方だっ

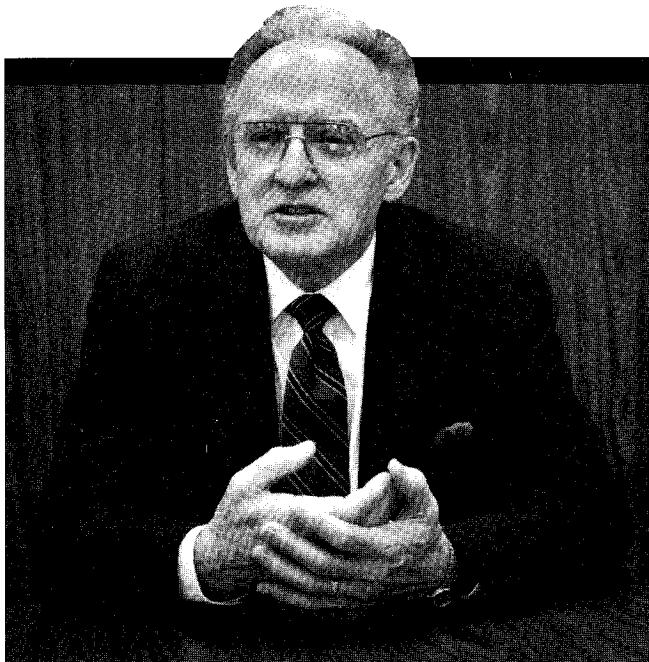
たのです。今、主は再びこの地上にご自身の教会を置かれました。この小さき者である私までが、もう一度自分を取り戻し、回復されたように思いました。何十年と続いた私の長い失意の人生も、これでようやく夜明けを迎えたのです。

神のみ恵みによって、私はついに幸福をつかみました。聖典の勉強を続け、宣教師や支部長のエッツィオ・カラミーア兄弟と教義について話し合っていくうちに、私の証は日ごとに強くなっていきました。宣教師と会って数カ月後、私はバプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました。妻も数カ月遅れでバプテスマを受ける決心をし、二重の喜びとなりました。

その後私はアロン神権を受け、さらにメルキゼデク神権も受けました。私は今、絶対的な確信を持って証をすることができます。末日聖徒イエス・キリスト教会は、イエス・キリストの唯一まことの教会であると。また、教会には生ける予言者と現代の十二使徒がいることを、感謝を込めて証いたします。

これは長い苦しみの末に培われた私の喜びの証です。この証を私はへりくだってすべての人に申しあげます。神のすべてのみ業がそうであるように、この教会は永遠です。主ご自身が作られた教会だからです。□

中央アメリカの 教会に関する談話



PHOTOGRAPHY BY PHIL SHURTLEFF

中央アメリカには、国内の不安や経済的困難、あるいはまた自然災害といった問題を抱えた国がいくつかありますが、それでも教会は着実な成長を遂げています。この成長に関する生の声として、中央アメリカ地域会長会会長であるテディー・E・ブルーアートン長老に本誌記者がお話を伺いました。

質問——中央アメリカで教会はどれくらい成長しているのでしょうか。

ブルーアートン長老——グアテマラ、ベリーズ、ホンジュラス、エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカ、パナマの7カ国に25万人以上の会員がいます。ステーク部が47、伝道部が10、そして神殿がひとつあります。各伝道部の毎月のバプテスマ数は、約200人になります。

質問——この成長により、各地で指導していくうえで苦労も増大しているではありませんか。

ブルーアートン長老——そうですね。しかし、ステー

キ部、地区、伝道部には大変優秀な指導者がいます。この地域で生まれ育った10人の地区代表が私たちを助けてくれます。10の伝道部のうち7つの伝道部はラテンアメリカ系の伝道部長によって管理されています。地域会長会の副会長たちの経験や知識も大きな助けになっています。第一副会長のカーロス・H・アマーゾー長老はグアテマラ人で、指導者としての経験が豊富ですし、第二副会長のジェイ・E・ジェンセン長老もラテンアメリカで長い滞在経験があります。このように、指導者がおおぜいいるため、指導者の訓練集会もかつてないほど頻繁に行なわれるようになりました。

質問——中央アメリカの人たちは、福音を受け入れやすいようですね。

ブルーアートン長老——それは多くの地域で言えることです。このみ業は確かに主のみ手によって推し進められているのです。

1991年の3月ごろ、ホンジュラス北部の港湾都市、ラセーバで、宣教師がある家族に福音を教えていました。しかし、この家族は2回レッスンを受ただけで興味を失ってしまいました。7月になって、ふたりの姉妹宣教師がこの家族の記録を見つけ、もう一度訪問することにしました。ふたりが到着すると、この家族の母親は泣いていました。姉妹宣教師たちが訳を尋ねると、ある夢の話をしてくれました。その夢の中で、1カ月前に死んだ20歳の息子に会ったというのです。彼は生前、家族とともに2回のレッスンを受けていました。その息子が、「母さんと父さん、バプテスマを受けて、ぼくがバプテスマを受けられるようにしてください」と告げたというのです。母親はこう尋ねました。「亡くなった人間がバプテスマを受ける方法があるのですか。」この家族は、まだ聞いていなかったレッスンの残りを受けて喜びに満たされました。そして1991年8月、4人がバプテスマを受けたのです。

質問——数字上の成長と並んで、霊的な力も高まってきているということですね。

ブルーアートン長老——もちろんです。新会員の中にも、福音の原則や教義に関する知識には目を見張るものがあります。これは宣教師や地元の指導者の力に負うところが大きいでしょう。会員たちの霊的な力は目に見えて強くなっています。霊的な力の高まりは、会員が自分たちを取り巻く数多くの困難や混乱にどのように対応してきたか、その方法とも関係があるでしょう。

質問——いくつかの国で見られる国内不安や自然災害が、中央アメリカの教会の発展を妨げているということはありませんか。

ブルーアートン長老——いくつかの国では戦争が起きており、これは教会にとって大きな打撃です。地震や国内不安のために家が半壊したり、完全に壊れてしまった会員もいます。しかし、昨年、火山の爆発で火山灰がグアテマラの南部一帯を襲った時、教会の6つのユニットは、風が火山灰を追い散らしたために被害を免れました。また、ごく最近の地震でも、家を失った末日聖徒はひとりもいませんでした。

矛盾しているように聞こえるかもしれませんが、国内不安は末日聖徒の自立の精神を高めました。自国から宣教師を召さなければならませんでしたし、自分自身で指導者としての重責を引き受けなければならなかったからです。たとえば、中央アメリカの10伝道部中ふたつには、北アメリカ出身の宣教師がひとりもいません。そこで働く宣教師は全員ラテンアメリカで召された宣教師なのです。このように自立心が高まっていることは会員にとって祝福となっています。また、そのような宣教師は故郷へ帰ると神殿で結婚し、頼もしい指導者、力強い会員となるのです。

質問——最近、北アメリカ出身の宣教師がホンジュラスからいなくなりましたが、彼らがいなくなった今、どのように伝道活動を継続していますか。

ブルーアートン長老——ホンジュラスのふたつの伝道部では、両方とも、ラテンアメリカの宣教師だけで伝道活動を推し進めています。またそれに加えて、多くのステキ部、ワード部で、もっとたくさんの若い男性に伝道の備えをさせ、伝道に出す必要が増大しています。そのため、ますます自立の気運が高まっています。

質問——国内での争いのために深い痛手を受けた会員はいますか。

ブルーアートン長老——そういう人もいます。自国の戦争のため、苦痛に満ちた過去に悩んだことのある宣教師もいます。そのような人たちのほとんどは改宗者で、中には実際の戦いに巻き込まれていた人もいます。しかし、そのような人々は、生活が変わると力強い指導者となるものです。ある意味で彼らは、人々が想像するよりはるかに幸福になると思います。というのは、このような人こそ、悔い改めが現実のものであり、贖い^{あがな}が自分たちのためにあることを実感できるからです。過去において不本意に、または強制^{ゆる}されて行なったことであれば、確かに主の赦しが得られるということを理解するのです。

質問——教会の発展はあらゆる階層の人々に及んでいるのでしょうか。

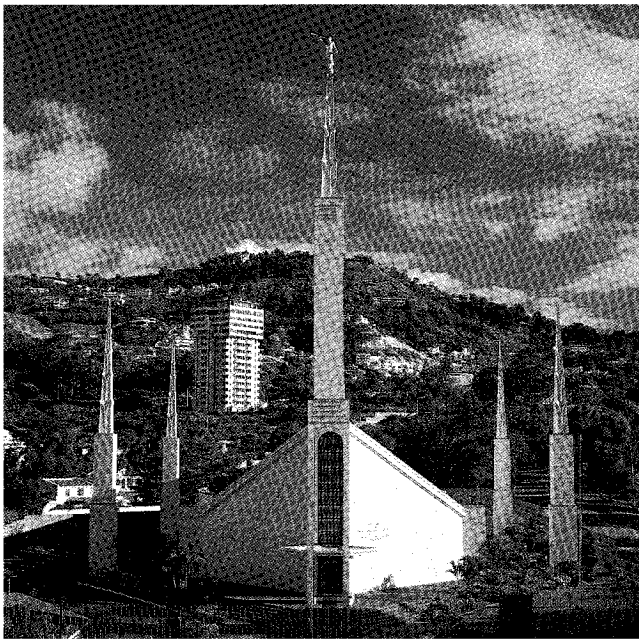
ブルーアートン長老——はい、ただ教会の会員が一番増えているのは、中産階級においてではないでしょうか。もちろん、医者や弁護士といった人々もバプテスマを受けています。

先に触れた自立の気運によって数多くの指導者がはぐくまれてきています。全力を尽くして教会のために働く、力強い信仰と奉仕の精神に満ちた男女を見れば、だれしも感動することでしょう。教会には傑出した女性がたくさんいます。たとえば、最近ニカラグアのマナグアで私の家内と伝道部長の奥さんが500人に上る教会の女性と集会を持った時のことです。この女性たちは、何年もの間、貧困と国情のために、そのような末日聖徒の集会に集う機会がありませんでした。それだけに彼らの喜びはひときわ大きく、全員がともにみたまを感じたのでした。

質問——会員皆が、みずからの努力で教会を強めることに喜びを見いだしているようですね。

ブルーアートン長老——彼らは自分たちが成功しているとは思っていません。謙遜な人々たちなのです。生活の中心が教会に向けられていて、たとえば、日曜日などなかなか集会所を離れようとしません。教会の友人とともにいたいと思うからです。

彼らはみたまと密接な関係を築いており、驚くほどみたまに敏感です。ためらうことなく、友人や隣人に宗教



グアテマラの聖徒は、その心を常にグアテマラシティー神殿に向けている。中央アメリカ地域会長会会長ティーン・E・ブルーアートン長老は彼らについて、「みたまと密接な関係を築いており、驚くほどみたまに敏感な民」と言っている。

について語っています。祈りと、祈りが生活にもたらす影響力について、心を開いて話せるのです。

質問——中央アメリカで、教会は一般の人々に快く受け入れられていますか。

ブルーアートン長老——はい。かつての宗教に対する偏見は、今ではもうほとんどなくなっています。私たちは、教会が社会から受け入れられるようにいくつかの事を行ってきました。グアテマラの教会ではいつも集会所に国旗を掲げるようにしています。さらに1991年の9月15日、この日は中央アメリカ諸国の独立記念日になっていましたが、154にも及ぶ集会所で国旗掲揚式を行ないました。式の中で、関係諸国に平和が訪れ、雨が降るよう祈りを捧げました。この式典には市や軍部の指導者が数多く出席してくださり、一般の人々にも非常に良い印象を持っていただけました。教会が自分たちの住む地域を良くするためにどれほど心を配っているか、政府の要人をはじめ、人々に理解してもらおう機会となりました。

しかし私たちが計画するどんな催し物よりも、教会の評判を高めるのに役立つもの、それはおそらく会員自身の模範でしょう。会員の中には政府高官もいますし、アウグスト・コンデ大佐のように軍部で高い役職に就いてこられた方もいます。コンデ兄弟は、いつも変わること

なくその信念を貫き通し、グアテマラで軍務から退くころには、それまでだれも受けたことのなかったような高い評価を受けるようになっていました。その後、コンデ兄弟はグアテマラの神殿長会で奉仕されました。エルサルバドルの、あるステーク部の副ステーク部長夫人は、同国副大統領の秘書として働いています。この女性もすばらしい人物です。

このような会員たちが、それぞれの国で自分の宗教とその価値について腹藏なく話しているのです。彼らの話は各国で注目を集めるところとなっています。エルサルバドル政府の有力な大臣のひとり、同国のサンサルバドル西伝道部長イスラエル・ベレス兄弟を自分の事務局に招き、宣教師のビザの問題を個人の計らいで解決してくれました。その時ベレス兄弟は、この大臣から次のように言われました。「あなたに伝えたいことがあります。それは、あなたたちの活動によって、わが国が改善されているということです。あなたたちは、家族に焦点を当て、人々の道徳観を向上させることに重点を置いておられます。わが国はあなたがたを喜んで受け入れているのです。」

質問——中央アメリカにおける教会の成功に役立っているものとして、何かほかに思いつくことがありますか。

ブルーアートン長老——ふたつの聖句が心に浮かびます。ひとつはヒラマン書の聖句です。「レーマン人が容易に甘んじて主の道を信ずるから、主がますますその『みたま』を授けたもうたことが明らかである。」(ヒラマン6:36)

もうひとつの聖句を紹介する前に、ある情景を思い描いてみたいと思います。それは、忠実な末日聖徒たちを目にしながら、教会の説教壇に立って話をするときであり、あるいは神殿に参入して白い衣服を身にまとい、私とは少し肌の色が違うものの美しい人々に出会うときのことです。そんなとき、破壊の後に生き残った人々に対して主が語られたニーフアイ第三書の言葉が心に浮かぶのです。「^{なんじ}汝らは予言者らの子孫なり。イスラエルの家に属する者共なり。また……^{ものども}汝らはその誓約に与る者共なり。」(IIIニーフアイ20:25)イスラエルの羊飼いは、ご自分の羊をお忘れにならなかったのです。□

イノスのように 祈る

心から主を求めて祈る人のために、
主は祝福を用意しておられるのです。

クリスティー・アン・ジャイルズ

夜の祈りを捧げるため、私はベッドの横にひざまずきました。しかし、私の心は喜びではなく、怒りと寂しさでいっぱいでした。こんなことになるとは、思ってもみませんでした。

ユタ州プロボにある宣教師訓練センターに入った2日目の夜の事です。私はとても惨めな気持ちでした。同僚とはうまが合わず、新しい言葉を学ぶのもうんざりでした。何より、そんな未熟な自分自身が、嫌になりました。

祈り始めてはみたものの、なんと祈ったらいのか、さっぱり言葉が出てきません。私には話し相手が必要だったにもかかわらず、自分のむなしく、寂しく、つらい気持ちを天父に訴えるのは適切でないと感じたのです。結局、「健康であることやここにいることに感謝します」とお決まりの言葉を並べただけの祈りを捧げ、ベッドに潜り込みました。

なぜ天父は私を助けてくださらないのでしょうか。高ぶった心でこう考えました。「もし主が祈る前から私の気持ちを知っていらっしゃるなら、なぜ何もしてくださらないのだろう」と。

その時、午後を読んだばかりのイノス書を思い出しました。イノスが森の



PHOTOGRAPHY BY CRAIG DIMOND

中でひざまずき、主に赦しを請い、助けを願い求める姿を思い描いてみました。イノスの言葉が私の心の中に響き渡りました。「私は……全身全霊を傾けて神に祈った。」(イノス1:9)

私はこれまでそのような祈りをしたことがあっただろうか。天父の助けを、

心からへりくだり願い求めたことがあっただろうか。一度もないのは明らかでした。

そう思って再びひざまずいた時、主に話したいことがあふれるように出てきました。

自分が落ち込んでいること、どうしても新しい言葉を覚えられないでいること、同僚を愛するのを感じていること、そして宣教師として良い働きをしたいと思っていることなど、自分の気持ちを包み隠さず天父に打ち明けました。孤独な寂しい気持ちを主に打ち明け、主の助けを願っていると、涙がほほを伝いました。

「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会うと主は言われる。」(エレミヤ29:13-14)

この時、私はお決まりの祈りの言葉を並べたではありませんでした。私は一心に祈ったのです。私の心は、今度は平安と希望、愛でいっぱいになりました。ベッドに入った時、問題がどう解決されるかはわかりませんでした。しかし、必ず克服できると確信していました。□

障害を持つ人を助ける

イ エス・キリストの弟子として私たちは、天父の子供たちすべてを愛し受け入れるように教えられています。私たちの周りには、肉体的、情緒的、精神的な障害を持つ人もいます。それらすべての人に対して福音の祝福が十分に及ぶようにすることが私たちの目標です。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13:35)

私たち自身が障害を持っている場合もあり、家族や友人が障害を持っている場合もあります。

耳や目が不自由な人も、精神や知能に障害のある人もいます。学習障害や重度の行動障害の人もいます。車いすや補聴器などが必要なために目で見えてわかる障害もありますが、目に見えない障害もたくさんあります。

理解し受け入れる

救い主は、人がどのような状況にあるかを問わず、すべての人を愛し理解されました。私たちは、大きな試練に直面していると思われる人々をさらによく理解し、受け入れることにより、主の完全な模範に従うことができます。

私たちが十分に理解していないならば、うつ病の人は信仰に欠けているように見えるかもしれません。また耳がよく聞こえない人は、反応が遅いように見え、行動障害のある子供は、きちんとつけられていないように見えることがあります。

障害のある子供を持つある母親は、ほかの人たちに、自分の子供ができないことだけでなく、できることを理解してやってほしいと望んでいます。彼女はこう語っています。「私の子供は90パーセントは普通で、障害があるの



ILLUSTRATED BY LORI ANDERSON WING

はわずか10パーセントだけなのです。でもほとんどの人は彼女の障害にしか目を向けません。」

私たちが、すべての人に愛と思いやりを示された救い主の模範に従うとき、障害を持った人々は自分が受け入れられていると感じます。目と耳の両方が不自由なある10代の少年は、ワード部の会員たちが彼の手を握り肩を抱いてくれるので愛されていると感じています。耳の聞こえないもうひとりの少女は、監督に会うのをとても楽しみにしています。手話で彼女の名前を呼んであいさつし、「あなたを愛しています」と言ってくれるからです。一方ある母親は、教会へ連れて行けない自閉症の息子のことを友人たちがめったに口にしないのを悲しんでいます。「ほとんどの人はブランドンのことに触れようとしません。何か失礼なことを言ったら私を傷つけるだろうと気にしているのです。だれかが息子の様子を尋ねてくれたらうれしいのですが。」

●障害を持った人に愛と関心を示すにはどうしたらよいでしょうか。

援助を申し出る

私たちがみたまの導きを受け、互いに愛し合うならば、障害を持った人を助けるための方法はいくらかでもあることがわかるでしょう。重度の行動障害を持ったある若い女性は、若い女性のクラスの姉妹たちから匿名で届いた親切な言葉を書いたカードや小さなプレゼントをととても喜んでいました。目の不自由なある姉妹は、教会の活動に参加するために会員たちが車で送り迎えをしてくれることに感謝しています。精神的な病から快復に向かっているある姉妹は、友人がパートタイムの仕事を紹介してくれたことを喜んでいました。

重度の障害を抱えた人を看護する人も、同様に大きな助けを必要とすることがあります。物質的、社会的、情緒的な支えを必要としている場合があるのです。私たちにできる事柄として、数時間、代わりに障害のある子供の世話をする、両親が病院に行っている間ほかの子供たちの世話をする、通院するために車で送り迎えをする、などが挙げられます。ワード部の活動に招待したり、援助を申し出たりすることも、彼女たちが感じているストレスをいくらかでも和らげるのに役立つでしょう。

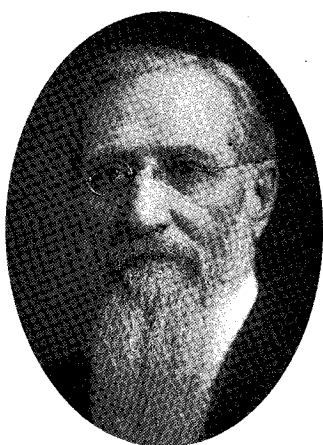
障害のある子供を持つある母親はこのように述べています。「私は元来楽天主家ですし、自分の気持ちを抑えることができます。でも、正直に自分の気持ちを打ち明けられる友達がひとりいます。ときには泣きながら彼女に本当の気持ちを伝えることもあります。そうすると、とても気持ちが楽になるのです。」

●どうすれば障害を持つ人やその家族の力になれるでしょうか。□

ジョセフ・F・スミス

家族のきずなの祝福

アーサー・R・バセット



家族の価値がしばしば疑問視され、親子の断絶が日常茶飯事になっている時代であって、互いが愛のきずなで結ばれている家族を目にするのは心温まるものです。

第6代大管長のジョセフ・F・スミスも自分の家族についてこのように感じていました。スミス大管長はその任期中、家庭、家庭の夕べ、家族生活の大切さについて特に強調しました。そして、その教えは私たちの時代であって再び重視されるようになりました。

ジョセフ少年は10代の初めまでに、両親をふたりとも亡くしました。彼が家族の平安と愛を非常に重んじたのはおそらくそのためだったのでしょう。

ジョセフの父、ハイラム・スミスは予言者ジョセフ・スミスの兄でした。予言者とハイラムはジョセフがわずか5歳の時、暴徒の凶弾に倒れました。ハイラムが予言者ジョセフの無二の親友、援助者であり、ジョセフが自分を

愛するようにハイラムを愛していたことはよく知られています。主も「彼の心実直なる故に……われの前に義しきことを愛する故に」ハイラムを愛されました。(教義と聖約124:15)

さよならのキス

ジョセフ・F・スミスは一生を通じて、父親に特別な愛情を抱いていました。父親の最後の思い出はハイラムが馬でカーセージに向かう時のもので、スミス大管長の胸に鮮明に残りました。その思い出について、スミス大管長は後にこう語っています。「父は馬に乗ったままかがんで、下にいる私を抱き上げると、さよならのキスをして再び私を降ろし、走り去った。」この経験の後、不安な日々が続き、ついにあの恐怖の夜が訪れました。「私は、あの殺害の夜を覚えている……カーセージからやって来た兄弟が暗やみの中から

私たちの家の窓をたたき、『スミス姉妹、ご主人が殺されました』と母に告げたのだ。」ジョセフ少年はその時わずか5歳でしたが、その晩の恐怖は後々まで彼の心に残りました。

母の祈り

父ハイラムが殉教した2年後、ジョセフ・F・スミスと未亡人となった母、メアリー・フィールディング・スミスは、ほかの多くのモルモン開拓者とともに大平原を横断する旅に出発しました。スミス姉妹は自分のふたりの子供のほかに、5人の子供たちの面倒も見なければなりません。彼らは、殉教したハイラムと彼の最初の妻の間に生まれた子供たちで、母親に先立たれていたのです。ジョセフは7歳で、ネブラスカ州ウインター・クォーターズまでの道のりを、家族が所有する牛の群れを追い立てながら旅し、9歳の



時には、ソルトレーク盆地まで幌馬車を御して行ったのでした。

平原を横断中、ジョセフ少年は母親の信仰から多くの教訓を学びました。ある朝、家族が目覚めると、最上の一連の牛がいなくなっているのに気づきました。ジョセフは叔父のジョセフ・フィールドディングとともに午前中ずっと探し回りましたが見つかりませんでした。ふたりは疲れ、落胆して野営地に戻ってきました。彼らはそこで、ひざまずいて神に祈るメアリー・フィールドディング・スミスの姿を目にしました。牛がいなければ目的地に着くのがさらに遅れてしまうので、牛を見つけるのを助けてくださるよう神に懇願していたのです。

この若さあふれる開拓者の母親は、祈り終わって立ち上がると兄と息子に向かって、自分は牛を見つけて連れて帰るから朝食を食べるようにと言いました。これ以上探しても無駄だという兄の言葉をよそに、彼女は川に向かって歩き始めました。兄の言葉に耳を貸さなかっただけではありません。ミズーリへ家畜を追っていく牧夫から、牛が反対方向に行くのを朝見かけたと言われたのですが、彼女は川の方へと歩き続けたのです。やがて土手までたどり着くと振り返り、手招きして息子と兄を呼びました。ふたりが行ってみる

と、彼らの牛が人目につかないように柳の茂みにつながれていました。きっと、開拓者の一行が去った後で戻って来ようと、だれかがそこに隠したのでしょう。

後になってスミス大管長はこの経験について「これほど行ないを伴った前向きな形で祈りがかなえられるのを目にしたのは初めてだった」と語っています。この時彼の胸に刻まれた思いは、生涯彼の心の支えとなったのでした。

彼らがソルトレーク盆地に入植してから4年後、ジョセフの母は世を去り、13歳のジョセフは二親に先立たれてしまいました。

孤独な宣教師の夢

ジョセフ・F・スミスは15歳で長老の職を与えられ、エンダウメントを受けてハワイ諸島で伝道に携わるように召されました。彼はその地で、同じ年代の少年には考えられないような病と失望とを経験しました。しかし、そういった経験によって彼の人生には新しい霊的な理解が増し加えられ、心は成熟し、内なる力は強められたのでした。

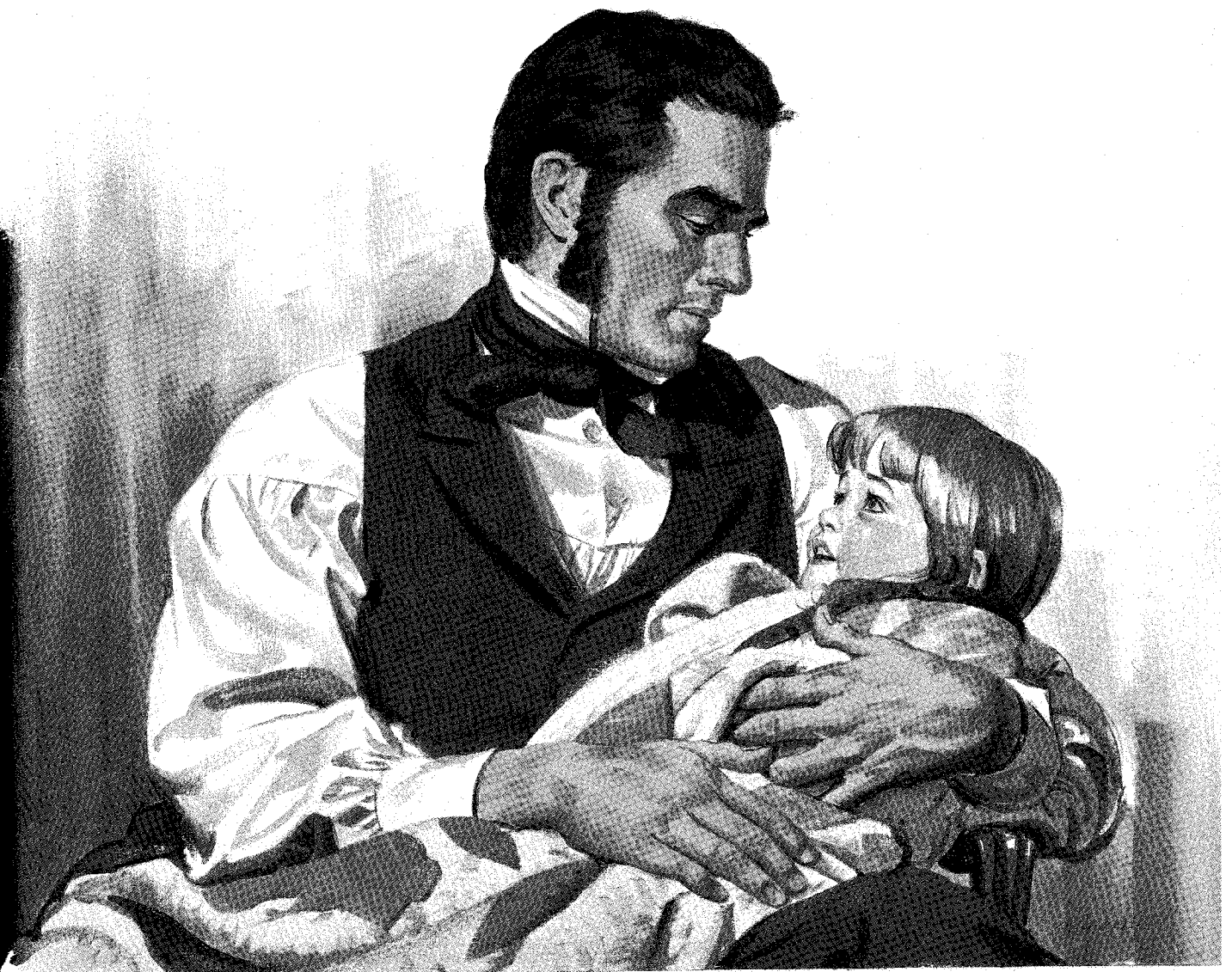
家族を大切にすることについての特別な夢を見たことも、そのような経験の中のひとつでした。伝道中、非常に落胆していた時のことです。「友達は

ただのひとりもなく……生活も貧しく、知恵も知識も欠けた一介の少年だった私は、あまりに落ち込んでいて人の顔もろくに見られないような状態だった。」

この時ジョセフの夢の中に、叔父である予言者ジョセフ・スミスと、父のハイラム・スミス、そして母のメアリー・フィールドディング・スミスが現われました。彼は心に慰めを受け、予言者と救いの計画に対する証は強められました。「翌朝目覚めた私は、年は若かったが、一人前の大人として生まれ変わっていた。恐れるものは何ひとつなくなった。……私が主のみ前に善良で清く正しいとすれば、あの時目の当たりにした示現こそ、今の私があるゆえんである。いかなる試練、いかなる困難に遭っても、この示現によって助けられてきたのだ。」

愛の祝福

ジョセフ・F・スミスは、生涯家族に恵まれず、孤独だったわけではありません。彼は20歳の時、2度目の伝道地であるイギリスに向かう少し前にレビラ・スミスと結婚しました。この伝道の間、自分を待っていてくれる人がいるという思いに、心が慰められました。後に彼は、教会で多妻結婚が行な



スミス大管長の娘、マーシー・ジョゼフィンに病に倒れ、それがもとで幼い命を失った。彼女を毎晩腕に抱き看病したスミス大管長の姿に、彼が家族に抱いていた愛がうかがえる。

われていた時代にあつて5人の妻、ジュリナ・ラムソン、サラ・エレン・リチャード、エドナ・ラムソン、アリス・アン・キンボール、メアリー・テイラー・シュワルツを迎えました。そして48人の子供の父となり、息子のひとりであるジョセフ・フィールドینگ・スミスは後に教会の10代目の大管長となったのでした。

ジョセフ・F・スミスが家族に抱いていた愛が美しく伝わってくるのは、彼が若い父親として、最低限必要なものだけで乏しい生活をしてきたころのことです。そのような貧しい生活にあつても、クリスマスの前に「子供たちへのプレゼント」を買うために町へ出かけて行きました。

「子供たちが喜ぶようなものを買つて、クリスマスに1年で一番特別な日にしてあげたいと思つていましたが、実は1セントの持ち合わせもなかつた。大通りを行ったり来たりしながら、あちこちショーウィンドーを見て回つた。そして人目につかない所に座り込み、心の痛みが和らぐまで、まるで子供のように声を上げて泣いた。しばらくし

てから、家を出た時のまま何も持たず家に戻り、子供たちと遊び、子供たちがいてくれることへの感謝と喜びを実感したのでした。」

初めての子供で、彼が「ドド」と呼んでかわいがつた娘、マーシー・ジョゼフィンを亡くした時の経験にも、彼が家族に対して抱いていた愛をかいま見ることができます。小さなドドは3歳で亡くなりました。毎晩娘の看病をし、抱き締め、励まし続けていたスミス大管長は、ある晩娘が一睡もしなかつたために悲嘆に暮れました。次の日の朝、マーシーが「きょうは眠るからね、パパ」と言うのを聞いて「心が張り裂けそうだった」と、後述しています。それから間もなく小さな命のとも

しびは消えました。

スミス大管長はその心の痛みを、ある手紙にこう記しています。「とてもこの心の内を書き表わすことはできない。今も私の胸は痛み、何もかも混乱している。不平を漏らしてしまったとしても、どうか主よ赦したまえ。私の魂は今もお悲しみに刺し貫かれ、心は傷つき、砕け散らんばかりだ。私は孤独に取り巻かれ、家も閑散として、わびしい場所が変わってしまった。……私の大事なドドはもういない。私にはどうしても信じられない。そんなことがあっていいものかと私の心が問い叫ぶ。目を凝らしても何も見えず、耳を澄ましても何も聞こえない。家じゅうを歩き回っても、どの部屋も空っぽで、わびしく、空虚で、閑散としてしまっている。小さな金髪めづの頭やばら色のほほがちらりとでも見えはしないかと、庭の小道や家の周りのあちらこちらを見回す。だが、悲しいかな、あの軽やかな足取りは聞こえてこない。パパへの愛を伝える小さな黒いひとみの輝きも、かわいらしく尋ねる声も、……私の首にまわりつく柔らかでふっくらした手も、抱き締めてキスをしてあげると無邪気にキスして返すばら色の唇も、何もかも今はなく、座る人を失った小さなすだけが残っている。小さなおもちゃや洋服は片付けられ、

ただ『あの子はもうここにはいない、遠くへ行ってしまったのだ』という寂しさだけが心に重くのしかかる。……悲しみのあまり、気も狂わんばかりだ。私の心の光であり、喜びだったマーシー、あの子をどんなに愛していたことか、それはただ神だけがご存じだ。」

それから46年後、この世を去る2年前に、スミス大管長は日記にこう記しています。「きょうは初めての子供、マーシー・ジョゼフィンの49回目の誕生日だ。だれよりもかわいらしく利発な少女。彼女は3つになろうとする1870年6月6日、それまでの私の人生で最も麗しく、幸福で、楽しい3年間の思い出を残して世を去った。ああ、あの愛と光を携えた小さな天使を私はどんなに愛していたことだろう。」

ジョセフ・F・スミスにとって、家族の愛は最上の喜びでした。主の予言者として召されて間もなく、彼はこう語りました。

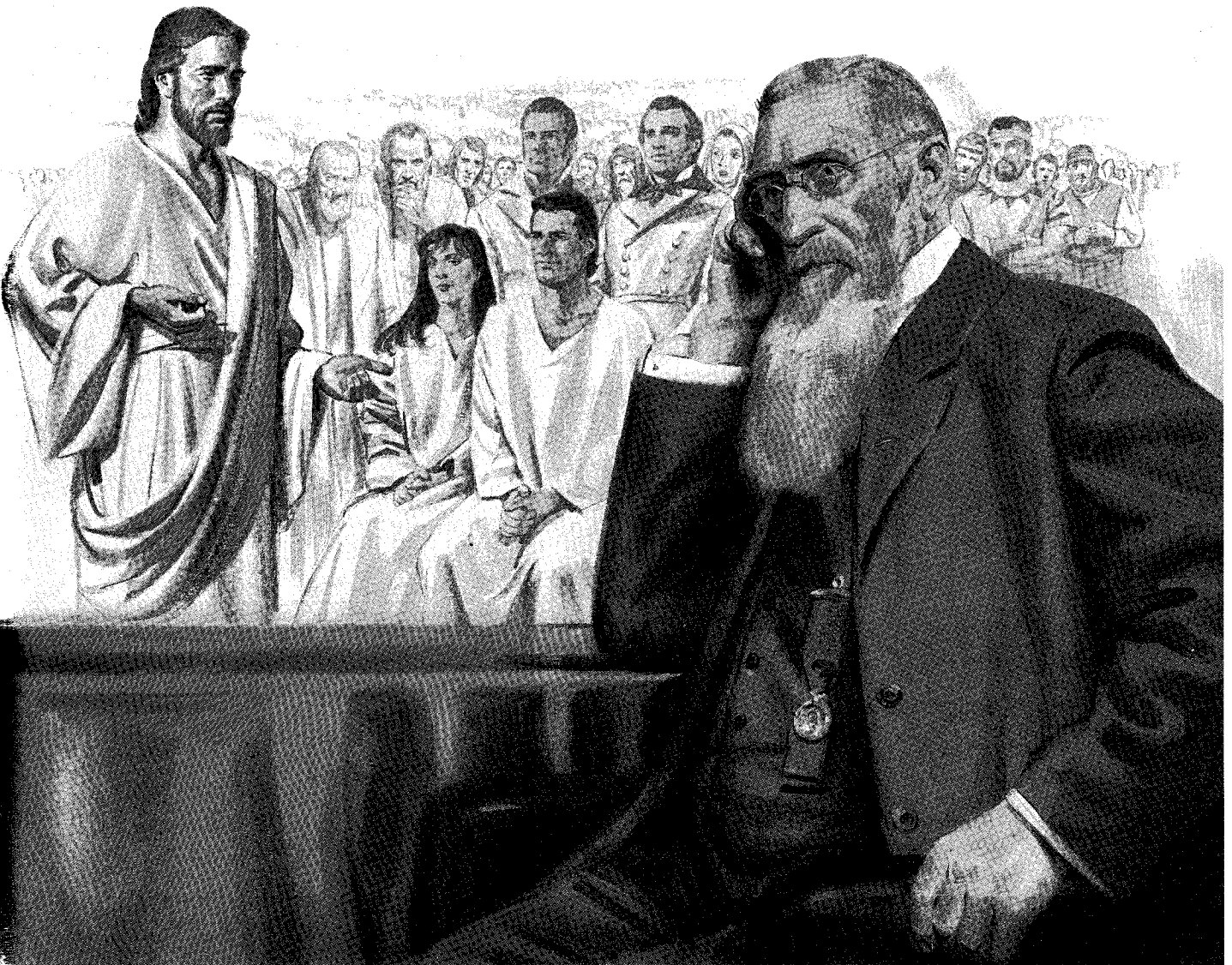
「家族から離れては本当の幸福などあるはずがない。家庭の影響力を清く保つためのあらゆる努力は、そのようにして犠牲と労苦を払い、より良い家庭を築こうとする人々を高めるものである。男性も女性も、家庭生活を何かほかの生活で代用しようとするところがある。家庭は束縛であり、一番の自由は意のままに動き回れることだと思

い込んでいるのだ。しかし、奉仕なしに幸福は得られないし、家庭を天国のようにすること、そして家庭生活を守り、高めていくこと以上の奉仕はない。

家庭での責任を回避する人には、社会で幸福になるための重要な要素が欠けている。社交の楽しみに夢中になっても、そのような楽しみは見せかけのものであり、年を取って残るのは、失望だけである。」

一生涯、宣教師として

ジョセフ・F・スミスは、家庭にあって家族にすばらしい働きをただけでなく、その生涯のほとんどを宣教師、また教会の指導者として過ごしました。15歳の時ハワイ諸島で最初の伝道に携わった後、イギリスで3年間働き、その後使徒に召され、27歳で大管長会の一員として召されました。やがて使徒として、ヨーロッパ伝道部とイギリス伝道部の伝道部長を務めました。41歳の時、再び大管長会に召され、それから80歳で亡くなるまで人生の半分である40年間を大管長会の一員として働きました。ブリガム・ヤングからジョン・テイラー、ウィルフォード・ウッドラフ、ロレンゾ・スノーまでの4人の大管長の下で副管長として働き、そして1901年、62歳で大管長に召されました。



スミス大管長は聖典に思いを巡らしていた時、示現を受け、救い主が霊界で義人の聖徒と予言者たちを組織され、霊の獄への宣教師として召されるのを目にした。

スミス大管長がこの世に生を受けていた時代、教会は多妻結婚の実施に関して合衆国政府から激しい攻撃を受けていました。スミス大管長はこのような攻撃から教会を擁護した有能な人々のうちのひとりでした。スミス大管長を含む数人の指導者はみずから身を隠していたことがあり、大家族から離れ、その面倒を見ることができずにつらい

思いをしました。その後の1888年から1889年にかけて、スミス大管長はワシントンD.C.に赴き、末日聖徒を抑圧するような法律を緩和するように合衆国政府に交渉を求めました。

1890年、ウイルフォード・ウッドラフ大管長が啓示を受け、多妻結婚を廃止する公式の宣言(教義と聖約、公式の宣言参照)が出された後、スミス大管長は教会と政府間にある緊張を和らげ、教会に対する人々の信頼を増すためにたゆまぬ努力を続けました。スミス大管長が教会を管理したのは、教会が大きく繁栄し成長を遂げた時代でした。彼は予言者として、神権定員会の役割を強め家庭の大切さを強調しました。

真理を教える者

ジョセフ・F・スミス大管長が果たした偉大な貢献はほかにもあります。それは、福音の教えを率直に教えたことです。予言者の職にある時、彼は副管長とともに、人の起源、父なる神とイエス・キリストの属性といった事柄に関して、教会の教義を明らかにする声明を出しました。彼らはまた、偽りの教えに対する警告を与えました。スミス大管長の死後、その重要なメッセージの一部が「福音の教義」として出版されました。

彼の「死者の贖いに関する示現」は、現在、標準聖典の中に収められています。スミス大管長は、亡くなるわずか

6週間前の1918年10月3日に示現を受け、その中で救い主が十字架上で亡くなられてから復活されるまでのわずかな間に霊界で導きと教えを施される様子を見ました。(I ペテロ 3:18—20; 4:6 参照)救い主がすでに世を去った義人の聖徒と予言者に導きと教えを施されるのを見、さらに宣教師を組織され、邪悪な、悔い改めていない霊の元に送られるのを目にしたのです。

この偉大な啓示は、老年の予言者が自分の部屋で「聖典の言葉に思いをはせ、世を贖うために神の御子が払われた大いなる贖いの犠牲と、贖い主の降臨にあたって御父と御子の表わされた大いなる驚嘆すべき愛について深く考えていた」(死者の贖いに関する示現 1:1—3)時に与えられたのでした。

スミス大管長は示現の中で、「聖徒たちは、自分たちの贖いを喜び、ひざをかがめ、神の御子が死と地獄の鎖からの贖い主、解放者であることを告白した」(23節)様子を見ました。

こうしてスミス大管長は、主を愛するすべての者、すなわち彼の愛した「ドド」を含むすべての天父の子供たちに救いが与えられるという希望を賜ったのです。

また、スミス大管長が受けた啓示を通して私たちすべての人が、神の永遠の属性や、私たちに幸福をもたらす神のご計画、また忠実な者は永遠に家族とともにいられるという主の約束に対して希望を抱けるようになったのです。

□

ジョセフ・F・スミス年表 1838—1918

年	年齢	出来事
1838		11月13日 ミズーリ州ファーウェストで誕生。
1844	5	父ハイラム・スミス殉教。
1846—48	7—9	牛の群れを追いながらソルトレーク盆地までの平原を越える。
1852	13	母死亡、孤児となる。
1854—57	15—18	ハワイで伝道。
1859	20	レビラ・A・スミスと結婚、高等評議員に召される。
1860—63	22—25	イギリスで伝道。
1865—74	27—36	ユタ準州下院議員となる。
1866	27	7月1日 ブリガム・ヤング大管長より使徒に聖任され、副管長に召される。
1874—75	35—37	ヨーロッパ伝道部およびイギリス伝道部の伝道部長として働く。
1880	41	10月10日 ジョン・テイラー大管長の第二副管長に召される。
1884—88	45—49	多妻結婚への迫害のため身を隠す。合衆国、メキシコ、ハワイ、カナダで働く。
1888—89	49—50	下院における教会ロビイストとしてワシントンD.C.で働く。
1889	50	4月7日 ウイルフォード・ウッドラフ大管長の第二副管長に召される。
1898	59	9月13日 ロレンゾ・スノー大管長の第二副管長に召される。後に第一副管長に召される。
1901	62	10月17日 大管長に召される。
1906	67	教会史上初めて、大管長としてヨーロッパを訪問。
1918	79	10月3日 死者の贖いに関する示現を受ける。
	80	11月19日 ソルトレークシティで死去。

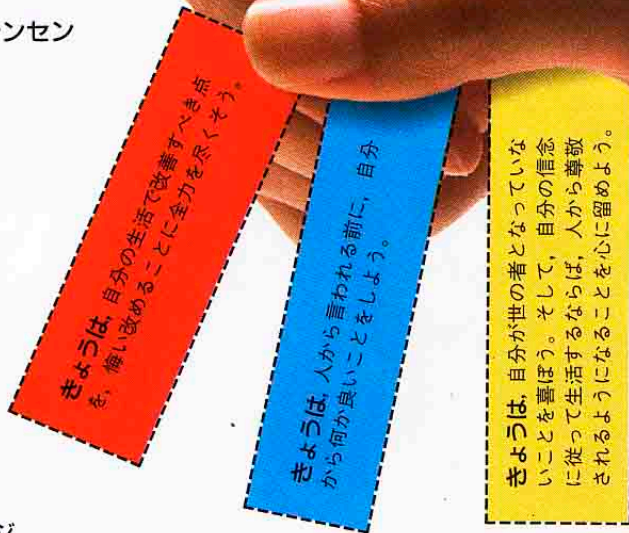
参考文献

1. ジョセフ・フィールディング・スミス「ジョセフ・F・スミスの生涯」
2. フランシス・M・ギボンズ「ジョセフ・F・スミス——族長にして伝道者、そして神の予言者」
3. ジョセフ・F・スミス「福音の教義」

若人の広場

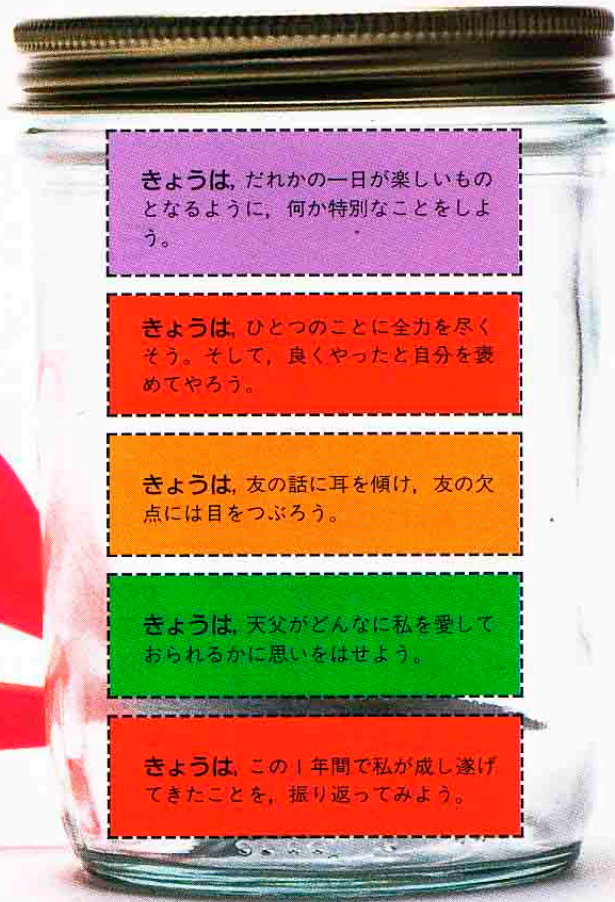
ゲリー・クリステンセン

PHOTOGRAPH BY JOHN LUKE



33ページと35ページにあるさまざまな目標を、ひとつずつ切り取り、瓶の中に入れます。そして、毎日1枚ずつ取り出し、そこに書かれた目標の達成に向けて頑張ります。

目標達成の日々



きょうは、自分の望むものには心を向けず、ほかの人を幸せにするために何ができるかを考えよう。

きょうは、自分の最も好きな点を思い起こし、嫌いな点は忘れてしまおう。

きょうは、やり始めたことは何であれ、途中で投げ出さず、最後までやり遂げよう。

きょうは、励ましと理解を必要としている人の力になろう。

きょうは、一日中、心からの真剣な祈りを捧げ続けよう。

きょうは、長い間後回しにしてきた、自分にとって困難なことを実行しよう。

きょうは、主が私たちをご覧になるように、大いなる価値を持つ者として、自分自身と人々を見るように努めよう。

きょうは、家族の一員としてとても素晴らしい存在になることで、家族一人一人に喜んでもらおう。



テネリフェの若人たち

テネリフェは、北アフリカの沖合に浮かぶ小さな島です。この島の末日聖徒の青少年たちは、固い信仰で結ばれています。また、伝道活動にも熱心です。

テネリフェ島はカナリア諸島にある島のひとつで、公式にはスペイン領となっています。住民はスペイン人によく似ていますし、話す言葉もスペイン語です。カナリア諸島に教会ができてから、まだわずか12年足らずですが、各ワード部や支部には、多くの信仰深い家族がいます。しかし青少年こそが、各ユニットの原動力なのです。彼らは宣教師とともに働き、たくさんの新しい友人を教会に連れてきています。

17歳のオスカル・エレラ・リバー

ロは次のように言います。「ぼくたちには、ほかの人たちが持っていない素晴らしいものがあります。そして、それを分かち合うことの大切さを感じています。」

彼らはまた、青少年以外の会員の活動にも力を貸しています。最近では、初等協会の子供たちを公園に連れて行き、一日を過ごしました。夜には、ステーキ部全体を対象にしたタレントショーを催しました。それは、会員がさらに交流を深め、親しみを増すのに役立つばかりでなく、多くの求道者やお休み会員に、末日聖徒の教会がどんなに楽しいものかを知ってもらう機会ともなりました。

モルモンマラソン

25時間にも及ぶ長い集会など想像できるでしょうか。しかし、それは本当に素晴らしい経験となりました。ウィスコンシン州のマジソンステーク部マジソン第3ワード部の、若い男性と若い女性は、連休の金曜と土曜日を使って、モルモン経すべてを通して読むための集会を持ちました。

指導者の家に集まった彼らは、朝の9時から夜の9時まで読み続けました。中断したのは、夕食を祝福する時間だけでした。その後、若い男性は庭でキャンプをし、若い女性は隣の家に泊まりました。2日目の朝、彼らは同じスケジュールをこなすため、再び集まりました。

きょうは、静かな細い声に耳を澄ませ、与えられる霊的な導きに従おう。

きょうは、両親に手紙を書いて、私がどんなに彼らに感謝しているかを伝えよう。

きょうは、自分と異なる人を批判せずに、その人の長所を見いだすように努めよう。

きょうは、私の先祖のひとりについて、まだ知らない事柄を学ぼう。

きょうは、救い主がまさに私の隣にいらっしゃるかのように行動しよう。

きょうは、聖句を覚え、生活で実践しよう。

きょうは、してはならないと知っていることは、決してしないようにしよう。

きょうは、人々の益となるような価値あることに専念しよう。

きょうは、先生が私にとってどんなに助けとなっているかを知らせよう。

きょうは、人の持ち物や才能をねたむことのないようにしよう。

きょうは、自分の言動すべてに、どんなことがあっても完全に正直になろう。

きょうは、受けている祝福を数えあげ、書き出してみよう。

きょうは、一日中、自分の思いを清く肯定的なものにしていこう。

きょうは、自分に無理をするのはやめて、ありのままの自分に満足しよう。

きょうは、だれかに愛と感謝を伝えよう。

しかし、次の最後の聖句が読まれた時、その場を包んだのは興奮した歓声ではありませんでした。「さらば、すべての人たちよ。……私は勝利を得て空を飛んで来て、生きている者と死んで

いる者との永遠の裁判官である偉大なエホバの楽しい法廷であなたたちに逢う。アーメン。」(モロナイ10:34)最後に厳かな気持ちで「アーメン」と言った時、彼らの心はひとつになっていました。

お便りをください

「若人の広場」では、皆さんのすばらしい奉仕活動、ユースカンファレンスなど、さまざまな活動についての短いレポートを掲載したいと思います。また、特定のテーマについての引用句、提案、簡潔な証あかしも掲載する予定です。

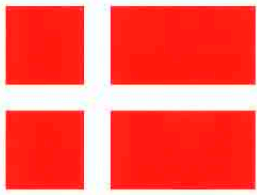
皆さんからの投稿をお待ちしています。世界中の末日聖徒の青少年を力づけ、鼓舞し、楽しませてくれるようなものなら何でもお寄せください。できれば、写真も送ってください。あなたの氏名、年齢、住所、所属ステキ部/地方部名、ワード部/支部名もお忘れなく。あて先は下記のとおりです。

“For Your Information”
International Magazines
25 th floor
50 East North Temple
Salt Lake City, Utah 84150
U.S.A.

ご協力をお願いします。□







デンマークの海, 土地, そして人々

経済的に恵まれ、不道徳が許容されている国にあって、
デンマークの会員たちはその正しい選択を通して強められています。

ジャイルズ・H・フローレンス Jr.

パレ・ブルー兄弟と奥さんのエステル・ブルー姉妹の住む家は築1世紀の農家です。かもしの低いこの家に入るには、頭を下げなければなりません。ふたりはフレゼリシャの郊外にあるこのわらぶき屋根の家を荒れ果てた状態から復元し、室内をアンティーク家具で飾っています。黒光りする壁や柵にはオリジナルの絵画が掛かっていますが、中にはキリストの山上の垂訓を描いたカール・ブロックの油絵の下絵もあります。その油絵は、キリストの生涯を描いたブロックの連作のうち1枚で、コペンハーゲン近郊のヒレズにあるフレデリックスボル城に恒久展示されています。

パレとエステルにとって何が徳高く、好ましく、よき聞こえあることかは、家だけでなくふたりが選んだ生き方を見れば明らかです。彼らと同じように、デンマークじゅうの末日聖徒が思慮深い選択をしています。それは回復された福音の原則を反映する選択です。

美を守る

パレとエステルは福音を受け入れる選択をする前から、デンマークの遺産を大切にすることを選択してきました。絵画と工芸、自然の美、そして、そのすべてを高めてくれる福音をふたりは大切に、楽しもうと心に決めているのです。

エステルによると、デンマーク最大のユーラン半島で、

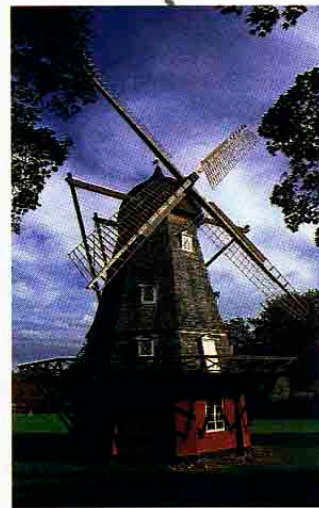
古い建築物の円柱や装飾用の蛇腹、はりに見られる繊細な手細工ができる職人は、今ではたったふたりしかおらず、パレはそのひとりだということです。

芸術家であり退職した建設業者でもあるパレは、珍しい鳥の繁殖も手がけています。家の裏の作業場に隣接する大きなおりには、鮮やかな色の鳥たちが棒に留まったり、おりの縁につかまったりしてさえずっています。翼が緑色のオオサマイニコをはじめ、同系の美しい鳥たちは、パレのような人たちのおかげで絶滅を免れているのです。

友人たちは、パレとエステルを称賛して、「このふたりも珍しい鳥みたいなものだ」とほほえみながら言います。自然を愛するふたりの心がとても博愛的な形で表われているからです。ふたりは過去20年にわたって毎夏、ほとんどが車いす使用の身体障害者のグループを受け入れて、森でのキャンプ生活を通しての体験を提供してきました。

「25人のグループで、30歳から80歳までの人がいます」とパレは言います。「森の奥深い所にある古いすてきな家に泊まるんです。そして何日も一緒に、森の中を散策

デンマークのフレゼリシャ郊外に自分たちで復元した農家の裏口に立つエステル・ブルー姉妹とご主人のパレ・ブルー兄弟。



左——山上の垂訓を教えるキリストを描いたカール・ブロックの絵画の下絵。
絵画の方はコペンハーゲン近郊のヒレレスにあるフレデリックスボル城に常時展示されている。
中央——リベに住むオヴェ・クリステンセン兄弟と奥さんのカーン・クリステンセン姉妹、そして子供たち。
(左から)ルーネ、ピヨン、カミラとカーナ。右——風車はアンティークなものからモダンなものまで
デンマークの風景の特色をなしている。次ページ——ステーキ部大会前のひとときを
娘のマリーアとともに楽しむオルフスステーキ部長のカーステン・ラステン兄弟。

し、休憩を取って食事をし、自然の美を満喫するので
す。」ふたりはまた郡の多発性硬化症患者の会の発起人
に名を連ね、衛生委員会のボランティアとしても働いて
います。

「ふたりで福音を学ぶのはとても楽しいことです」と
エステルは言います。パレとエステルは1954年に宣教師
の訪問を受け、後にバプテスマを受けました。「パレは
永遠の結婚に感銘を受けましたし、私の方は救いの計画
に強い衝撃を受けました。」

彼らは1956年に何度か宣教師から福音を学びました。
ある時パレは、ニーファイの記録を読んで霊的な導き
を感じました。そしてある日、エステルには何も言わずに
バプテスマを受けてしまったのです。そのうちエステル
はパレの変化に気がついて、「バプテスマを受けたんで
しょう」と尋ねました。エステルも宣教師から福音を学
び続け、バプテスマを受けました。それ以来、エステル
は2度扶助協会の会長として召され、パレは支部長、地
方部長として、またフレゼリシャ最初の監督として働
きました。

彼らのバプテスマは、エラスタス・スノー長老がスカ
ンジナビア伝道部を開設し、1850年の8月にデンマーク
で最初のバプテスマが施されてから、実に100年以上も
後のことでした。現在デンマークにはふたつのステーキ
部があり、4,100人の教会員が集っています。

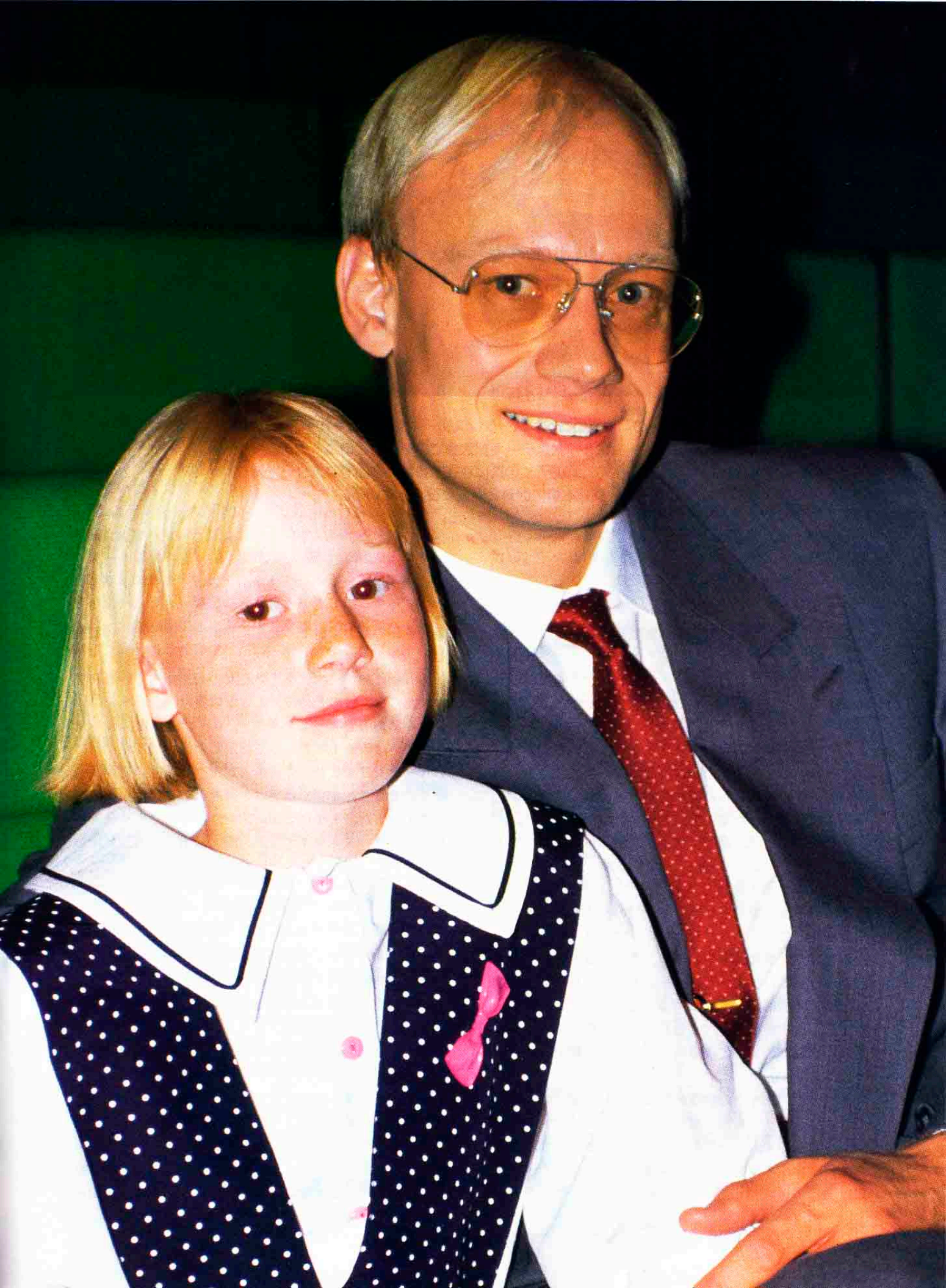
土地を耕す

クリスチャン・クンツ兄弟もみずからの選択で田園風
景の美しい田舎に居を構えているひとりです。彼はドイ
ツからフレンスボーア湾を隔てた所にあるスナボーで支
部長を務めています。宣教師がクンツ家を初めて訪ねた
時、奥さんはまた来るように招きました。彼女自身は教
会に改宗しなかったものの、「今までずっと心から私に
協力してくれました」とクンツ支部長は言います。

いくつもの庭と動物たちに囲まれた石造りの家は広々
としています。そして、息子のソアンと娘のスザーヌは、
この二重の壁でできたクンツ家でさまざまな支部の特別
な活動が行なわれるのを見ながら成長しました。現在ソ
アンはワシントン州のシアトルで専任宣教師として働き、
スザーヌは学校に通っています。スザーヌはこう言っ
ています。「家の書齋で支部の集会をするのは、教会のあ
るべき姿を見るような思いでした。」

オヴェ・クリステンセン兄弟と奥さんのカーン・クリ
ステンセン姉妹も、デンマークの西航路有数の港町エス
ビヤから32キロ離れたリベ郊外の農場に住むことをみず
から選択しました。

1984年からクリステンセン家族は、33ヘクタールの農
地で大麦や小麦、そしてエンドウ豆とラズベリーを栽培
してきました。また、豚や牛は食用に、そして馬は楽し
みのために飼育しています。ある意味ではクリステンセ





左——ステーキ部センターの前に立つコペンハーゲンステーキ部のリカード・アンデルセンステーキ部長。
 中央——オルフスステーキ部大会での子供たちのコーラス。
 右——デンマークでは500近くの島に点在する町々を船やフェリーが結び、
 交通事情の改善と促進に役立っている。

ン家は典型的なデンマーク人一家と言えるかもしれません。なぜなら、デンマークの国土の約70パーセントは農地であり、その大部分はクリステンセン家と同規模の農地だからです。「私たちは家族のために農村での生活を選んだのです」とオヴェは言います。「土を耕し、刈り入れの法則を学ぶのは大変有意義なことだからです。」

クリステンセン夫妻の顔かたちや色白の肌は、その温かいもてなし同様きわめて北歐的と言えるでしょう。テーブルには、磨いた皿の上にきれいに切ったケーキ、パン、チーズが並び、透明な水差しには、自家製のニフトコの実を搾ったジュースが入っています。

デンマークの人々はとても陽気で、1,000年前、北ヨーロッパじゅうを荒らし回った先祖のバイキングの狂暴な面影はどこにもありません。デンマーク人にとって、来客という言葉は軽食やおやつ、食事を食べることと同義語になっています。デンマーク・コペンハーゲン伝道部で働く宣教師が好んでこう言います。「ここデンマークでは1日1食しか食べません。しかしその1食は、朝最初の訪問に始まって夜最後の訪問まで途絶えることなく続くんです。」

オヴェはエスビヤの病院の看護師として働いて16年になります。カーンも同じ病院で6年働いていますが、2歳から12歳の4人の子供のためにオヴェとは違う時間帯に働けるようスケジュールを調整しています。カーンはこう語っています。「夫は私が働いているときに子供の

面倒をととてもよく見てくれます。本当にすばらしい父親です。

1981年にバプテスマを受ける前の夫を知っている病院の人たちは、彼のその後の大きな成長は、今のライフスタイルにあると言っています。」カーン自身はニューヨークでいとも1年暮らして帰国した後、1978年にバプテスマを受けました。今はエスビヤワード部の初等協会会長会で働き、オヴェはアロン神権者のクラスを教えています。また、1年に2回、ふたりは車とフェリーを乗り継いで遠いストックホルム神殿まで出かけることにしています。

海への関心

デンマークでフェリーの世話になるのは、何もストックホルム神殿に行くときばかりではありません。デンマーク王国自体ユーラン半島を囲む483の島々から成る島国だからです。たとえば、ユーラン半島の東岸に位置するオルフスステーキ部からこの国で最大の島シェラン島の東岸にあるコペンハーゲンステーキ部に車で行こうとすると、途中フェリーに乗らなければなりません。

転回しなくてもいいように両端が開閉して荷積みと荷下ろしができるフェリーには、デンマーク人の知恵がよく表われています。フェリーは時間が正確で実用性に富み、乗り心地もなかなかです。乗船して滑るように船が

進む間、食事をしたり、売店に行ってみたり、船室で眠ったりと、いろいろなことができるのです。

デンマークの人々の生活は、海と切っても切れない関係にあります。なにしろ国土の中に海から75キロ以上離れている地点はないくらいなのです。イギリスやドイツへの北海航路は、主要な農産物の市場を確保してくれます。商業貿易のおかげでデンマークは世界で最も豊かな国のひとつに数えられているのです。

船舶産業は主要な雇用提供産業であり、コペンハーゲンステーク部長のリカード・アンデルセン兄弟も主への献身によって計画を変えていなければ、船舶関係の職に就いていたことでしょう。

「私はデンマーク海軍にいましたから、訓練を積んで航海士になりたいと思っていたのです」とアンデルセンステーク部長は言います。しかし彼は宣教師となり、1970年に国内での伝道を終えるとヘルミーと結婚し、6人の息子のうち、最初の子に恵まれました。やがて、エスピヤの町と海での生活を捨てた彼は、コペンハーゲン第2ワード部の監督に召され、警官になりました。その後ステーク部長に召され、以来9年間その職を務めています。

アンデルセンステーク部長は深いため息をつきながらこう述べています。「デンマークにおける教会の最大のチャレンジは、われわれが国全体として神をおそれぬ国民になってきているということです。このような国の状態の中で唯一の救いは、悪があまりに甚だしいために、道徳心のある人にはそれが明らかに誤りであるとわかることです。たとえば、教会の青少年にとって、選択のすべては白と黒のように明らかで間違いようがないのです。」

ステーク部長は、国が繁栄を遂げた1960年代に、道徳的に緩やかな法律が制定されたことをその元凶に挙げています。「ある日突然国が豊かになり、国民は富がもたらした都会的知性と物わがりの良さを世界に示したくなったのです。政府はポルノグラフィを許容する法律を通し、海辺で裸でいることや墮胎の自由、さらには、同性愛者同士の結婚までも法律の許すところとなりました。こうして、私たちを守る道徳の壁はすべて取り払われてしまったのです。」

このような社会悪に悩む国はデンマークだけではなく、国として世界的な注目をかなり集めたのは確かです。そのような状況にあっても、教会員はデンマークのほかの善良な人たちとともに、その不道徳な傾向に

対してそれまで以上に防御を固めています。アンデルセンステーク部長は、これはとても建設的であると考えています。「神殿結婚はこの国の教会員にとってすばらしい祝福です。この祝福のおかげで多くの教会員は信仰を強められ、なすべきことを雄々しく行なっているのです。その結果、子供たちは伝道に出ていますし、家族は固く結ばれています。私たちはデンマークの人々に福音をもたらすために必要な力をつけてきていると言えるでしょう。」

宣教師は満ち潮のごとく

コペンハーゲンステーク部の改宗者のバプテスマ数は、この3年間倍々に増え続け、1988年に27人だった改宗者は1990年には100人に増えています。「私たちは先人の肩の上に立っているようなものです。彼らの築いた土台の上に家を完成させようと努力しているのですから」とアンデルセンステーク部長は言います。彼の息子たちは伝道資金をためるために土曜日に仕事をしていますが、アンデルセンステーク部長も一緒に働き、その賃金をすべて息子たちの伝道資金に提供しています。

24歳のアネテ・マチアセン・イアンセン姉妹も帰還宣教師のひとりです。アネテはこう言います。「宣教師たちの持っている特別な何かが、私を伝道に出たいという気持ちにしてくれました。ですから、バプテスマの後の^{あんしゆれい}按手礼で、『主は、あなたが伝道に出る望みをもっていることを喜んでいらっしやいます』という言葉聞いたとき本当に感謝しました。」

アネテは1988年から1990年までデンマークで専任宣教師として働きました。最近オーゼンセ第1ワード部のオーレ・イアンセン兄弟と結婚しましたが、以前と同様に聴覚障害者とのコミュニケーションに関する勉強を続けたいと思っています。

童話作家のハンス・クリスチャン・アンデルセンの生誕地として有名なオーゼンセ島に住む姉弟、トリネ・クレイベア姉妹とステーン・クレイベア兄弟は、宣教師が初めて家を訪問した時、3歳と2歳でした。両親のフィンとインガがバプテスマを受け、家族は後に神殿で結び固めを受けました。ステーンはオレゴンで伝道しました。ふたりはそれぞれ神殿結婚の祝福を受けました。トリネのご主人はテキサス州のサン・アントニオで伝道した帰還宣教師で、現在はオーゼンセの銀行で働いています。



左——クラシックギターの演奏家のイアン・ピーダーセン兄弟と奥さんのマリエ・ヘレネ姉妹。そして息子のアラン。エスピヤの自宅で。右——バレ・ハティ兄弟と奥さんのハルバーク・ハティ姉妹は、バレラップの自宅にある録音スタジオでサウンドトラックなどの音楽や教会内外で使用される作品を制作している。次ページ——1966年以來、コペンハーゲンステーキ部の「モルモンダンス」は、海外でもフォークダンスの公演を行なってきた。

そしてステーンの奥さんのローネはオルフスステーキ部の祝福師ヴェアナ・ブア兄弟の孫娘です。

アンデルセンステーキ部長は、神殿結婚により堅固なとりでが築かれると語っています。クレイベア家のこの二世の教会員は、その言葉の確かなことを如実に物語っています。インガ・クレイベア^{あかし}姉妹にとっては、3番目の子供のカロリネがその証の最たるものです。

「もし教会に改宗していなかったら、カロリネを産むことさえ考えなかったでしょう」とインガは説明します。デンマークの女性のほとんどがそうであるように、インガも子供はもういらな**い**と思っていたのです。「ふたりの子供と仕事だけで十分忙しかつたですからね。でもある日、子供を産むという女性の役割についてインスティテュートのレッスンを準備をしていた時、はっと気づいたのです。自分がレッスンの教えを実践していないということ。」

インガは当時を思い起こして、レッスンの教えを信じることも真理を教えるために必要であったと語っています。彼女は、母親であることについて学び、祈らなければならないことを知ったのです。日を追ってその祈りは熱烈なものとなりました。そして、自分にとってもうひとり子供を産むのは正しい選択だと決断したのです。それはデンマークでは決して小さな選択ではありませんでした。現在フィンとインガ、そして11歳になるカロリネの3人は、オーゼンセにある廃屋となった駅舎を改造し

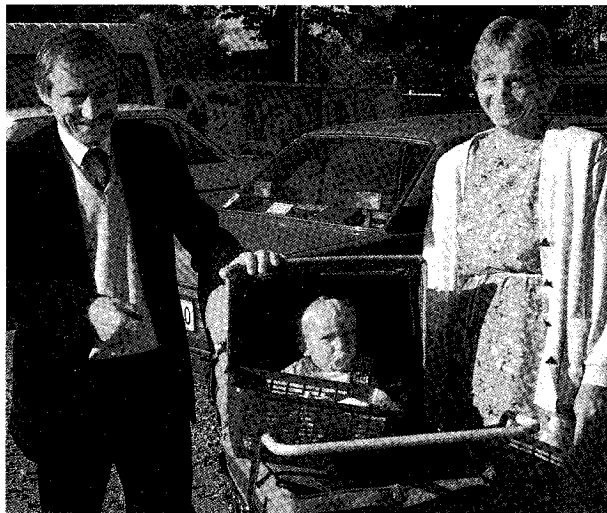
た、窓の多いがっしりした家で暮らしています。ここはフィンが子供のころよく遊んだ場所でもあります。

神殿で力を受ける

クヌッド・クリステンセン兄弟と奥さんのボーデル・クリステンセン姉妹の結婚も、永遠の見地と神殿の誓約によって強められてきました。クヌッドは電気器具店を経営しており、ボーデルは学校の教師をしています。ヘアネン支部の扶助協会会長を務めるボーデルは、健康上の問題で次々と試練を受けたことを思い出して、こう語っています。

「私たちはたくさんの試練の山を登らなければなりませんでしたが、いつでも互いを信頼し、支え合って乗り越えてきました。」このさりげない言葉には、難産の経験をはじめ、クヌッドの癌との戦いとその後の化学療法と快復、赤ん坊のカサリーネの髄膜炎などの経験が隠されています。そしてこれらの試練を通してクリステンセン家族にもたらされた信仰と感謝の気持ちが込められているのです。

「力を求めて神殿に行くことにより、私たちの結婚生活に靈的な礎^{いしづえ}が築かれました」とクヌッドは言います。クヌッドは物静かな強さを備えた人で、一方ボーデルは社交的な性格ですが、ふたりの息はぴったり合っています。



左——オルボルクの自宅でご主人のプレーベン・クリットゴー兄弟とスクエアダンスを教えているヘニー・クリットゴー姉妹。中央——ヘアネブ支部のクヌッド・クルステンセン、ポーテル・クルステンセン夫妻。4人の子供の末っ子とともに。右——オーゼンセの自宅できつろぐシェイクスピア俳優のエディ・カーニル兄弟と奥さんのイダ・カーニル姉妹。

デンマークがほとんど海に囲まれていて、浄化と公害の相反するふたつの面をあわせ持っているように、デンマークの人々も誘惑の海に囲まれています。繁栄は、余暇と物質的豊かさとともに、かつてなかったほどの選択の機会をもたらしたのです。

新聞雑誌の売店、夜の盛り場、映画、それにテレビがあまりにも開放的に不徳を露出しているため、その影響を被らないよう、人々は常に注意を払っていなければなりません。もし多くのデンマーク人が、海の公害を浄化した創意と決意をもって、デンマークを取り巻いている不徳の海の浄化に努めるならば、その繁栄と進歩は教訓を含んだ祝福となるでしょう。

デンマークは長年建築、家具、芸術の分野で簡素で機能的な美の宝庫として畏敬の念で見られてきました。ポルノグラフィと性的放縦のあらしに飲み込まれている人々は、静かな海を不必要に荒らしてその伝統を傷つけているのです。

正しい望みを持つ

正しい選択をするのはときには孤独なものです。オルボルクのイエテ・シュミッツ姉妹も改宗した時にそれを経験しました。9年続いた結婚は、彼女の改宗が原因でだめになったと、イエテは率直に語ってくれました。「教会のおかげで強くなりました。福音によって人生に

はっきりした方向性を持つことができたからです。このことに心から感謝しているのです、人と話をしているといつもその話になるのです。」

キリスト教の教会に通う人が人口の3パーセントに満たないこの国では、きっとイエテを典型的なデンマーク人とは呼べないでしょう。また、デンマーク人は一般的に大変物静かな国民だと言われていますが、イエテはとても社交的です。ワード部広報委員長の召しに難なく適応した彼女は、オルフスステキ部の青少年たちの演劇の宣伝のために地元のテレビ局に電話した時も、何のためらいもありませんでした。

「本当に驚くべきことだと思いました。デンマークの若者のほとんどが、ただぶらぶらしているだけなのに、教会の青少年は練習にあれだけの時間をかけて劇を上演しようとしていたのですから。宣伝する価値のあることだと思ったのです。」テレビ局側もそう感じたのでしょうか。イエテの電話交渉のおかげで、デンマークの末日聖徒イエス・キリスト教会がテレビで紹介されることになりました。

イエテはスクエアダンスを楽しむたくさんのデンマーク人教会員のひとりです。スクエアダンスとデンマークを結びつけて考える人はあまりいないでしょう。しかし1952年以来、デンマーク人はアメリカ発祥のスクエアダンスを自国の伝統的なフォークダンスのひとつとして取り入れだしたのです。

1982年、オルボルクの教会員プレーベン・クリットゴー兄弟は、スクエアダンスについての本を出版しました。それ以来プレーベンと奥さんのヘニーはスクエアダンスの指導と公演に情熱を傾けてきました。自宅に設けたダンスフロアが週に4夜も満員になり、人々のステップの足音と手拍子、にぎやかなかけ声が響き渡っている今、スクエアダンスはふたりにとって伝道の手段にもなっています。

スザヌ、エリサベツト、ジミーの3人の子供もスクエアダンスが大好きです。ダンスは家族にとって楽しい趣味となり、今ではそれ以上のものとなっています。ヘニーは言います。「スクエアダンスへの関心はとても高まっていて、プレーベンと私は夜間学校でスクエアダンスのクラスを教え始めました。生徒が増えて、借りていた部屋に入り切れなくなった時、それに対応できるようにと自宅にこのダンスフロアを増築することにしたのです。」

夜、スクエアダンスが終わった後で、生徒たちが残ってクリットゴー夫妻の生き方について話をすることがよくあります。「私たちにとってそれは証を述べてくれと言われるようなものです。それというのも、福音こそ私たちの人生に目的を与えてくれたものだからです。ダンスは多くの人の心を福音に向かわせてくれました。」

デンマーク式スクエアダンスに関心を持つのは大人だけではありません。コペンハーゲンステキキ部には、「モルモンダンサーズ」という名の青少年のグループがあります。このグループは、1966年にスウェーデンのストックホルムで行なわれたユースカンファレンス以来、25年のフォークダンスの伝統を誇っています。アメリカスタイルのベチコートとギンガムチェックのドレスを身にまとい、足をけり上げ手拍子を打って、この青少年たちは伝統的なスクエアダンスに新しい味つけをしてくれます。コペンハーゲン第4ワード部所属のマリオン・アルス姉妹の経験豊かな指導の下に、このグループはコペンハーゲンのティーポリ公園をはじめ、ドイツやスウェーデンの、ステージや祭りで、そしてテレビでクロック(木靴)ダンスやフォークダンスを披露してきました。

デンマークで教会が発展するにつれ、ますます多くの教会員が社会の注目を浴びるようになってきました。パレ・ハティ兄弟のファロー諸島の写真は郵政省の記念切手に使用されました。また、オーゼンセ第1ワード部のイアン・ピアイ兄弟は家族問題を扱うラジオのレギュラ

ー番組を持っています。10人の子供を持つイアンと奥さんのキャロルはデンマークの放送・出版界で家族の擁護者としてよく知られています。「福音が持つ価値観のおかげで真理を学ぶことができました。私たちは、ほかの家族の力になるためその真理を積極的に分かち合っているのです」とイアンは言います。

オーゼンセ在住のエディ・カーニル兄弟はおそらくリチャード3世という名でデンマークじゅうで最もよく知られている人物です。彼のシェークスピアの演技はデンマーク随一の誉れが高く、チャールズ・ディケンズのスクールジ役として舞台上立つのはオーゼンセ劇場では毎年の伝統行事になっています。奥さんのイダとの間に7人の子供がいます。

公衆の注目を集めている人はほかにもいます。エスピヤ在住のクラシックギター演奏家、イアン・ピーダーセン兄弟です。彼はロンドンで、奥さんのマリエ・ヘレネ姉妹はベルギーで伝道経験があります。イアンは7年間音楽学校で勉強した後、定期的に演奏活動を行ない、音楽学校を主宰し、個人レッスンも行なっています。このような知名度の高い教会員は皆、デンマークで傑出した宣教師の役割を果たしているのです。

「デンマークは特別な国です」とリカード・アンデルセンステキキ部長は言います。「デンマークには保存される価値のあるものが数多くありますし、なすべき善が多く残されています。デンマークの末日聖徒は、善を行なう大きな勢力となりつつあります。」

デンマークの聖徒たちはデンマークの最も善きこと、すなわち素朴な自然美、生命をはぐくむ土の力、水の再利用と浄化、豊かな芸術的・文化的遺産に対する畏敬の念を行動に表わそうと努力しています。

有名なロイヤルコペンハーゲン陶器に描かれた美しい絵の数々、つまりスカーフとエプロンを身に着け、牛の乳搾りをする女性、子供をひざに乗せて本を読み聞かせる母親、ボンネットをかぶり、くるぶしまでのドレスを着た娘たちなどの絵は、清さと素朴さこそ永遠に変わらない美德であることを教えてくれます。そして、同じような汚れのなさ、福音を実践し、分かち合う末日聖徒のデンマーク人たちが思慮深く選択した生き方にも反映されているのです。□

感謝の歌

リサ・レイ・ターナー

3 歳の息子のそばにひざまずいた私は、思いつくまをまぜこぜにした祈りに耳を傾けました。「お父さんとお母さんと、雪と雲に感謝します。サンタクロースに感謝します。ピザとお兄ちゃんに感謝します。食べ物に感謝します。」

そこで彼はちょっとためらいました。祝福を挙げればきりがないので、まだ祈りを続けようか、それとも暖かくて心地よさそうなベッドに飛び込もうか考えているのでしょうか。しばらく黙っていた後、急いで付け加えました。「そう、それからぼくたちの間抜けな猫を祝福してください。」そして元気よく「アーメン」と言い、祈りを終わりました。

私がそのような事柄に対して主に感謝したのはいつだったのでしょうか。確かに私の生活にも小さな祝福がたくさんあります。息子と同じように、私もピザはおいしいと思います。でも祈りの中でピザに感謝したことはありませんでした。雪や雲も私を楽しませてくれましたが、それらについて述べたこともありません。

息子は祈りの中になんとたくさん詰め込んだことでしょうか。私もそんなふうに誠実な気持ちで祈り、日常生活の中のささいな事柄に対して心から感謝できたらどんなによいでしょう。

そのような事柄は、大人にとって重要な感謝や願いのひとつとして述べるにはあまりにささいなことなので、除外したのだと自分なりに考えてきました。でも、実はそうした事柄にもはや気づかなくなっていたのです。すべき事柄や義務に追われて、裏庭に咲いている小さな紫色の花や、さまざまな形をした葉、大地を潤すさわやかな雨の薫りに注意を払う余裕をなくしていたのです。このような喜びに気づくこと

すらないのに、それらに対して感謝する気持ちになれるわけがありませんでした。

私と違い、子供たちは自分の生活の中の細かなことすべてに気づいています。彼らの目はどんなことも見逃さず、彼らの心はどんなことにも感動します。5歳の息子は体を元気いっぱい動かして楽しそうに走り回っています。それはカロリーを燃焼させるためでもなければ、目標とする心拍数に達するためでもありません。3歳の息子は、音楽に合わせて踊ったり、足先で泥んこをこね回して温かい泥の感触を楽しんだりしています。赤ん坊はむくなく喜びそのものです。石けんの泡をなめたり、髪の毛にリンゴジャムをなすりつけたら、黒光りするカブト虫を追いかけたりしています。清潔さについての大人の考えや6本足の生き物に対する嫌悪感などにはちっともとらわれていないのです。

確かに私にもこの子供たちのような時があったことでしょうか。ところがいつの間にか、子供らしい伸びやかさや何にでも驚く新鮮な気持ちを失ってしまったのです。多忙な大人の生活の中で、ふだんの生活の中にある喜びを忘れてしまったのです。ごくありふれた平凡で単純な事柄に対する感謝を忘れてしまったのです。

もちろん「大きな祝福」に対しては感謝していました。いつも健康と家族と福音に対して感謝していました。これらの賜たまものを無視することはできません。病院へ見舞いに行ったり自分が時折病気になる、健康は確かに大きな祝福だと強く感じるものです。ただ早口でもごもごつぶやくように祈る事柄ではないのです。休日の夕食、子供たちがクレヨンで書いてくれたカード、やさしい抱擁などは豊かで満ち足りた家庭





生活に対して感謝すべきことを思い起こさせてくれます。また、祈りがこたえられたり、^{せいさん}聖餐会で鼓舞されたりすると、福音に対して主に感謝する気持ちがわいてきます。

また、人は苦難に遭うと感謝の念を覚えるようになります。1986年度のノーベル平和賞を受賞した際、エリー・ウィーゼル(訳注——1928年ルーマニア生。アメリカの作家)が、述べた次の言葉に、私も同感です。「やみの王国から抜け出た人のみが本当に感謝することを知っている。」

私はエリー・ウィーゼルのように残酷なユダヤ人への迫害や虐殺に巻き込まれてはいませんが、人生の暗い時期を過ごしてからは、感謝の念を早くまた強く覚えるようになりました。何度も悲痛な流産をした後で、最初の息子が正常な分んで元気よく生まれた時は、すぐに感謝の気持ちがあふれてきました。

2番目の息子が致命的な重病から回復した時も、あふれるばかりの感謝に満たされました。3番目の子供を産む時、合併症があったにもかかわらず元気な男の子が生まれた時には、心の中で感謝の歌を歌いました。

しかし、日々の感謝についてはどうでしょうか。それも福音の一部ではないでしょうか。もちろん福音を中心とした生活には、信仰、礼拝、義務、愛という要素が含まれますが、感謝も欠くことのできないものです。

子供のように素直に感謝することについて考えると、幼な子のようにになりなさいというキリストの戒めを思い出します。幼な子のようになるということは、ひとつには感謝の念を覚え感謝を表わす力を伸ばすことではないでしょうか。「忙しい」という大人の感覚があまりにも長い間、感謝する心を押

しつぶしてきたのです。大小を問わずいろいろな祝福や、生活を豊かにしてくれる人々に気づかないほど忙しい生活はもうしたくはありません。そこで私は、子供が毎日きちんと根気強くピアノの練習をするように、感謝することを実行しようと決心しました。

すると、すばらしいことが起きました。ただそれは、この世的な意味ではなく、また何か大げさなものでもなく、小さな日常的な事柄でした。新たな目で物事を見られるようになったのです。

私は夕焼けを眺めるようになりました。夕焼けなど今までは気づきもしませんでした。家族を外に連れ出し、紫色がかかった美しい空を眺めるようになりました。赤ん坊の顔の美しさに見とれるようになりました。たとえその顔につぶれたグリーンピースやソースがこびりついていようと。夜、夫が息子たちをやさしくベッドに寝かしつけている姿を見て、夫を心から愛していることを改めて感じるようになりました。また、子供たちと一緒に砂遊びに興じ、さらさらとした白い砂の感触を楽しむようになりました。「やみの王国」を通らなくても、感謝の気持ちを覚えるようになったのです。

私はこれまでいつも、感謝は愛や怒りのように自然に沸き上がる気持ちだと思っていました。しかし、感謝は希望や信仰のような徳に近いものです。自然に起こる気持ちではなく、幼な子のようになることによって学び、あるいは学び直すことのできるものです。練習により、身につけられる特質です。ショパンのエチュードでむずかしい音節を習得するときのように、練習するにつれて身につけていくのです。

しかしたとえ感謝を完全に修得しても、それで私たちのすべての問題が解決するわけではありません。感謝する

ことは、人生の苦痛や傷を無視するというような否定的な態度とは違うからです。また、利己的でうぬぼれた態度を取ることもありません。感謝することで悲しみや苦しみがなくなるわけではありませんが、そのような時を耐えやすいものにしてくれます。感謝は私たちを霊的に強め、人生の険しい道をいくらかでも歩きやすくしてくれるのです。

私たちの生活にはあまりにたくさんなすべき事柄がありすぎて、感謝を表わし、賛美歌の一節にあるように、み恵みを数えあげることがいつでもたやすいとは限りません。今日、人々は祝福を数えあげること、あまり目を向けようとしません。世の中は私たちが持っていないもの、つまり新しい車や海外旅行、そして際限のない物質的所有物を手に入れるための金銭に私たちの注意を向けさせようとしています。

このようにこの世の人々は自分の欲望を満たすことばかりを追い求めています。福音は私たちに感謝の大切さを教えています。その重要性について救い主はルカによる福音書第17章11節から19節で、次のように説明していらっしゃいます。イエスは10人のハンセン病患者を癒されましたが、感謝を述べるために戻ってきたのは、10人のうちたったひとりだけでした。その人は神をほめたたえ、キリストの足元にひれ伏して感謝しました。イエスはお尋ねになりました。「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。」(17節)

私もよく同じ疑問を感じました。社会から見捨てられていたのが、すっかり健康になって社会に復帰し、生活が180度変わった9人はどこへ行ったのでしょうか。そのような大変な病から奇跡的に癒されたのに、「ありがとう」

のひとと言も言わないなどということがどうしてできたのでしょうか。彼らは奇跡のすばらしさを理解していなかったのでしょうか。彼らの両親は感謝することを教えなかったのでしょうか。

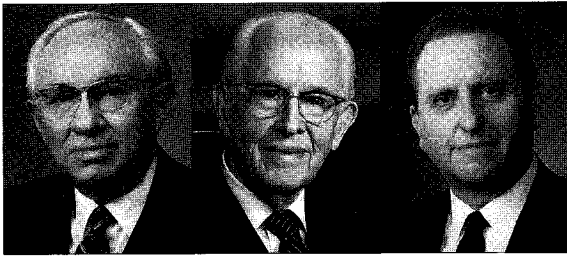
そうではないと思います。聖典には何も書かれてはいませんが、今日私たちが持っているのと同じ悩みを、2,000年前の彼らも持っていたのではないのでしょうか。ささいな日常茶飯事に追われていたのかもしれませんが。自分の生活のさまざまな問題にとらわれて、ただ単に忘れてしまったのかもしれませんが。家族や隣近所の人たちと少しでも早く交わりたいと思う一方で、以前の惨めな生活についてはすっかり忘れてしまいたいと思ったのかもしれませんが。ルカによる福音書にはこのようなことは書かれていません。ただわかっているのは、戻ってきたのがたったひとりだけだったということです。

そのひとは本当に祝福された人でした。単に病気が癒されたというだけでなく、感謝の気持ちを忘れなかったために特別に祝福されたのです。彼は感謝の心を持ち、感謝を表わすために立ち止まることができたのです。多くの子供たちもこの病人と似ています。立ち止まって感謝しているからです。

息子が天父にピザや両親や兄たちのことを感謝するのを聞いてから、私もあの癒されたハンセン病患者を、また3人の息子を見習い始めました。暖かい毛布、ふんわりとした雲、白いチューリップに感謝するようになりました。わんぱくながらも元気のいい3人の子供たちに、彼らが中耳炎にかからずに過ごせる冬に、そして愛する夫に感謝するようになったのです。

こうして私は、感謝の歌を歌うようになりました。□

専任宣教師として仕えるための条件、 再び強調される



大管長会は、専任宣教師として仕えようとする人々を推薦する際、地元の指導者が従うべき既存の原則と方針を再び強調するとともに、明確にした。

世界じゅうの指導者にあてた手紙の中で、大管長会は、専任宣教師として奉仕することは権利ではなく特権であり、その目的は教会に貢献し、啓示された主のみこころを成就することであるという原則を強調している。

「私たちの呼びかけに無私の心でこたえ、専任宣教師の召しを受けるために、霊的、肉体的、情緒的、道

徳的にふさわしくなろうと備えている人々に、心から感謝しています」と大管長会は述べている。

指導者への手紙に添付された方針書には、専任宣教師として働くことができない人にも、「各自の状況に合わせて、奉仕の喜びと個人の成長を経験できる」ような有意義な機会を地元で与えるように、という配慮が明示されている。

「深刻な身体的、知的、情緒的問題と戦いながら、専任宣教師として仕え、全うすることが義務であると感じている人々を見ると、心打たれるものがある」と同方針書には述べられている。

この方針書は、宣教師の任務は大変な労力を要すると強調している。そして、厳しい専任宣教師の務めを遂行するうえで妨げとなる重大な身体的、知的、情緒的問題を抱えている人にとって、宣教師の任務は適切でないことも強調している。また地元の指導者に対し、全世界に広がりつつある伝道の業に就くにふさわしい青少年を育成するよう奨励している。□

新伝道部、創設される

去る3月、大管長会は東ヨーロッパやアメリカなどに、新しく17の伝道部を開設すると発表した。新設されたのは以下の伝道部であり、そのほとんどは今年7月1日に伝道活動を開始する予定である。

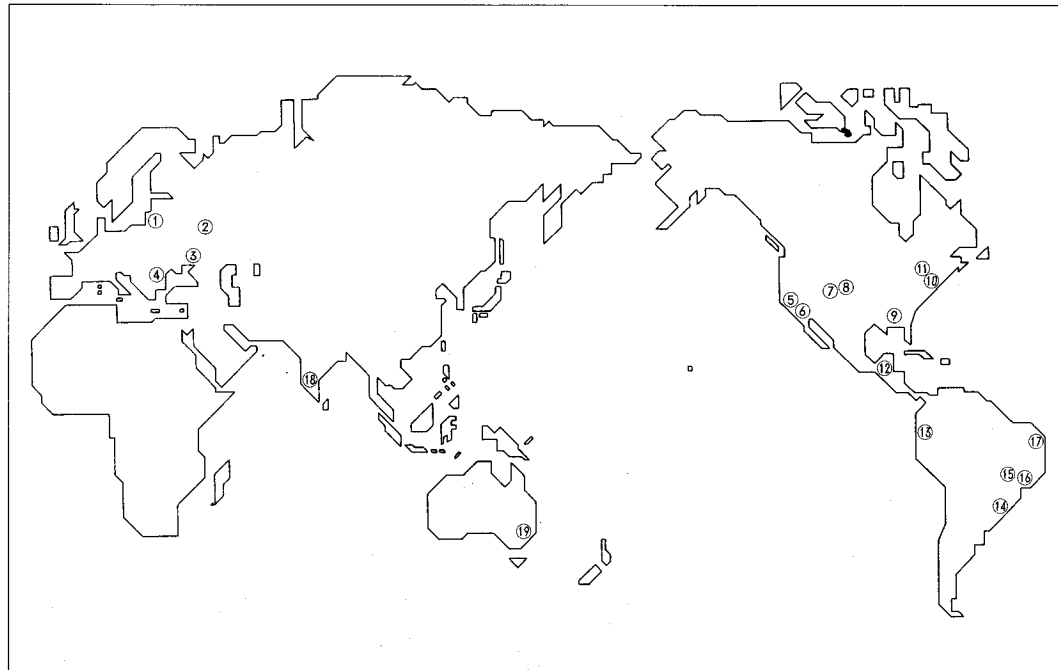
①ラトビア・リガ伝道部。ロシア・サンクトペテルブルグ伝道部より分割。
②ロシア・サマラ伝道部。ロシア・モスクワ伝道部からボルガ川までの伝道地域拡大のために新設。
③ウクライナ・ドネツク伝道部。ウクライナ・キエフ伝道部の南東に新設。
④ルーマニア・ブカレスト伝道部。ハンガリ

ー・ブダペスト伝道部より分割。
⑤カリフォルニア州ローズビル伝道部。カリフォルニア州サクラメント伝道部より分割。
⑥カリフォルニア州カールスバッド伝道部。カリフォルニア州サンディエゴ伝道部より分割。
⑦コロラド州デンバー北伝道部。コロラド州デンバー伝道部より分割。
⑧ネブラスカ州オマハ伝道部。ミズーリ州インデペンデンス伝道部より分割。
⑨テネシー州ノックスビル伝道部。テネシー州ナッシュビル伝道部より分割。
⑩ニューヨーク州ニューヨーク南伝道部。ニューヨーク州ニューヨーク伝道部より分割。

⑪カナダ・トロント西伝道部。カナダ・トロント伝道部より分割。
⑫グアテマラ・グアテマラシティ中央伝道部。グアテマラ・ケサルテナンゴ伝道部より分割。
⑬ペルー・チクラヨ伝道部。ペルー・トルヒーヨ伝道部より分割。
⑭ブラジル・フロリアノポリス伝道部。ブラジル・クリチーバ伝道部より分割。
⑮ブラジル・リベイランプレート伝道部。ブラジル・カンピーナス伝道部より分割。今年2月1日開設。
⑯ブラジル・リオデジャネイロ北伝道部。今年2月1日開設。
⑰ブラジル・レシフェ南伝道部。ブラジル・レシフェ伝

道部より分割。

3月以前にすでに発表されていたのは、⑱インド・パングロール伝道部と⑲オーストラリア・シドニー北伝道部(今年1月1日開設)の両伝道部である。これらの伝道部の創設により、伝道部数は、北アメリカ93、メキシコ・中央アメリカ29、南アメリカ55、カリブ海8、イギリス諸島8、ヨーロッパ43、アフリカ12、フィリピン・マイクロネシア14、アジア20、南太平洋13となる。(「チャーチニューズ」1993年3月6、13、27日付)



ソルトレーク神殿 献堂100周年

神聖なみ業の旗印

今年はソルトレーク神殿が献堂されて100周年に当たる。

ソルトレーク神殿が献堂されたのは、1893年4月6日、総大会の時節であった。40年の歳月を費やして建てられたこの神殿は、今日、「末の日になって、主の家の山はもろもろの山のかしらとして堅く立てられ……もろもろの民はこれに流れくる」(ミカ4:1)と、ミカに語られた予言を成就するものである。

ブリガム・ヤング第2代大管長とウィルフォード・ウッドラフ第4代大管長は聖徒がソルトレーク盆地に到着する前に、ソルトレーク神殿を示現のうちに見ていた。神殿の建設に際し、れんが造りにするか砂岩造りにするかで論議された時、ウッドラフ大管長は先に見た示現から、かこう岩でなくてはならないとわかっていた、と後に語った。

ジョセフ・スミスは1834年に、聖徒

らがロッキー山脈を越え、神殿を建てると予言をしていた。また、聖徒たちがソルトレーク盆地に到着する前に、ジョセフ・スミスは示現でソルトレーク盆地とその町の配置を見ており、それをヤング大管長に示したことを裏付ける歴史的証拠がある。しかしながら、ヤング大管長が神殿用地を決めたのは、聖徒たちがソルトレーク盆地に到着した7月24日から4日後であった。その間、ヤング大管長はエンサインピーク(ソルトレーク北方にある峰)に登り、先にジョセフ・スミスによって示されていた啓示を確かめたのであろう。その後ついでに神殿用地を指して、「この40エーカー(約16万2,000平方メートル)の敷地に神殿を建て、町は東西南北、基盤の目のように作ります」と語った。

カートランド神殿やノーヴー神殿を後にしてきた聖徒たちは、ユタで最初

の神殿としてソルトレーク神殿の建築に取りかかったが、完成したのはセントジョージ神殿、ローガン神殿、マンタイ神殿が先であった。

40年の間にはさまざまな困難もあった。ユタ戦争や1858年のジョンストンの率いる軍の到着で、建設を中断しなくてはならなかった。土台は再び覆われ、耕されたばかりの畑のように装われた。危機が去り、覆いを取り除くと、礎石の強度が十分でないことが判明し、小さな石をモルタルで固めた土台が取り除かれ、代わりに重量のある切り石が土台として据えられた。

建設が長引いたもうひとつの理由は、石を遠く離れたリトルコットンウッド・キャニオンから馬車で運ばなくてはならなかったことにある。重い石は2.5トンもあり、移動に3日を要した。馬車が壊れることもしばしばであった。

また、ソルトレーク劇場やZ C M I(シオンの協同商業商会。最初の百貨店)など、ほかの建設に人手を取られることもあった。さらにヤング大管長は、大陸横断鉄道の完成に手を貸す契約もしたのである。しかしながら、これは長い目で見れば物資の調達に役立つことになり、かこう岩を採石場から運ぶのが楽になった。結果的には完成を早めたのである。

鍬入れ式は1853年2月14日に行なわれ、ヤング大管長が話をし、ヒーバー・C・キンボール副管長が敷地を奉

献する祈りを捧げた。次に引用する参列者の言葉から、当時の末日聖徒の窮状をうかがい知ることができる。

「神殿の鞆入れ式が行なわれる朝、式に出席するために歩いて行きました。ぼろぼろになった靴を履いて、雪が半分解けた、ぐちゃぐちゃのぬかるみの中を行きました。私のはいていたズボンは、妻の綿のスカートから作ったもので、薄手の格子模様でした。また綿のシャツを着て、麦わら帽子をかぶっていました。実は持っていた服はそれだけだったのです。貧しいのは私だけではありません。私のような人がたくさんいるのです。」

1853年4月6日、すみ石が置かれた。4つのすみ石にはそれぞれ意味があり、南東部は大管長会、南西部はアロン神権、北西部はメルキゼデク神権、北東部は使徒職、すなわちヤング大管長が言った「完全な神権」を象徴している。

1892年4月6日、かさ石が置かれた。この時はすでにヤング大管長もジョン・テイラー大管長も他界し、ウィルフォード・ウッドラフが大管長であった。かさ石が積まれたのは東部中央の塔の上で、天使モロナイの像の真下である。かさ石の中には四大聖典などの書物、教会幹部の写真、神殿建設の簡単な歴史が刻まれた碑が納められた。

同日、総大会を閉じるに際してウッドラフ大管長が短くタバナクルで話した後、11時半に神殿の敷地へ移行し、ジョセフ・F・スミス副管長が奉献の祈りを捧げた。かさ石はウッドラフ大管長がスイッチを入れると定置された。

翌年、内装工事を終え、ソルトレーク神殿の完成の日を迎えた。パプテスマフォントも完成し、絵画の技能を学ぶように教会から派遣されていた人々がフランスから呼び戻され、神殿の「園の部屋」や「現世の部屋」などの壁面に絵を描いた。

1893年4月6日、ソルトレーク神殿は献堂された。儀式はアッセンブリールームで行なわれ、ふさわしい教会員ができるだけ参加できるように、数週間にわたって繰り返された。当時、ほとんどの教会はユタ準州内にあり、ユタが州として認可されたのはこの3年後であった。

ウッドラフ大管長は奉献の祈りの中でこう語った。「主よ、私たちはこの神聖な宮居の完成を言葉では言い表せない驚きの気持ちで見つめています。あなたの契約の子らがみ助けによってこの山岳に建てた、4番目の神殿を受

PHOTO BY CHARLES W. CARTER

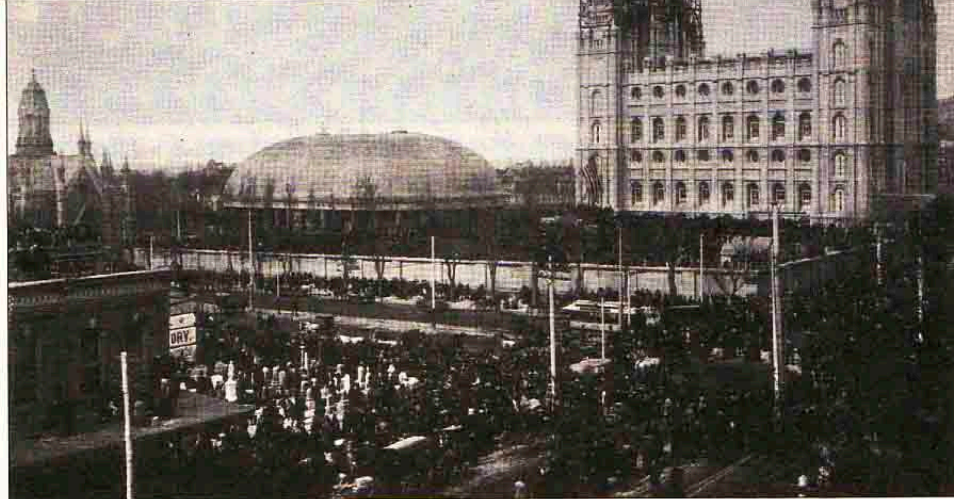


PHOTO BY CHARLES R. SAVAGE

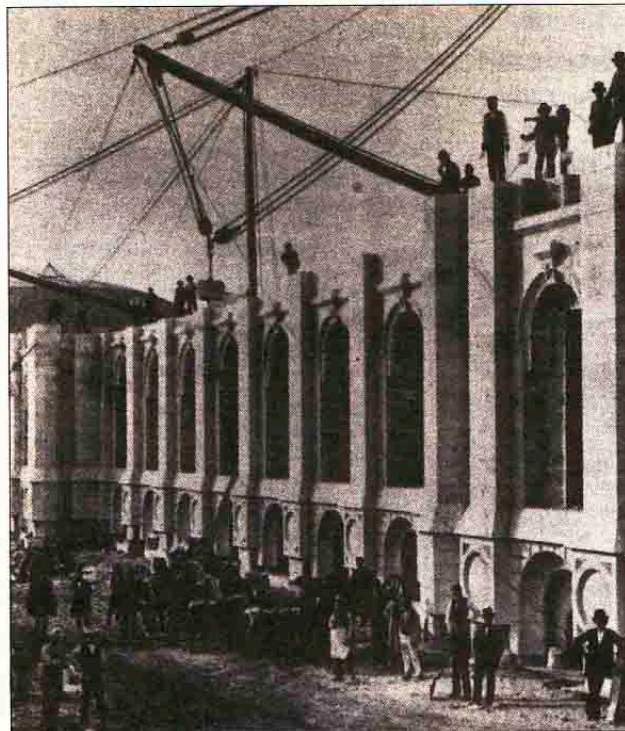


PHOTO COURTESY LDS CHURCH

け入れてくださるように願うものです。」

「主の家の山」が完成した。福音はいまやあらゆる国民、血族、国語の民に広がり、世界中に数多くの神殿が建てられ、ソルトレーク神殿は教会と世界の旗印となり、物質的にも霊的にもこの神聖なみ業の中心的存在となっている。（「チャーチニュース」1993年2月6日付）

写真(上)リトルコットンウッド・キャニオンの入り口で神殿のために採石をする教会員

(中)1892年4月6日、神殿のかさ石が置かれた。この日何千人も人が神殿の周囲を取り巻き、屋上や電柱に座っている人もたくさんいた。

(下)滑車を使って神殿の壁に使うかこう岩を引き上げる作業員

献する祈りを捧げた。次に引用する参列者の言葉から、当時の末日聖徒の窮状をうかがい知ることができる。

「神殿の鉄入れ式が行なわれる朝、式に出席するために歩いて行きました。ぼろぼろになった靴を履いて、雪が半分解けた、ぐちゃぐちゃのぬかるみの中を行きました。私のはいていたズボンは、妻の綿のスカートから作ったもので、薄手の格子模様でした。また綿のシャツを着て、麦わら帽子をかぶっていました。実は持っていた服はそれだけだったのです。貧しいのは私だけではありません。私のような人がたくさんいるのです。」

1853年4月6日、すみ石が置かれた。4つのすみ石にはそれぞれ意味があり、南東部は大管長会、南西部はアロン神権、北西部はメルキゼデク神権、北東部は使徒職、すなわちヤング大管長が言った「完全な神権」を象徴している。

1892年4月6日、かさ石が置かれた。この時はすでにヤング大管長もジョン・テイラー大管長も他界し、ウィルフォード・ウッドラフが大管長であった。かさ石が積まれたのは東部中央の塔の上で、天使モロナイの像の真下である。かさ石の中には四大聖典などの書物、教会幹部の写真、神殿建設の簡単な歴史が刻まれた碑が納められた。

同日、総大会を閉じるに際してウッドラフ大管長が短くタバナクルで話した後、11時半に神殿の敷地へ移行し、ジョセフ・F・スミス副管長が奉献の祈りを捧げた。かさ石はウッドラフ大管長がスイッチを入れると定置された。

翌年、内装工事を終え、ソルトレーク神殿の完成の日を迎えた。バプテスマフォントも完成し、絵画の技能を学ぶように教会から派遣されていた人々がフランスから呼び戻され、神殿の「園の部屋」や「現世の部屋」などの壁面に絵を描いた。

1893年4月6日、ソルトレーク神殿は献堂された。儀式はアッセンブリールームで行なわれ、ふさわしい教会員ができるだけ参加できるように、数週間にわたって繰り返された。当時、ほとんどの教会はユタ準州内にあり、ユタが州として認可されたのはこの3年後であった。

ウッドラフ大管長は奉献の祈りの中でこう語った。「主よ、私たちはこの神聖な宮居の完成を言葉では言い表わせない驚きの気持ちで見つめています。あなたの契約の子らがみ助けによってこの山岳に建てた、4番目の神殿を受

け入れてくださるよう願うものです。」

「主の家の山」が完成した。福音はいまやあらゆる国民、血族、国語の民に広がり、世界中に数多くの神殿が建てられ、ソルトレーク神殿は教会と世界の旗印となり、物質的にも霊的にもこの神聖なみ業の中心的存在となっている。（「チャーチニュース」1993年2月6日付）

PHOTO BY CHARLES W. CARTER

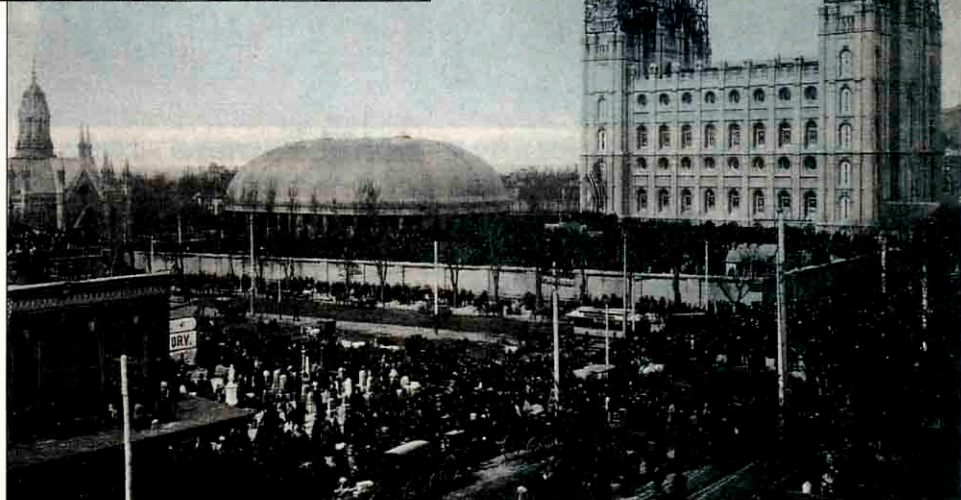


PHOTO BY CHARLES R. SAVAGE

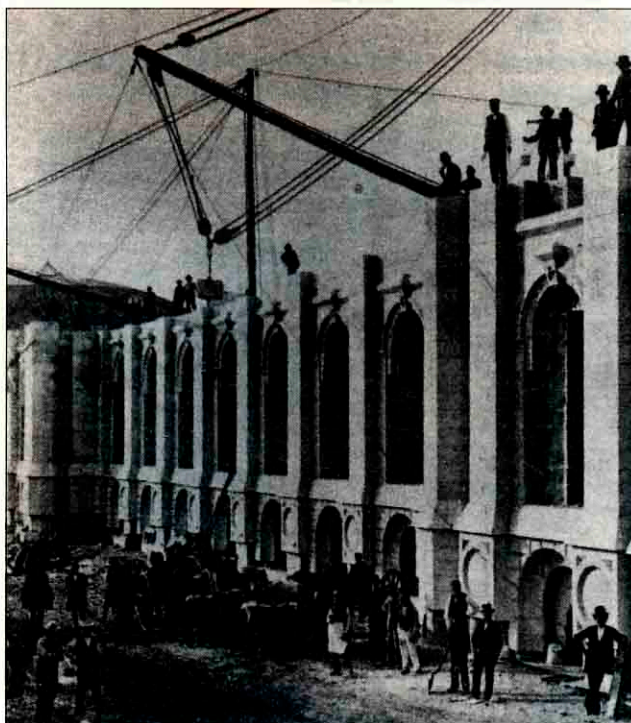


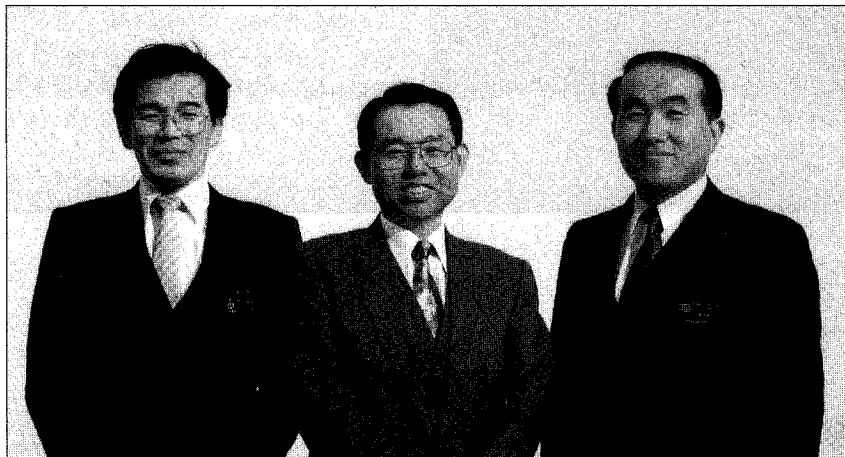
PHOTO COURTESY LDS CHURCH

写真(上)リトルコットンウッド・キャニオンの入り口で神殿のために採石をする教会員

(中)1892年4月6日、神殿のかさ石が置かれた。この日何千人も人が神殿の周囲を取り巻き、屋上や電柱に座っている人もたくさんいた。

(下)滑車を使って神殿の壁に使うかこう岩を引き上げる作業員

再組織された岡山ステークス部長会



去る1月24日、アジア北地域会長会第一副会長韓仁相長老管理の下に開催された岡山ステークス部大会において、1983年3月よりステークス部長の責任を果たしてこられた渡辺明兄弟が解任され、新たに牧野正三兄弟(写真中央)が召されました。第一副ステークス部長には河本省吾兄弟(写真左)が、第二副ステークス部長には高田俊久兄弟(写真右)が召され、その任に当たります。

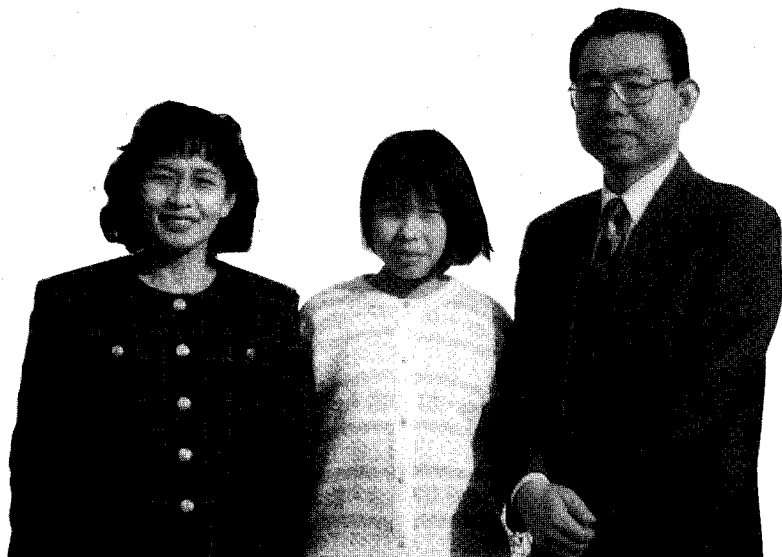
信仰をすべての基として

岡山ステークス部長 牧野正三

昭和40年11月のある日、いつものように大学の授業を終えて下宿先まで歩いて帰っている時に、下宿の近くでふたりの外人に声をかけられました。3年生であった私と年代代とい

うこともあって彼らに親しみを覚え、私は福音を学ぶようになりました。特にこの宗教について間違っているという気持ちも起こらず、そのまま昭和41年1月23日の早朝、京都支部の屋外に設けられたフォントで、宣教師や支部の人々

牧野正三ステークス部長ご家族



に見守られてバプテスマを受けました。

4年生になって、交際している姉妹と卒業後就職してすぐに結婚すべきか、あるいは大学院に進学すべきか悩みましたが、修士課程に進学し、2年間化学工学の勉強を続けることに決めました。

修士課程を終えた昭和44年4月、合繊会社に就職し、最初の赴任地は新潟でした。それまで日本海側で生活したことのない私は、この地方の冬の厳しさを初めて経験するとともに、新潟支部の信仰のあつい会員とも知り合うことができました。大学時代から交際していた田村聡子姉妹とも11月3日に郷里である大阪の岡町支部で結婚式を挙げ、2年後にはハワイ神殿で結び固めの儀式を受けました。

昭和48年7月、転勤で富山に移り、できたばかりの富山支部で若い人々とともに、続けて福音を学びました。

昭和51年1月、三重県の四日市市に転勤し、工場の増設工事を担当しました。翌年5月、工事の監督中に濃硫酸を体表面の20パーセントにわたって浴び、救急車で病院に運ばれました。神権者による灌油の儀式と会員のかたがたの祈りのおかげで一命を取り留め、その後2回の植皮手術を受けて半年後に現場に復帰することができました。

昭和53年2月に今住んでいる岡山に移り、現在に至っています。岡山に住むようになって5年が過ぎた時、岡山地方部はステークス部になり、それに伴って副ステークス部長に召され、ちょうど10年がたちました。その間、2度にわたる単身赴任がありましたが、当時のステークス部長をはじめ周りの人々の助けにより、なんとかその責任を果たすことができました。

平成5年1月23日、それはバプテスマを受けて満27年を迎えた記念日でしたが、アジア北地域会長会の韓仁相長老より面接を受け、翌日ステークス部長に召されました。

田中靖也長老(地区代表), 清姉妹ご夫妻に聞く

「天国は理想的な家庭の延長である」

これから頑張ろうと思っていた矢先、2月に尿管結石の破碎手術を受けるために入院していた病院で、精密検査を受けたところ、左の腎臓に腫瘍があることがわかり、腎臓の摘出手術を受ける羽目になりました。しかし結石による痛みがなければ、この腫瘍を発見できなかったわけであり、神様の導きであると感謝しています。

これまで27年間信仰生活を続けてきて、信仰は自分で大事に育てていかなければすぐに枯れてしまい、また、自分だけの単独の信仰生活でも成長しないものだと感じています。平々凡々な日々の生活の積み重ねが信仰の土壌だと思います。

日本における会員の定着率の低さがいつも問題になりますが、会員一人一人が真の改宗をしなければ、解決できないでしょう。そのためにも指導者は良き羊飼いととしての役割を十分知る必要があるのではないのでしょうか。

これまでの経験から家庭がすべての基盤であり、性格は違っていても信仰による一致が大切であることも、ようやく知ることができるようになりました。子供4人のうち、長女の由紀子が仙台で伝道し、次女の加寿子はアメリカのユタ州に留学し、その下の長男英一が茨木県取手市に下宿しているので、現在は末っ子の聖衣子との3人暮らしになりましたが、今一番家族の一致を感じています。

就職して23年になりますが、学生時代に専攻した学科が、設計部に配属されて、化学プラントの設計や建設をしていくうえで有効に生かされ、良き仲間にも恵まれて、楽しく自信を持って仕事ができるので感謝しています。しっかりした技術を身につけることにより、会社の中でも、また、転勤などで環境が変わってもスムーズに仕事と信仰を両立させることができました。

これから、岡山ステークス部がシオン(心の清い民)の住む地となりますように(モーセ7:17-18参照)、微力ですが努力したいと思います。

確かに神様が生きておられ、イエス様が救い主であること、また、私たちに予言者が与えられていることを証します。(まきの・しょうぞう)

★教会の集会などでたびたび手話通訳をし、1990、1992年と横浜で開かれたろう者大会の開催に携わった田中長老ご夫妻にインタビューをしました。

(以下敬称略)

●「教会の長老とでなければ」

—おふたりのなれそめは、手話サークルからだったそうですね。

靖也「大学に入った時、耳の不自由な友人がいて手話を学ぶ機会がありました。1966年、私が21歳の時、横浜市の手話通訳奉仕団『たつの会』(耳の形がタツノオトシゴに似ていることから、ろうあ者の象徴となっている)に結成と同時に入会したのですが、同じころ入会した水島姉妹(清姉妹の旧姓)が講師をし、私が世話役をしていました。今でこそ入会希望者が多くて抽選でないと入れないような状況ですが、当時は手話を学ぶ人が少なく私と彼女だけという日も多く、自然と親しくなりました。

1970年の万国博覧会のあった年に、大阪で初めてのハワイ神殿訪問ツアー

があって、彼女がそれに参加すると言っているので、私はまだ教会員ではありませんでしたが、大阪国際空港まで見送りに行きました。私は当時24歳で、大学を卒業して司法試験受験のために浪人していました。髪を伸ばし、ゴム草履姿のすごい格好で出かけたんです。その時お会いした教会員のかたがたは、どこの馬の骨とも知れない私を温かく歓迎してくださいました。それがとても強く印象に残りました。」

清「そのツアーに参加した時、ハワイで祝福師の祝福を受けました。面接で好きな人がいますかと聞かれて、『いませんが、私を見送りに来てくれた人がいました』と申しあげたら、その祝福師の方が『その人と結婚するでしょう』とあっさりと言われるものですから、とても驚きました。私はこれで神殿にも入ったのだし、結婚は教会員としよう決心して、『教会の長老とでなければ結婚できない』と彼に航空便ではがきを送ったんです。」

靖也「そのはがきには少なからぬ衝撃を受けました。彼女が帰国してからは結婚したい一心で、一緒に教会に集



インタビューに応じる田中長老ご夫妻

い、宣教師からレッスンを受け始めました。そして3カ月後の1970年10月23日にバプテスマを受けました。翌月に、東京ステークス部大会があったのですが、当時第一副ステークス部長であった菊地良彦兄弟(現七十人第一定員会会員)が大会で、これまでの彼の経歴や家族を愛することについてお話しされました。とても感動して涙をぼろぼろ流したんです。そのとき初めて、みたまを感じましたね。」

——田中姉妹の改宗はいつごろですか。

清「私が小学校1年生の時、母が宣教師からお話を伺うようになったのですが、両親がともにろうあ者ですから、姉たちと一緒に手話で両親に宣教師のお話を伝えました。両親は結局、教会に入らなかったのですが、私は先に改宗した姉に連れられて中学1年のころから教会に行くようになり、間もなく改宗しました。私は5人兄妹の末っ子ですが、兄と一番上の姉を除いて3人が改宗しました。2番目の姉が斉藤由貴の母親で、3番目の姉が遠藤家(遠藤大兄弟は現横浜ステークス部長)に嫁いでいます。」

●18歳の時から、手話の奉仕活動

——手話通訳の技術を身につけられたのはいつごろですか。NHK手話ニュースキャスターとしてのお姿もテレビで拝見していますが、そのほかにどのような活動をしていらっしゃいますか。

清「耳の不自由な両親の元に生まれましたので、手話は私の母国語として自然に身につきました。幼いころから電話の応対から買い物まで通訳したんです。18歳の時に、手話通訳奉仕団が結成され、その時から奉仕活動をしてきました。選挙で立ち会い演説の通訳をしたこともあります。」

現在、テレビの手話ニュースの仕事は週3回ですが、そのほかに横浜市手話通訳として、ろう者の方が病院や学校、会社などへ行くとき、同行して通訳します。それが週4、5回ですね。そのほかに手話講習会の講師として、また手話サークルや福祉事業関係、学校のPTAなどから月2、3回の講演も依頼されます。私自身としては、今できることを少しでも社会の中でお役に立てられればと考えていますが、夫や子供たちの理解と協力がなくてはできないことです。私のわがママを全面的に受け入れてくれる家族に感謝しています。聴覚障害者の両親の元に生まれ育ったおかげで、手話を通じて多くのかたがたにお会いし、奉仕できますことも主に感謝しています。」

●「がんばり3唱」

——お子さんが6人おられると何かと苦勞も多いかと思いますが、家族の一致を図るためにどのような努力をしていらっしゃいますか。

靖也「我が家では朝起きると家族ですることが5つあるんです。最初に宣教師のためにお祈りをします。これは

家族で順番に行ないます。それに引き続き、私が家長として家族のためにお祈りを捧げ、全員で聖句を暗唱します。始めたころは、信仰箇条を順番に覚えましたが、今は、モルモン経のセミナーで習うマスター聖句を暗唱しています。それからモルモン経を読むのですが、1年間に2回半読めますね。これまで20回読みました。子供が小さい時は親が読んだ言葉を子供に復唱させました。最後に『がんばり3唱』というのをします。『きょうも頑張りましょう!』を3回みんなで唱和するんです。これらを全部行なうのに30分ほどかかりますが、我が家の毎朝の習慣となっています。」

今の形になったのは10年ほど前の6人目の子供が生まれてからです。全員そろって輪になり、敬虔な気持ちで始めたいと考えていました。が、実際は理想どおりいきませんで、考え直して、子供が途中で抜けたり遅れて輪に加わったりしても、とがめずに子供たちの自覚と自由意志に任せることにしたんです。それが長続きの秘けつだと思ふようになりました。『家庭の夕べ』でも同じです。『家庭の夕べ』が説教の時間になってしまったのでは楽しくないですからね。怒ってしまったら、みたまが失われますよ。」

清「『家庭の夕べ』では子供たちが司会をして、主人が『聖徒の道』などからお話をするんですが、主人自身はその話に感動して涙を流すことがしばしばあるんです。子供たちが熱心に話を聞いていない時でも、主人の感動している姿に感動するということがあるんですね。主人は涙もろいというのか、感受性が豊かなんです。」

靖也「教会に入ってからには特にその傾向が強くなったように思います。『人生は感動の連続』でありたいと思うのですが、私の感受性は、主のみたまによって一層強められているように思います。」



「NHK手話ニュース」に出演中の田中清姉妹(NHK手話ニュースセンターにて)。最近制作されている教会のビデオの手話通訳も、田中姉妹が行なっている。



田中ご家族。左から靖也兄弟、希美姉妹(14)、徹也兄弟(18)、美海姉妹(11)、清姉妹、琢也兄弟(20)、雄也兄弟(16)。写真右の美樹姉妹(19)は米国に留学中。

●あるがままに受け入れる

——最後になりますが、21年間の結婚生活を振り返って、幸せな家庭を築く秘けつをお話してください。

靖也「以前に田中健治兄弟が東京ステークス部長(日本で最初に組織されたステークス部の初代ステークス部長)であった時に『1日に3回は奥さんに愛していると言いなさい』と、アドバイスされた言葉は結婚以来ずっと実行しています。

愛するとは、あるがままに受け入れることだと思うんです。夫婦間でも、あるいは子供に接する場合でも、それが正しいか正しくないかの判断で押し付けるのではなく、その人の現状のレベルで理解し、助けてあげることが大切だと途中で気がついたんです。たとえば子供の場合でも、親のペース、やり方で押し通そうとするのではなく、その子のペース、やり方、レベルで物事ができるように助けること、これがイエス・キリストの純粋な愛だと気づいて、実行するようになってからは、『天国は理想的な家庭の延長である』(『日の光栄の結婚』p. 258)と言われたデビッド・O・マッケイ大管長の言葉が実感できるようになりました。』

〈たなか・せいや〉1945年宮城県鳴子町生まれ。化粧品会社営業推進部マネージャー。2年前に地区代表に召され、静岡、名古屋、大阪地区を担当。横浜ステークス部横浜第2ワード部所属。
 〈たなか・きよ〉1948年横浜市生まれ。現在、横浜ステークス部初等協会第一副会長。

〔インタビュー後記〕何年か前に田中ご家族のお宅に伺う機会がありましたが、壁に大きな模造紙がはってあって、それに信仰箇条がびっしりと書かれていました。現在はセミナーのマスター聖句がそれにとって代わっているようですが、その手書きの文字を見ただけで、ご家族の結束した様子が伝わってくるようでした。今回のインタビューを終え、充実した信仰生活の基は、まず家庭を整えることにあるという原則を改めて教えられました。

●「朝は早く起きて……」

——健康管理面ではどのようなことに留意していらっしゃいますか。

靖也「私は家族の朝の集いをする前に、20分ほど体操やジョギングをしています。教義と聖約の第88章124節にある『早く臥床に入りて疲れを休めよ。朝は早く起きて女の肉体と精神とを活気づけよ』との聖句の実践ですね。それと睡眠は十分に取るようにしています。起きているときはいつも頭をクリアにしておきたいですし、集会中でも居眠りしないようにしたいですからね。11時に寝て6時前に起きるというのが、だいたいの生活パターンです。睡眠不足では主のみたまを受けにくいからです。」

——2年前に地区代表に召される前はステークス部長を5年間しておられましたし、これまでさまざまな責任を果たしてこられました。特に印象に残っているものにどのような召しがありますか。

靖也「監督の責任です。我が家の子供たちもまだ小さくて、自分の家族を治めるのさえ易しくはないのに、ワード部の全会員を管理するのは私の力だけではどうにもならず、必死に主に祈りましたし、おのずと謙遜にもなりましたね。苦勞の多い責任であっただけに、その一方で喜びや祝福も多かったんです。」

●職場からのホットライン

——PTAの会長もしていらっしゃるとお聞きしましたが……。

靖也「前任者の浅間玄也兄弟(前地区代表)から懇願されて彼の後を引き継ぎました。子供の教育は母親だけに任せるのではなく、父親も一緒になってしなければと思うのです。授業参観や運動会、卒業式などのおもな行事には仕事を休んでも出席するのですが、こここのところ不況で多少暇になっているのか、卒業式に父親の姿が多く見られるようになりました。以前は数えるほどしかいなかったんですがね。」

清「主人がいろいろな行事に参加するものですから、子供の同級生が主人の顔を覚えていて、『きょうはお父さん、来るの』と子供に聞くんですよ。(笑)」

——ご主人が仕事や教会での責任で忙しくてストレスを感じることはありませんか。

清「主人は毎日、職場から少なくとも1回、時には2、3回電話をくれますので、たいていはそれで用が足りませんし、問題も解決できるんです。助けが必要なときは、いつでもためらうことなく、主人に助けや要求を突きつけますので、内にもって欲求不満になることが少ないです。主人は大変だと思いますが……。(笑)」

茶道の陶器師

第一のものを第一に選ぶとき

岡山伝道部松山地方部新居浜支部

青葉太一

陶工。それが私の職業です。旧約聖書を学んでいるうちに「陶器師」という言葉が出てきて、私はこの表現にとっても親しみを感じました。今では「私は陶器師です」と自己紹介をします。

私がこの道に入ったのは20歳の時でした。それまでは画家を志し、絵の勉強をしていました。ふたりのアメリカ人の青年に出会ったのもそのころで、旧約聖書の話テーマによく絵を描いていた私は、彫りの深い外国人の顔を求めていたので喜んで彼らに近づき、絵のモデルになってもらう代わりに福音を聞くという約束をしました。そして2カ月後にバプテスマを受けました。しかしその少し前から絵を趣味にとどめ、家業である窯業を継ぐために父の下で修業をすることになっていた私にとって、改宗は大きな試練の始まりとなりました。

父の陶芸は茶陶で、茶道に用いる器のみを作っていました。茶陶の家に育った私は日常生活の中に茶道の影響を強く受けていました。長男であり、家業を継ぐことが決まったばかりの私が茶を飲まない、日曜日に開かれる茶席にも出ず父の運転手をしないで教会に行くというのは、家族にとってひとつの事件となりました。すでにバプテスマを受けていた私は、どうしても宣教師との約束を守りたいと思いました。父は職人気質の人で、日曜、祭日、盆、正月も定期的な休みはなく、休むときはその都度父の許可が必要でした。毎週のホームティーチング、MIA(相互発達協会。以前の週日の活動)、インスティテュートなど、夜出かけることが多くなった私を、父は「職人は他人が寝ている間に勉強した分が力になる。おまえのように夜ごとに遊び歩いてどうする」と言ってしまいました。

私は陶工としての父の思いがよくわかっていました。この道で一人前になるためにはそれ以外のことに一切とらわれるなという父の教えも福音を知る前には心から同意していました。しかし福音を知った以上、私には父の信念を超える教えが存在することをどうしても否定できなかったのです。このように拘束された不自由な生活の中で信仰が試されてきたことが、むしろ今日まで私の霊を養い、信仰を貫く意志を育てたのだと思います。

そんなわけで私たちの結婚も随分反対され、結局結婚の約束をしてから実現するまでに5年余りを要しました。当時岐阜県土岐市に新しい窯を築いていた父は、結婚して間もない私たち夫婦をそこに呼び、仕事を手伝わせました。その数カ月間は私たちの夫婦間でバビロン捕囚の時代と呼ばれる思い出になっています。そのころはまったく教会に行くことができませんでした。日曜日は朝早く裏山に登り、賛美歌を歌い、ふたりで祈りと証会をし、また日曜学校を開きました。父や弟子が起き出す前にそれらの集会を終えて帰り、仕事にかかりました。それでも妻は夜になると布団の中で「教会に行きたい」と言って声を殺して泣きました。ふすま1枚隔てた隣で父が寝ていたからです。

ある日私は決心して四国に帰ることを父に告げました。夜明けまで論じましたが折り合わず、私はどうしても帰るという意志を曲げませんでした。とうとう父は激怒して「今後親子と思うな」と言い放ちました。着の身着のまま四国に帰った私たちは借りていた土地に窯を築くことにし、生活のために仕事を探しました。私は火力発電所で臨時雇いの肉体労働者として妻とおなかの赤ちゃんのために働きました。

そして夜と早朝に自分で窯を築いたり、仕事場を作ったりして陶工として自立する備えを続けました。10カ月の日雇い期間が終わり陶器師としてスタートしたのですが、知らない土地で無名の私がこの道だけで生計を立てるのは楽なことではありません。当時の生活は1日2食でジャガイモか乾パンしか食べられなかったのですが、ただ教会に行けることだけで十分に幸せでした。支部長に召されたのもこのころで次々と子供にも恵まれ、多くの社会的試練もありましたが、同時に多くの経験と学びも得ることができました。

ある時母から電話があり、私の住んでいる所と近い市で父の個展があることを知らされました。私は父の個展準備を手伝うために会場を訪れました。4年ぶりの再会で私を見た父は「わざわざすまん」と言いました。私は父と話しながらともに個展会場の準備のために働き、4年の空白が少しずつ埋まっていくのを感じていました。

作品を並べながら茶陶としての父の技は非常に優れていると思いました。私の作陶は食器と花器に中心を置いています。修業の一部で茶器も勉強しています。日本陶芸の粋は桃山時代の茶陶にあると思っているからです。千利休の教えに「和敬清寂」という言葉があります。これは人の和を尊び、天地の恵みを敬い、心清く、静かに自然を愛することで、茶道精神の基を成しています。一服のお点前を通してもてなす亭主と受ける客は、敬愛と感謝を分かち合い、両者を結ぶさまざまな道具は用いる人の工夫によって豊かな自然を感じさせ、人を取り巻く天と地の営みに見立てられます。茶道の作法は体の動きの美しい流れと礼節によってこの精神文化を具体化しています。茶道本来の精神と美しい作法とは、世界に誇れる日本の伝統文化と言っても過言ではないでしょう。その場にふさわしい品格を備えた器を作ることは私の生涯の夢でした。父が茶陶に引かれ、またその道を窮めるためにはすべてを捨てよと教えた気持ちがよくわかります。けれども一方、私はこの体にカフェインやタンニンを入れないことにはそれ以上の価値があり、永遠の生命を得

病院でのボランティア活動を 振り返って

町田ステキ部厚木ワード部
増田節雄



子供のころに強く心に焼きついた印象というものは、容易なことでは消え去らないものらしく、39年を経た今でもありありと昨日の出来事のように、ひとつの記憶がよみがえってきます。

ひとりのボランティアが紙芝居を持って、当時私が入院していた小児科病棟に慰問に来ていました。テレビがまだなかったころの話ですから、毎週その日になると、朝から心をわくわくさせて待っていました。その楽しさや満ち足りた感じは言葉では言い表わせません。小学校2年生だった私は、全身まひのために1年間の入院生活を強いられ、1度は自殺まで考えたこともあ

りました。そんな私にとって、その紙芝居は現実を忘れさせてくれる唯一の救いだったのかもしれませんが。

2年前の春に私は思い立って、神奈川県相模原市にある大学病院と連絡を取って、ボランティアの申し込みをしました。数週間後、面接があり、その年の11月から許可をもらって活動を開始しました。難病患者さんの話し相手になったり本を読んであげたりする仕事です。初めは肩に力が入りすぎて緊張みだったようです。それでも数カ月たつと少し慣れ、近くの女子美術大学と掛け合って、寝たきりの患者さんの慰めにと、病室に飾る絵の定期的な貸し出しの交渉も行ないました。看護

婦さんたちではとてもそこまで手が回らないとのことでした。

昨年夏には、看護婦長さんから、ひとつの相談が持ちかけられました。何人かいる全身まひの患者さんが書いた原稿がかなりたまっており、それをなんとかしたいというものでした。彼らはそれぞれ、まばたきのみで作業するワープロ、口先に棒をくわえて打つワープロ、わずかに動く1本の指のみで打つワープロなどを使って、長い時間をかけてその原稿を書き上げたのでした。内容は随筆、短歌、手紙文、自分史など、多岐にわたっており、そのうえ、看護婦さんたちがそれぞれ原稿に合わせて手書きの絵を添えているので、一層バラエティーに富んだものになっていました。私は即座に製本化を勧め、その後、編集委員会を持つことになりました。

編集作業も進み、内科医の先生から「眼炯」という本の題名をいただいた時に、少しタイトルとしてはむずかしいのではとの意見もあり、副題を付けてくれる人を探すことになりました。その時、ふっと心に浮んだのが、同じ厚木ワード部の梅田昌子姉妹でした。彼女は快く引き受けて、お嬢さんとふたりでA4判150ページにも及ぶ原稿に目を通し、それをもとに、10日余り、一生懸命練り上げていただきました。その結果、副題もついた「眼炯——我が心ここにありき」が生まれたのです。

私は、この「眼炯——我が心ここにありき」の本の編集に当たりながら、1冊の書物がこんなにも多くの人々に良い影響を及ぼすものかと驚いたもの

残る力振り絞りワープロ打つ

相模原の北里大東病院

難病と闘う 8人が文集

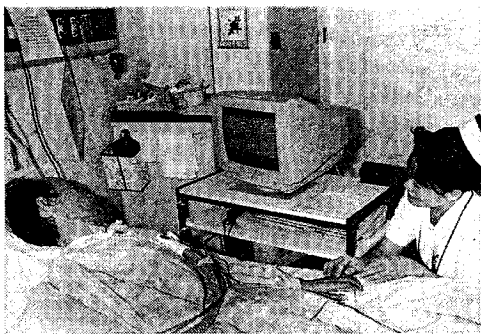
文集は患者と医師・看護婦とのコミュニケーションを図るために導入された特殊ワープロの活用によって実現した。昨年四月、5床病棟の頭山悦子嬢長が患者の一人の「一生の言葉」を文集にするのを提案、患者の家族三人とボランティア活動家の増田節雄さんまで編集委員会を結成された。

掲載されているのは、筋書きは、目が鋭く輝くまを、しさを意味する熱眼、眼光など、難病と闘う二十代から六十代の患者の作品。特殊ワープロは、目のまばたきのみで動かせる「折り折り」の「新宿残夢・百四回」「頭山悦子のかすかな動きをセンサで拾って入替する方法」などで打つ。今回はワープロで打ち出した原稿と手書き文をコピーして製本、四十四ページを作った。患者の家族や

相模原市麻溝台の北里大学東病棟に入院している難病患者八人がつづつ「製作の文集——眼炯——我が心ここにありき」(A4判、百五十五頁)が家族や看護婦、病棟ボランティアの人たちの協力で完成した。突然の発病から苦しい闘病生活、そして多くの人たちの励ましを短歌や詩などに託した文集は、患者たちの心のメッセージになっている。

増田さんらボランティアの協力で参加する患者は徐々に増え、八人となった。集中力が消耗するためワープロ作業も一時間くらいが限度。それでも楽しかった日記や過去の思い出を短歌にする患者など充実した内容になっている。看護婦たちも挿絵を描くなどバックアップした。

文集は、目が鋭く輝くまを、しさを意味する熱眼、眼光など、難病と闘う二十代から六十代の患者の作品。特殊ワープロは、目のまばたきのみで動かせる「折り折り」の「新宿残夢・百四回」「頭山悦子のかすかな動きをセンサで拾って入替する方法」などで打つ。今回はワープロで打ち出した原稿と手書き文をコピーして製本、四十四ページを作った。患者の家族や



看護婦の指導で指先の力を使いセンサ入力できるワープロを打つ

「毎日新聞」
1992年12月15日付
毎日新聞社提供

でした。患者さんや家族の方々の励みになったことは言うまでもありません。そのほか看護婦さんや婦長さん、医師や病院関係者、ほかの多くの同じ病気で苦しんでいる人々に希望をもたらした事など、枚挙にいとまがありません。新聞紙上で紹介されたのも大きな助けになりました。

筋萎縮性側索硬化症(A L S)は現代医学で治療法が見つからないと言われていた難病で、長期にわたって病状が悪化していきます。それに伴い、心理状態も不安定になり家族の方々へも暗いムードが覆いかぶさってきます。看護婦さんとそのプレッシャーに耐えきれない時があるくらいです。ところ

が本を製作していく過程が作業療法のような効果を現わし、患者さんに明るさが戻ってきたようです。自分という存在を書物に刻み込むことで、生きようとするパワーがわきあがってきたのではないのでしょうか。ある患者の奥さんは、それまでと違って積極的に友達を病院でのボランティア活動に誘うようになりました。

昨年末に出版を終えて、記事の掲載を担当した新聞記者の方から、取材後、ボランティア活動をしている人々にと励ましの手紙をいただきました。近くいくつかの看護学校からは生きた教材としてこの本を使用したいという申し出がありました。また、多くの励ま

しや本を読みたいという要望の手紙が寄せられました。

私にとっては家族、とりわけ、妻や子供たちが喜ぶ姿は、ボランティア活動を続ける励みとなっています。出版に当たり助言をしてくださった兄弟たちや、いつも病院でボランティアとして奉仕して下さる同じワード部の姉妹たちにお礼を述べたいと思います。

「われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。」(教義と聖約58:27)(ますだ・せつお 大祭司グループリーダー)

78歳で油絵の個展を開催

高崎ステーキ部桐生ワード部
大木三千枝

子供のころから絵が好きでした。絵が描きたいために、家のお勝手仕事を引き受ける約束で女学校へ行かせてもらったのです。

でも結婚後は絵を描いている余裕もなく、46歳の時に夫に先立たれ、それからは5人の子供を育てるために実家の仕事の手伝い、53歳からは保険の外交と忙しい生活を送ってきました。68歳の時にバプテスマを受けました。同居している長男家族はその10年くらい前に宣教師と出会い、バプテスマを受けていました。

70歳を過ぎて教会の責任をいただいたころより、どうしても絵が描きたいという思いにかられ、水彩画を始めました。色紙や画用紙に思うままに自分で育てた好きな花や風景の絵を描いてみました。75歳から公民館で油絵を習い始めました。始めてみたら楽しくて楽しくて、どんどんのめり込んでいきました。風景画、特にきれいな森と清流が大好きな私は、桐生のさらに奥にある梅田や石鴨、さらには、鬼怒川、

草津、谷川などの風景を書いていきました。

油絵を始めてからしばらくして、転んで右手を骨折した時は、おむすびを作って食べられないことよりも、もう絵が描けなくなるのではと思う方が悲しくて、一生懸命リハビリテーション

に努めました。数カ月が過ぎて、また筆を持たせた時はとてもうれしい思いでした。

油絵を習い始めて2年目に描いた「雪の石鴨」という題の絵が桐生市の文化祭で入賞し、奨励賞をいただいた時は大変驚きました。まもなく、画廊を経営しているひとりの女性に、個展をやってみないかと勧められました。私なんかにはできるのかしら、笑われるんじゃないのかしらと不安で、すぐに引き受ける気持ちにもなれず、何度も何度もお祈りをしました。絵を描くこ



昨年8月10日、個展の会場にて

災害で知った神の愛

釧路沖地震を経験して

札幌伝道部釧路地方部釧路支部
平岩美千子

とは自分の喜びにとどめておけばよい
と思っていたからです。けれども「町
の活性化のためにも役に立つ」と熱心
に勧められて決心しました。ところが
個展を開くためには少なくとも30枚の
絵が必要だと言われました。その時点
で描いてあった絵はたった10数枚。1
年待っていただき、34枚まで描きあげ
ました。夢中の毎日でした。夜中にな
って家族が寝静まったころになると目
が覚めて、絵筆を持つことがよくあり
ました。健康面での心配もありました
が、神様にお祈りをすると心が落ち着
きました。一番心配だったのは、人様
が私の絵を見に来てくださるかどうか
ということでした。でもいつの時も神
様が私を見守り、助けてくださいまし
た。本当に祝福された日々でした。

こうして昨年8月、78歳になって生
まれて初めて油絵の展覧会を開きまし
た。初めての経験に、感激を通り越し
て、震えがきたのを覚えています。個
展にはたくさんのかたがたが来てくだ
さいました。私のような老齢の者が頑
張っている姿を見て勇気が出たと言っ
てくださる方もありました。絵を始め
た時もステーク部長が「すばらしいこ
とを始めたね。老後は華麗なる人生を
送らなくっちゃいけない。心豊かに人
生を送ってほしい」と応援してくださ
いました。我が家の近くには山があり、
川が流れ、庭には四季折々の花が咲き
ます。とてもすばらしい神様の創造物
に囲まれて、ありがたいと感謝の心で
いっぱいの日々です。

私の人生の最大の喜びは、イエス・
キリストを信ずる信仰のあること、そ
の信仰により希望と愛が与えられ、ど
んなときにも勇気づけられ、慰めを受
けられることです。

子供や孫に残したいものは絵そのも
のだけではありません。いつも笑顔
を忘れないで、感謝の心を神様に捧げ、
信仰をもって生活をしてほしい。これ
が私の願いであり、絵筆に託している
私の証なのです。(おおき・みちえ)

グ ラグラッ。突然足元が大きく揺
れ、辺りが真っ暗になる。1993
年1月15日夜8時6分、北海道釧路沖
で地震が発生。震度6.7の激震である。

当時家族9人のうち、長男と二男と
長女は外出しており、夫と私と下の4
人の子供たちが在宅していた。

地震発生と同時に停電し、入浴して
いた子供ふたりが慌てて裸のまま浴室
から飛び出してきて、テーブルの下に
隠れる。ほかのふたりの子供はすでに
机の下に潜り込んでいた。私は子供た
ちに声をかけたまま、棒立ちになり動
けない。食器が落ちて壊れ、ストーブ
の上の容器に入った湯がこぼれた。本
箱やテレビなどが次々と倒れてきた。

すごい揺れでしばらく動けなかつた
が、少し収まると、子供たちと一緒に
すぐストーブの火を消し、ガスの元栓
を閉めた。夫が2階から「だいじょう
ぶか」と声をかけるが、廊下や階段が
ふさがれて、なかなか降りて来られ
ない。

裸で寒がる子供に、その辺にあった
衣服を着せ、靴を履かせる。

懐中電灯はしっかりと固定しておか
なかつたために、どこへ飛ばされてし

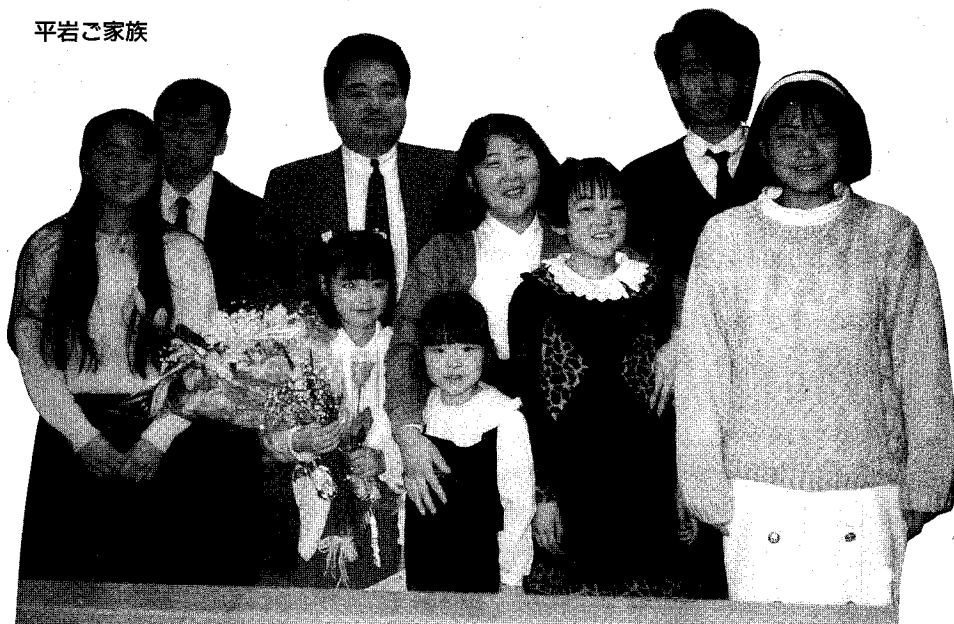
まったのか見当たらず、非常用のろう
そくをつける。部屋が暗いので車のラ
イトもつけた。辺りは壊れた食器や本
などが散乱して、足の踏み場もな
い。

30分くらい経過しただろうか。電気
がつき、みんなの顔もぱっと明るく輝
いた。子供がトイレに行きたいと言
うが、トイレの戸が開かない。窓から入
って中から開けようとしても駄目で、
とうとう錠を壊した。

あちこち見て回ったが、浴室は土台
が落ちてタイルはぐちゃぐちゃに散乱
し、居間の戸もきちんと閉まらない。
階段は浮き、壁は飛び出し、天井は落
ちてきている。外に出て見ると壁は落
ち、亀裂が至る所にできている。玄関
前の柱は根元が壊れてぶらぶら揺れて
おり、ストーブも倒れて石油がこぼれ
ている。やがて上の子供3人が帰っ
て来るが、近くの道は電線が低く垂れて
危険だったそうだ。

その夜、子供たちは服やジャンパー
を着たまま寒い中で寝たが、夫と私は
軍手、長靴姿で、徹夜で片付けをした。
「いざという時に頭を守れるよう、ヘル
メットなどはすぐ手の届く所に置い

平岩ご家族



ておくべきだった。割れたガラスや食器を入れる物が無い。ダンボール箱があればよかった。軍手は破片がささったりして危ない。」合間にはこんな反省もした。捨てないで取っておいたぼろ布はぞうきんとして大変役に立った。厚手のゴム手袋は、割れ物を持ってもけがをせず、お湯が使えないので真冬の凍りつくような水で洗いをするのに重ねて使い、何枚あっても足りないくらいだった。

翌日、ヘルパーの仕事をしている私は、休むこともできず仕事に向かった。余震の不安を感じながら、ただただ留守の間、主が家族を守ってくださるよう祈りながら……。

2日間は靴を履いたままの生活。突然のことで何かと出費が多くなり、急場をしのぐ貯蓄があったことを感謝する。とはいえあつという間に近くの店からは生鮮食料品はほとんどなくなり、携帯用のガスやコンロも姿を消した。我が家ではカセット式のガスコンロ2台と取替用のガス36本を常備していたので、ガスが使えるようになるまでの2週間、なんとか料理をすることができた。火を使う必要のない缶詰や、少しの火で調理できるもちやカップラーメンなどは重宝した。けれども魚や肉は新鮮なものが手に入らなかったの、魚の缶詰や冷凍肉をもっと多く貯蔵しておけば、よりバランスの良い食事ができたであろうと後悔する。幸い水道は使えたが、水の貯蔵はしていなかったの、水道が止まったらどうしたんだろうと考えると、ぞっとする。貯蔵の大切さを改めて実感させられた。

2日後くらいから電話が通じるようになる、5日間ほどひっきりなしに電話のベルが鳴り、片付けがはかどらない。だれかに頼んでほかの人たちに様子を伝えてもらったらよかった、と後で思った。

携帯用器具を使ってテーブルの上で調理をするので、子供たちは半ばキャンプ気分。銭湯に行って上がったからはアイスやジュースと、子供たちの方は結構楽しんでた風もある。これも家の壁が直るまでの1カ月半、持ち運びのできる石油ストーブ4台のうち2台が壊れないで使えたので、全部居間

に持ち込んで、なんとかさきま風の寒さを感じないで済んだおかげだろう。この石油ストーブは、調理用のコンロにもなり、大助かりだった。

今回の地震で失った物はいろいろあったが、この経験を通して得たものはるかに多かった。まず1年分の食糧、衣類、燃料、水などの貯蔵をし、節約して貯蓄をするようにという予言者の勧告に従うことの大切さと、その奥にある、非常時に備えができていうようにという神の深い愛を身をもって知った。釧路支部の会員のかたがたからは、入浴券、食器、たんすなどをいただき、以前に所属していた旭川のワード部や遠くで活躍している会員たちからは、数えきれないほどのお見舞いをいただいた。特に、入浴券、食器、火を使わないでもすぐに食べられ、長持

ちするおかずもの、現金などはありがたかった。毎年キャンプをともにしている昔からの信仰仲間は、徹夜で車を飛ばして、遠く札幌、小樽からこの釧路の地まで片道7時間近くかけて救援に来てくれた。家族一同「どうしてこんなに」と、驚きと喜びで幾度胸を熱くしたことだろう。

私たち家族は、これらすべての人々の愛と友情を忘れることはないだろう。その手はまさしく主のみ手そのものであったことが、私にははっきりとわかったのである。

「それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。」(コロサイ2:2)(ひらいわ・みちこ 支部扶助協会教育担当副会長)

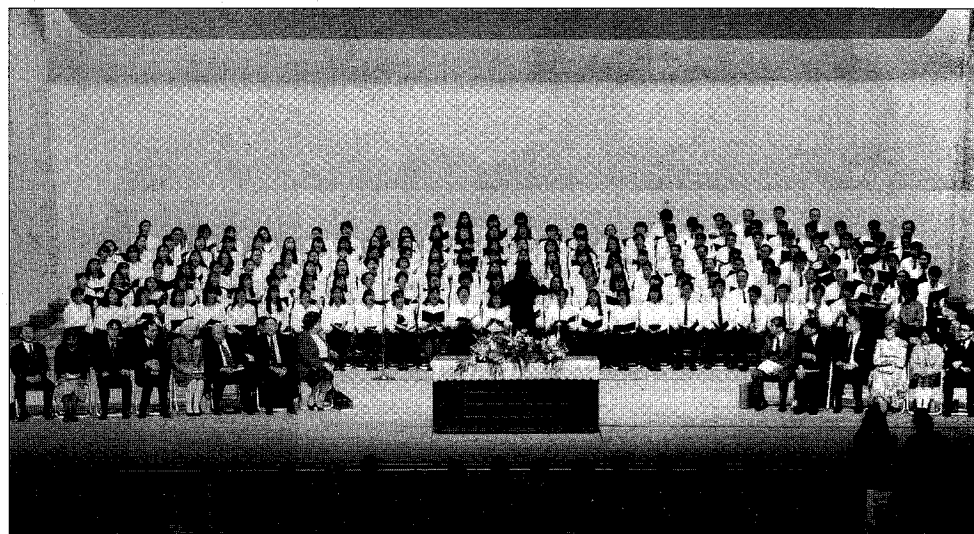
北海道地区大会開かれる

去る2月13、14の両日、十二使徒定員会会員のジョセフ・B・ワースリン長老ご夫妻と、七十人第一定員会会員でありアジア北地域会長会会長であるW・ユージン・ハンセン長老ご夫妻を迎えて、北海道地区大会が札幌市で開かれた。北海道では、約1カ月前に釧路沖で地震があったばかりで、当日の13日(土)も猛吹雪で高速道路が閉鎖されたが、予定どおり夜には厚別ワード部で神権指導者会が開かれた。翌14日(日)には、札幌市内に会場を借りて一般大会が行なわれた。出席者は合計約1,800人であった。

遠くは函館、釧路、稚内などから長

時間かけて出席し、オホーツク沿岸に住み、毎週100キロの道のりを車で教会に集っている兄弟は、猛吹雪の中を9時間かけて参加した。

大会でハンセン長老は次のように説いた。「あらゆる所で今以上に親切にし、これからの1年でひとりりを教会に連れてきてください。一時的に道をされている人々を捜し求め、心を配り、面倒を見、世話をする必要があります。伝道の業を助けて推し進めてください。青少年の皆さんは、一般社会より高い標準と視野を持ってください。そうすれば真の幸せを得られるでしょう。」またワースリン長老はこのように述べ



た。「私たちはイエス・キリストの苦しみと犠牲によって祝福を受け、福音の律法と儀式によって救いを受けます。日々サタンの誘惑を受けますが、イエスが荒野で誘惑を退けられたように、それらを拒み、退けてください。苦難の時には祈り、忍耐するならば、主に近づくことができます。生涯神の国を求め、心を込めて主のみ言葉を養い、味わい、従うなら、完成に導かれます。神殿に参入して力を受け、思いと行ない、言葉に気をつけ、戒めを守ってく

ださい。」

釧路のあるひとりの姉妹は、大会を終えて次のように語っていた。「地震後の物入りの中で交通費にかかった4万円は、私たち家族には大きな出費でした。けれども12年間も長血を患っていた女が必死で人をかきわけて、主のみ衣に触って癒された(マタイ9:20-22参照)ように、私はこの大会に出席し、ワースリン長老の『へりくだって皆様を祝福いたします』という言葉を受けて喜びで胸がいっぱいになりま

した。どんな犠牲を払っても、それに勝る祝福を受けることができたのです。」

一般大会はわずか2時間の集いであったが、参加者の多くは指導者を通して霊の鼓舞を受け、貴重な時間を過ごしたことであろう。去り難い気持ち、友情あふれたあいさつを交わしながら、北の国の聖徒たちは、それぞれの家路へ、大半がはるか速くの家に向けて三々五々散って行った。(レポート：安田琢三)

お知らせ

役員の変動

1993年2月24日から1993年3月30日までに管理本部会員統計記録課に通知があった役員の変動(敬称略)

- 名古屋西ステークス部
新ステークス部長：伊藤博康
(前任者：堀田徹)
- 東京東ステークス部鎌ヶ谷ワード部
新監督：川島晃
(前任者：池内英二)
- 東京西ステークス部府中ワード部
新監督：藤木眞治
(前任者：長田弦)
- 名古屋伝道部石川地方部金沢支部
新支部長：福元隆司
(前任者：宮原成人)
- 名古屋伝道部石川地方部兼六園支部
新支部長：川畑衛
(前任者：中村朋行)
- 神戸伝道部福知山地方部福知山支部
新支部長：吉田一樹
(前任者：鈴木正三)
- 福岡伝道部鹿児島地方部川内支部
新支部長：川原健郎
(前任者：井上博樹)
- 福岡伝道部鹿児島地方部都城支部
新支部長：永吉幸一郎
(前任者：中條節生)

新ユニット

- 静岡ステークス部 袋井支部
支部長：安間力
(1993年2月21日、浜松ワード部より分割)

アジア北地域広報委員召される

このたびアジア北地域の広報委員会が新たに組織された。広報の使命とは、最近発刊され、各神権指導者に配付された「広報手引き」によると、次のように説明されている。

『「キリストに来る様すべての人々を勧誘」し(教義と聖約20:59)、『キリストによって全く』なる(モロナイ10:32)ように招くという末日聖徒イエス・キリスト教会の使命達成を支援するために、広報部は教会のキリストを中心とする教えと教会に対する肯定的な認識を一般へ広め、人生の問題に答えを与える重要な情報源としての教会の役割を再確認し、友情と理解の架け橋を築く援助を与える。』(「広報手引き」p.2)以上の使命を踏まえて、アジア北地域の広報活動を展開していくことになる。

アジア北地域会長会によって以下の広報委員が召されたが、今後各ステークス部、伝道部、地方部などでも同様に広報ディレクターが召される予定である。

●地域広報ディレクター

井上龍一兄弟(東京東ステークス部鎌ヶ谷ワード部。写真前列中央)

●地域広報委員

柳田聡子姉妹(横浜ステークス部横浜第1ワード部。写真後列左)

野田和子姉妹(横浜ステークス部大船ワード部。写真後列右)

鮫島浩二兄弟(東京東ステークス部小岩ワード部。写真前列右)

荒川洋明兄弟(東京東ステークス部小岩ワード部。写真前列左)

柳田姉妹と野田姉妹は、2001年の日本伝道開始100周年に向けて、日本での教会史編さんを中心に活動する。鮫島兄弟と荒川兄弟は、教会員の広報意識高揚のため地域新聞を発行するなどの活動を行なう予定である。□



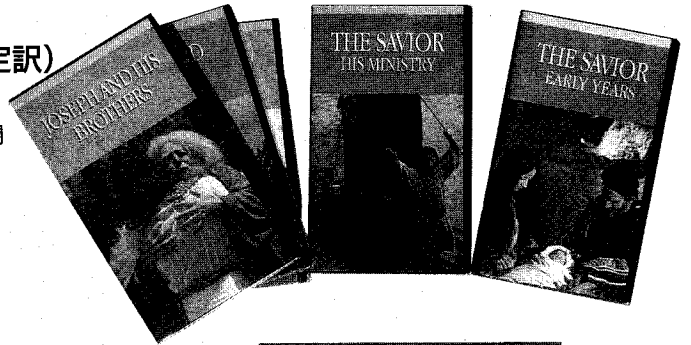
/新/輸/入/品/の/ご/案/内/

1. 「ニューメディア・バイブル」(英語版。欽定訳)
ビデオカセット VHS 価格—①~⑥各2,000円

カタログ番号 収録時間

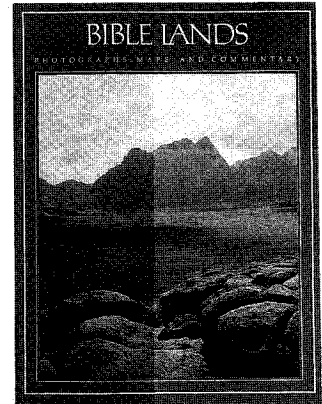
- | | | |
|------------------------|-------|-----|
| ①「天地創造/アブラハム」(創世1-22) | 53150 | 93分 |
| ②「イサクとヤコブ」(創世23-25) | 53151 | 95分 |
| ③「ヨセフと兄弟たち」(創世37-50) | 53152 | 89分 |
| ④「救い主:初期の時代」(ルカ1-8) | 53163 | 90分 |
| ⑤「救い主:伝道の時」(ルカ8-17) | 53164 | 79分 |
| ⑥「救い主:十字架と復活」(ルカ18-24) | 53165 | 81分 |

欽定訳聖書より取ったビデオ映画シリーズ(一部アニメーション)。綿密な時代考証と現地ロケーションにより、創世記と救い主の時代を見事に再現しています。ヘブライ語、アラム語、エジプト語などのせりふの上に、欽定訳聖書の英語ナレーションが重なっており、日本語版聖書と突き合わせることで、聖典学習をさらに豊かなものとすることができます。



2. 「聖書の地」(英語版) 128頁 ソフトカバー
カタログ番号—33610 横235×縦310mm 価格—1,400円

カラー印刷による写真、地図、またスペースシャトルからの航空宇宙写真を使用し、聖書の舞台となる地域の地理を鮮明に伝えてくれます。詳細な解説および索引付き。

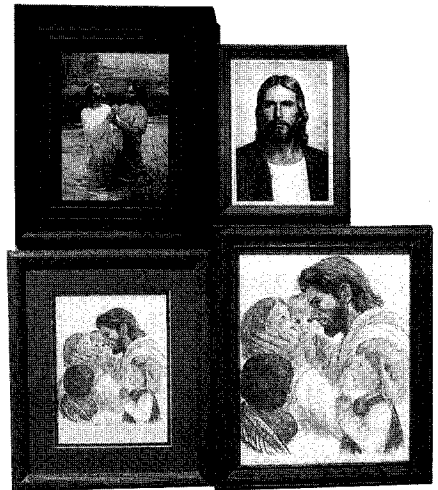


3. 額入り絵画シリーズ

カタログ番号 額寸法(横×縦) 価格

- | | | | |
|------------------|-------|-----------|--------|
| ①「主イエス・キリスト」 | 80217 | 115×165mm | 700円 |
| ②「イエスのバプテスマ」 | 80726 | 191×241mm | 1,000円 |
| ③「キリストと子供たち(中型)」 | 80239 | 228×280mm | 1,200円 |
| ④「キリストと子供たち(大型)」 | 80387 | 305×355mm | 1,500円 |
| ⑤「ゲツセマネの祈り」 | 80389 | 330×482mm | 1,500円 |
| ⑥「マリヤと復活された主」 | 80288 | 216×267mm | 1,000円 |
| ⑦「再臨」 | 80396 | 330×482mm | 1,500円 |
| ⑧「ジョセフ・スミス」 | 80279 | 216×267mm | 1,000円 |
| ⑨「ソルトレーク神殿(夜景)」 | 80261 | 216×267mm | 1,000円 |
| ⑩「ソルトレーク神殿(冬景色)」 | 80276 | 216×267mm | 1,000円 |
| ⑪「マンタイ神殿」 | 80258 | 216×267mm | 1,000円 |
| ⑫「ワシントン神殿」 | 80283 | 216×267mm | 1,000円 |

いずれも「オーク材」あるいは「くるみ材」による額入り絵画です。



4月に召された専任宣教師

第165期生20人



後列左から1-8, 中列左から9-15, 前列左から16-20

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 高畑洋介	東京S/ひばりヶ丘W	札幌伝道部
2. 城田裕太郎	神戸M/福知山D/相生B	札幌伝道部
3. 石井格	東京S/所沢W	神戸伝道部
4. 青木敏洋	福岡M/熊本D/長嶺B	神戸伝道部
5. 小林環	札幌S/豊平W	東京南伝道部
6. 古谷佳寛	大阪S/関目B	福岡伝道部
7. 島袋武秀	沖縄S/名護B	東京南伝道部
8. 島木泰徳	札幌S/千歳恵庭B	東京北伝道部
9. 井優子	神戸S/明石W	札幌伝道部
10. 栗原未果	横浜S/上大岡W	札幌伝道部
11. 得能三佳	神戸S/北六甲B	仙台伝道部
12. 横山保子	札幌S/厚別W	仙台伝道部
13. 藤田大仁	札幌S/白石W	東京南伝道部
14. 高田仁	仙台S/青葉W	東京北伝道部
15. 村上徳高	東京東S/八千代W	名古屋伝道部
16. 島崎美香	仙台S/上杉W	東京北伝道部
17. 井雅子	神戸S/明石W	東京北伝道部
18. 大橋理江子	仙台S/長町W	東京北伝道部
19. 三浦香	仙台S/長町W	東京北伝道部
20. 梅田愉佳子	高崎S/熊谷W	大阪伝道部

M: 伝道部, S: スターキ部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

皆さんの原稿を募集しています

◆今までに出会った、信仰を鼓舞し、問題解決の糸口を与えてくれた聖句や指導者の教え、本誌からの記事、あるいはそれらを実践して受けた祝福などの体験談。また、ご家族で工夫して行なっている「家庭の夕べ」の実例、あるいは体験談をお寄せください。

◆ご投稿の際は以下の要領で、写真を添えてお送りください。（「家庭の夕べ」の場合は家族構成を明示し、必ず、家族または実際に行なっている場面の写真をお送りください）

テーマ：私の生活を変えた聖句、教え、または、我が家の家庭の夕べ

字数：400字詰め原稿用紙2, 3枚相当(時期, 場所など, 状況がわかる説明文を含む)

その他記載事項：連絡先(住所, 電話番号), 教会での責任(役職名), 所属ユニット名, 生年(編集作業の参考のため)

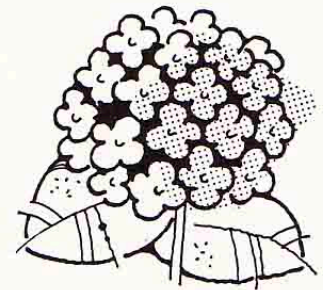
締め切り：毎月10日

あて先：〒150東京都渋谷区桜丘町28-8 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

電話03(5489)9251

ファクシミリ03(5489)9254

◆お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。







「インディアンへの伝道」 ウィンフレッド・R・ガイスラー画

1855年、モルモン経とブリガム・ヤングからの親書を携えた宣教師が、ワイオミング州ウインドリバーのショショーニインディアンの居留地に赴いた。

インディアンのしゅう長、ワシャキーはこの贈り物を受け入れ、部族の指導者たちにこう語った。

「雲の上におられる御父がブリガム・ヤングという方に宣教師を遣わすよう告げられたのだ。」これが、ワシャキーしゅう長と末日聖徒の間の長い友好の始まりとなった。





 オルフussteeキ部(上)とコペンハーゲンsteeキ部(下)の青少年は、ほかの教会員たちとともに、デンマークにおいて力強く義の業を推し進めている。(本誌「デンマークの海、土地、そして人々」pp. 36—45参照。写真撮影ジャイルズ・H・フローレンス Jr.)